

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七八〇	安永9	9/28~	竹本座	新版歌祭文	<p>ざまやしろのだん（男徳齋）、のざき村のだん（口文字）、のざきのだん（奥組）、長町の段（町、芳）、あぶら屋のだん（口男徳齋）、あぶらやの段（中咲）、同切（かけ合菅・武・組）。</p> <p>※角書「おそめ／久松」。</p> <p>※役割は辻町文庫蔵絵尽に、その他は京都大学図書館蔵、山本九兵衛・鱗形屋孫兵衛・天満屋源治郎版七行正本に拠る。</p> <p>※京都大学図書館蔵本所載の浄瑠璃太夫連名は「組、咲、磯、武、卯、光、帆、男徳齋、三輪、塚、伊和、菅、芳、文字、三根」。</p> <p>※『闇の磔』に「竹本男徳齋 おそめの座摩の場は腹をかゝへました」、「竹本組太夫 おそめはきついお手がら近国へもひゞく大当りしかしかたり口はやはり前方の方がようござる」、「竹本咲太夫 お染の下ノ巻は出来ました」、「竹沢弥七 其翌年南へ御出座又々政文との御出合（中略）お染は全く御兩人（組太夫・弥七のことか）の御手柄」、「吉田才治 お染の節油やの後家うしろを見せられた時は毎度ながら諸見物の大悦びでござつた」、「吉田才蔵 此（天明元年、時代織室町錦繡）跡（以前の意カ）のお染にて勤六はきつい大出来／＼」、「若竹武十郎此（上同）跡のおそめなどこれほど申ほどの事なし」とある（『義太夫年表 近世篇』）。</p> <p>※『浪華日記行』に「十月廿四日 道頓堀なる竹本の、芝居に罷侍りしにお染久松歌祭文、作文数度の差しかへ、味ひもぬけて古めかしく、太夫に声なし節もなし、漸三の切迄見、油屋の段跡にして、すご／＼宿へ立帰りぬ」とある（『義太夫年表 近世篇』）。</p>	久松（貫次郎）、小介（音蔵）、すゞ木弥忠太（太吉）、だはのかん六（才蔵）、おそめ（武十郎）、久作（冠蔵）、おみつ（才治）、ごけおかつ（才治）、あぶらやごけ（勢蔵）、うばおせう（勢蔵）。
△ 一七八一カ	安永10カ	2/24~	竹本座	（新版歌祭文）	<p>※『闇の磔』、吉田才蔵評に、「此度時代おりにて松永赤松左衛門いづれも出来ます松永も手強てよいぞ／＼此跡のお染にて勤六はきつい大出来／＼」とあり、安永9年9月の上演での『新版歌祭文』をさすか、或いは、天明元年2月24日初演、『時代織室町錦＝（糸＋肅）』の切に『新版歌祭文』が同時上演されたか不明（『義太夫年表 近代篇』）。</p>	（不明）
△ 一七八一以後	天明1以後	7	稲荷社内	おそめ久松新板歌祭文	<p>長町の段（元）、油屋の段（口重、奥咲）。</p> <p>※上演年の推定は神津武男「竹本撰津大掾旧蔵人形浄瑠璃番付集について一成立と伝来、および細目の紹介一」（『国文学研究資料館紀要』第29号）に、その他は黒石陽子「早稲田大学演劇博物館所蔵黒木勘蔵旧蔵透写浄瑠璃番付について（二）（明和）」（『演劇研究』第20号）に拠る。</p>	久まつ（源蔵）、手代小介（東作）、弥忠太（文五郎）、かん六（虎蔵）、おそめ（門二）、あぶらやごけ（東十郎）、久松うは（勢蔵）。
一七八五 ～ 一七八九頃	天明後半		名古屋 若宮御社内	新板歌祭文	<p>座磨の段（口杣、切代々）、野崎村の段（口代々、切組）。</p> <p>※角書「おそめ／久松」。</p> <p>※「若宮御社内座敷浄瑠璃興行」（番付）。</p>	久まつ（平三郎）、手代小助（竹八）、鈴木弥忠太（伊三郎）、だば勤六（孫市）、おそめ（貫次郎）、久さく（冠蔵）、久作女房（伊三郎）、おみつ（文蔵）、おそめはゝ（平次郎）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七九七	寛政9	閏7/18~	大坂	新板歌祭文	野崎むらのだん（湊、梶）。 ※一座の顔触れから寛政9年とする『近世邦楽年表 義太夫節之部』に従う。番付書込みに「寛政九年巳閏七口十八日」とある。劇場は未詳だが、紋下欄（元祖 豊竹越前少掾／末流 太夫本 豊竹巳の助）などにより大阪とみなす。	久まつ（平五郎）、小介（東工）、おそめ（東十郎）、久さく（勘十郎）、女房（栄蔵）、おみ口（磯五郎）、油やこけ（勢蔵）。
一七九八	寛政10	6/5以後	江戸 肥前座	野咲むらのだん	（御目見へ出かたり 下り 志賀＝勘五郎）。 ※角書「お染／久松」。	久松（重兵衛）、お染（弥市）、久作（清次）、久作女ほう（定次郎）、久さく娘おみつ（新七）、おそめはゞ（弥太郎）。
一七九八	寛政10	9/3~	北ほり江市の かわ西かわ芝居	新板歌ざいもん	野崎村のだん（鐘、越）。 ※角書「おそめ／久松」。	久松（佐吉）、久三小介（万吉）、おそめ（磯五郎）、百しやう久さく（岩五郎）、同娘おみつ（十三郎）、あぶらやごけ（音五郎）。
一八〇〇	寛政12	9/9~	北之新地芝居	新板歌ざいもん	座摩のたん（中）、野崎村の段（口組、切内匠）、長町のたん（口坂、おく曾根）、油屋のだん（口吾、切咲）、同奥（かけ合吾・泉・坂・町）。 ※角書「お染／久まつ」。	ひさまつ（大五郎）、久三小介（新吾）、浪人左忠太（三吾）、だはのかん六（千四）、あふらやおそめ（虎蔵）、のさきの久さく（新吾）、久さく女房（栄三郎）、おみつ（重三郎）、後家おかつ（辰五郎）、うばおしやう（重五郎）。
一八〇四	文化1	8/15~	北ほり江市の 側西かは芝居	増補新板歌祭文	天満小山屋の段（口秀、おく伊勢）、油屋のだん（口泉、中重、切咲）、とうげの段（口茂、おく千賀）、在所のだん（口巴、切内匠、跡文）。 ※角書「おそめ／久松」。 ※正本（作者 佐川魚麻呂）所載の「浄瑠璃太夫三味線役割」には「天満小屋の段（口秀＝東吉、おく伊勢＝宗六）、油屋のだん（口泉＝三二、中重＝伊左衛門、切咲＝伝吉）、峠の段（口茂＝宗六、おく千賀＝伝吉）、在所のだん（口巴＝伊左衛門、切内匠＝権右衛門、跡文＝音吉）」とある。	久まつ（大五郎）、だはのかん六（音五郎）、おそめ（虎蔵）、久さく（千四）、おみ木（重三郎）、おかつ（東作）。
一八〇八	文化5	2/12~	道頓堀大西芝居	新板歌ざいもん 上下	座摩のだん（かけ合鐘・津賀・錦）、野崎村のだん（口鐘、切政）、長町のだん（宮戸）、油屋のたん（口津賀、切中、おくかけ合巴・淀・錦）。 ※角書「おそめ／久松」。	久松（仙次郎）、久三小介（才二）、すゞき弥忠太（東十郎）、たはの勘六（千四）、おそめ（辰造）、久さく（音五郎）、久さく娘おみつ（辰造）、ごけおかつ（冠十郎）、うばお庄（音五郎）。
一八〇八	文化5	2/21~	大西芝居	新板歌祭文	野崎村のだん（口鐘、切政）。	久まつ（千治郎）、久三小介（才治）、おそめ（才治）、久さく（音五郎）、ばゞ（重三郎）、おみつ（辰造）、うはおかつ（冠十郎）。
一八〇九	文化6	5/8~	天神境内芝居	新板歌祭文	野崎むらの段（口重、鐘）。 ※角書「おそめ／久松」。 ※「庭すゞみざしきあやつり」（みどり浄瑠璃）の内。	久まつ（千次郎）、手代小助（冠三）、おそめ（門蔵）、おみつ（辰造）、おそめ母（才九郎）。

「新版歌祭文」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八一二	文化9	9/26~	いなり社内	新板歌ざいもん 上下	野崎村の段(口綾、切綱)、油屋の段(口君、切津賀、おくかけ合むら・灘・千代・みの)。 ※角書「お染／久松」。 ※語り「きいてきもんの角やしきになにはの早咲こほれかゝる情のたね油は恋のしらしぼり／大しんたいの山がやにの崎のはつ恋み木を其儘つぎ木の色直しは中からの染もやう」。	久松(小六)、小介(新吾)、弥忠太(紋子)、だはの勘六(金吾)、おそめ(金吾)、久さく(大五郎)、久さく女ぼう(八十郎)、おみつ(国八)、お染はゝ(新吾)、うば(東蔵)。
一八一六	文化13	1/2~	江戸 結城座	新版歌祭文	野崎村の段(御目見江出語り口沢、切下りむら)。 ※角書「お染／久松」。	久まつ(半三良)、手代小介(新十良)、おそめ(伊三良)、久作(清五良)、久作女房(新七)、おみつ(熊次良)、油屋の女房(六三)。
一八一八	文化15	3/25~	いなり境内	新板哥さいもん	野崎村の段(口源、切綱)、長町の段(房)、油屋の段(口要、切中、かけ合筆・むら・勝・峰)。 ※角書「おそめ／久松」。	久松(仙助)、小介(兵吉)、弥忠太(冠三)、だはの勘六(千四)、おそめ(辰五郎)、久作(音五郎)、久作女房(吉蔵)、おみつ(新二)、後家おかつ(東十郎)、うばお庄(千柳)。
一八二〇	文政3	11/1~	いなり社内	新板哥さいもん	野崎村の段(口むら、切綱)、長町の段(紋)、油屋の段(口梶、切中、跡惣かけ合)。 ※角書「お染／久松」。	久松(千助)、小助(進治)、弥忠太(政右衛門)、だはの勘六(兵吉)、娘お染(才治)、久作(千四)、久作女房(虎蔵)、おみつ(辰五郎)、お染はゝ(辰五郎)、久松乳母(東十郎)。
一八二〇	文政3	11/11~	いなり社内	新板歌ざいもん	野崎の段(口むら、切綱)、長町の段(紋)、油屋の段(口梶、切中、惣かけ合)。 ※角書「お染／久松」。 ※11月1日よりの稲荷社内芝居の前浄瑠璃を替えたもの。	久松(千助)、手代小介(進治)、弥忠太(政右衛門)、だはの勘六(兵吉)、娘お染(才治)、久作(千四)、久作女房(虎蔵)、おみつ(辰五郎)、お染はゝ(辰五郎)、久松乳母(東十郎)。
一八二一	文政4	2/20~	御霊社内	新板哥ざいもん	野崎村の段(口祖、切内匠)。	久松(三吾)、おそめ(重五郎)、久作(冠四)、おみつ(伝七)、お染母(重三郎)。
一八二四	文政7	5/1~	座摩社内	新板歌祭文	野崎村の段(口生駒、切筆)、長町の段(口菅、おく鐘)、油屋の段(口音、切若、かけ合生駒・勝・半・八木・杣・鐘)。 ※角書「おそめ／久待」。	久まつ(新四)、小介(金四)、弥忠太(田吉)、勘六(金吾)、おそめ(東十郎)、久さく(冠四)、娘おみつ(国八)、おそめ母(国八)、うばおせう(冠四)。
一八二四	文政7	閏8/23~	名古屋 橋町常芝居	新板歌祭文	野崎村の段(口源、切内匠)。	久まつ(定蔵)、小すけ(左吉)、おそめ(朝七)、久さく(与吉)、はゝ(友八)、おみつ(伝七)、おそめはゝ(弥三郎)。
一八二四	文政7	11/7~	三河 吉田芝居	新板歌祭文	野崎村の段(口源、切内匠)。	久まつ(定蔵)、小すけ(左吉)、おそめ(朝七)、久さく(与吉)、はゝ(友八)、おみつ(伝七)、おそめはゝ(弥三郎)。
一八二六	文政9	9/15~	京 四条道場芝居	新板歌祭文	野崎村の段(口佐賀、切筆)。 ※角書「於染／久松」。	久まつ(冠三)、小すけ(辰助)、おそめ(辰造)、久さく(兵吉)、おみつ(さん吾)、ばゝ(弥太郎)、おそめはゝ(辰五郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八二六	文政9	10/14~	兵庫 兵庫芝居	新板歌祭文	野崎村の段(口 佐賀、切 筆)。 ※角書「おそめ／久松」。	久松(冠三)、小助(辰助)、娘おそめ(辰造)、久さく(兵吉)、おみつ母(弥太郎)、おみつ(三吾)、おそめ母(辰五郎)。
一八二七	文政10	9	堺 堺大寺芝居	のざき村	のざき村だん(口 鐘、切 筆)。 ※角書「おそめ／久松」。	久まつ(駒吉)、手代小介(新二)、おそめ(辰介)、久作(兵吉)、久作女房(東五郎)、おみつ(辰造)、おそめ母(鬼市)。
一八二八	文政11	3/27~	座摩社内	新板歌祭文 上下	座摩社のだん(口 音羽、中 文、おく 千賀)、野崎村の段(口 多磨、中 馬、切 高麗)、長町のだん(三根)、油屋のだん(口 路、切 音)、蔵の段(かけ合 八十・和・文)。 ※角書「おそめ／久まつ」。 ※語り「聞て鬼門の角やしきになにはの室咲こほれかゝる情のたね油は昔のしらしぼり／大身代の山家や二野崎の初梅みきを其まゝつぎ木の色直しは中興の染もやう」。	でつち久まつ(十九二)、下人小介(冠四)、弥忠太(吉之介)、だはの勘六(新吾)、娘おそめ(新四)、野崎村久さく(冠四)、娘おみつ(新吾)、後家おかつ(冠三)、乳母おせう(鬼市)。
一八二九	文政12	2/26~	御霊社内	新板歌祭文 中の巻	野崎むらのだん(口 谷、おく 鐘、口 絹、切 筆)。 ※角書「おそめ／久まつ」。	久まつ(十九二)、久三小介(金吾)、鈴木弥忠太(右造)、だはの勘六(朝右衛門)、おそめ(国八)、野崎村久さく(金四)、娘おみつ(小六)、おそめ母おかつ(新四)。
一八二九	文政12	9	京 四条南側大芝居	染模様妹背門松	野崎むらの段(口 浜戸、切 高麗)。 ※「お染／久松」。 ※顔見世番付には「於染／久松 新板歌祭文 野崎村のだん 竹本高麗太夫」とある。	久まつ(清八)、手代小七(金四)、おそめ(新吾)、久さく(千四)、おみつ母(弥太郎)、おみつ(さんご)。
一八三二	天保3	1/29~	北ほり江市の 側芝居	新板歌ざいもん 上下	座摩の前ノ段(富)、野崎村の段(口 高、中 千賀、切 住)、油屋のだん(口 島、切 巴)。 ※角書「おそめ／久松」。 ※語り「きいてきもんの角やしきになにはの室咲こほれかゝる情のたね油は昔のしらしぼり／大身代の山がやに野崎のはつ梅みきを其儘つき木の色直しは中からの染もやう」。	でつち久松(新三郎)、下男小介(新吾)、弥忠太(文吾)、だはの勘六(弥三郎)、娘おそめ(小辰)、野崎村久さく(よ十)、久作女房(三左衛門)、娘おみつ(辰五郎)、おそめ母(辰造)、乳母お庄(重五郎)。
一八三二	天保3	10/26~	いなり社内	新板歌祭文 上下	座摩の前ノ段(長門)、野崎村の段(口 久、切 重)、油屋のだん(口 谷、切 むら)、蔵の段(島、跡 湊)。 ※角書「おそめ／久松」。 ※二代目鶴沢清八旧蔵番付には、「蔵の段」の竹本島太夫の上に「ハバ」、三味線欄の竹沢弥七の上に「重太夫三味」、鶴沢勝右衛門の上に「長門太夫三味・此後に清七」、鶴沢勝造の上に「むら太三味」等の書込みがある。	久まつ(門三)、手代小介(岩五郎)、佐忠太(十九二)、だはノ勘六(金四)、娘おそめ(小辰)、百性久作(門蔵)、久作女房(朝之助)、おみつ(辰五良)、おそめ母(清七)、乳母お庄(辰五良)。
一八三三	天保4	5/23~	御霊社内	新板歌祭文	座摩前の段(口 滝、おく 当磨)、野崎村の段(口 当能、切 組)、長町の段(実)、油屋の段(口 錦、切 磯=燕三)。 ※角書「おそめ／久まつ」。 ※別番付の人形役割は「娘おみつ・油や後家おかつ(国八)、娘おそめ(喜十郎)、山家や佐四郎(源吾)」。 ※『染太夫一代記』には「切狂言『お染久松』二幕／野崎村の段 巴／座摩の段 実／油屋の段 若」とあり、役割が相違する。	久まつ(新三)、久三小介(源十郎)、弥忠太(伊十郎)、勘六(東十郎)、娘おそめ(国八)、久さく(新吾)、久作女房(寛鬼)、娘おみつ(東十郎)、油や後家おかつ(喜十郎)、乳母お庄(文吾)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八三四	天保5	2/19~	名古屋 清寿院御境内 芝居	歌 さいもん	野崎村ノ段(口筆戸、切筆)。 ※角書「お染ノ久松」。	久松(松介)、小介(八十八)、おそめ(辰治)、久さく(千四)、ば(才介)、おみつ(三吾)、お染は(三吾)。
△ 一八三五	天保6	6/24~	伏見 鐘木町芝居	新 板 歌 祭 文	野崎村の段(口さと、中寿、切住)。 ※角書「おそめノ久まつ」。 ※神津武男「竹本撰津大掾旧蔵人形浄瑠璃番付集について一成立と伝来、および細目の紹介」(『国文学研究資料館紀要』第29号)に拠る。	久まつ(新五郎)、小助(金四)、おそめ(門三)、久さく(門造)、久さく女房(八十助)、おみつ(辰五郎)、おそめは(清五郎)。
一八三五	天保6	11/13~	いなり境内	新 板 歌 祭 文	野崎村のだん(口巴勢、切住)、油屋のだん(口綾、切長門)。 ※角書「おそめノ久松」。	でつち久松(三四)、下男小介(とく蔵)、弥忠太(十九二)、だはの勘六(金四)、娘おそめ(猪三郎)、野崎久さく(門蔵)、久作女房(清五郎)、娘おみつ(辰五良)、おそめ母(門三)、久松乳母(辰五良)。
一八三九	天保10	9	ほり江市ノ側 芝居	新 板 歌 祭 文	野崎村のだん(口錦木、切筆)。 ※角書「おそめノ久まつ」。	久まつ(咲造)、下人小介(文四)、おそめ(新吾)、久さく(文三)、おみつは(文四)、おみつ(清十郎)、おそめは(八蝶)。
一八三九	天保10	10	ほり江市ノ側 芝居	新 板 歌 祭 文	野崎村のだん(口錦木、切筆)。 ※角書「おそめノ久まつ」。 ※前項と一連の興行と思われるが、番付の月が異なる。	久まつ(咲造)、下人小介(文四)、おそめ(新吾)、久さく(文三)、おみつは(文四)、おみつ(清十郎)、おそめは(八蝶)。
一八四二	天保13	2/13~	市之側此太夫 芝居	新 板 歌 祭 文 上下	野崎村のだん(口佐賀、切氏)、油屋のだん(口多満、切若=清左衛門)。 ※角書「お染ノ久松」。	でつち久松(辰之助)、下人小助(新吾)、弥忠太(猪造)、だは勘六(江戸国五郎)、おそめ(重八)、百性久作(新吾)、おみつ母(入造)、おみつ(清十郎)、後家おはつ(国八)、乳母おせう(八蝶)。
一八四二	天保13	7/29~	江戸 薩 摩 座	新 板 歌 祭 文	野崎村のだん(口津瑠、切播磨)。 ※角書「おそめノ久松」。 ※『中村座天保日記』、『続歌舞妓年代記』、『旧記拾要集』等の記事から、番付記載の初日の予定は、実際には8月4日に延びたかと思われる(『義太夫年表 近世篇』)。	久まつ(千助)、小介(久太郎)、おそめ(清五郎)、百せう久作(千四)、おみつは(力造)、おみつ(伊三郎)、おそめは(文四)。
△ 一八四四	天保15	2/25~	徳島 長 見 寺	(野 崎 村)	(氏)。 ※『元木家記録』に拠る。	
一八四五	弘化2	1	道頓堀竹田芝 居	歌 祭 文	座摩の前の段(君登)、野崎村のだん(多賀、鞆)。	久まつ(徳十)、手代小介(猪造)、おそめ(咲造)、久さく(門蔵)、久さく女房(歌六)、おみつ(辰造)、お染母(新五郎)。
一八四五	弘化2	4/2~	四ツ橋南へ入 浜	野 さ き 村	(むら)。 ※角書「おそめノ久松」。 ※「みどり浄る番組」の内。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一八四五	弘化2	11	名古屋 若宮御社内	新板歌祭文	野崎村之段(口 むめ、切 むら)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※この番付には人形役名と人形遣い名の対応関係に明確でない部分がある。	久まつ(重太郎)、小介(音吉)、おそめ(三吾)、久作(伝七)、おみつ(八蝶)、おかつ(重五郎)。	
一八四七	弘化4	3	西宮 西の宮芝居	新板歌祭文	野崎村のだん(口 理、切 むら)、道行(かけ合)。 ※角書「お染ノ久松」。	久松(重太郎)、手代小介(音吉)、おそめ(新五郎)、久さく(徳蔵)、娘おみつ(三吾)、お染母(文三)。	
一八四七	弘化4	9	道頓堀竹田芝居	新板歌祭文	座摩前のだん(口 雛、おく 島)、油屋のだん(口 広、切 田組=宗六)、道行 夢路地蔵廻り(かけ合 雛・千代・住戸)。 ※角書「おそめノ久まつ」。 ※『染模様妹背門松』の可能性も。	久松(冠三)、下男小介(猪造)、左忠太(玉造)、だはノ勘六(門蔵)、娘おそめ(辰造)、おそめ母(新五郎)、久松乳母(徳造)。	
一八四九	嘉永2	4	京 四条南側大芝居	染模様妹背門松	野崎村ノ段(二見、組)。 ※角書「おそめノ久まつ」。 ※太夫役割を(口 二見、切 組)とする別番付もある。	丁稚久松(徳十郎)、手代小介(馬丸)、おそめ(東作)、百性久さく(門蔵)、おみつ(新五郎)、おそめはゞ(八蝶)。	
△	一八四九	嘉永2	6	横 堀 芝 居	(野 崎 村)	(若)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※『染太夫一代記』に拠る。 ※『染太夫一代記』には「『お染ノ久松 野崎村』若太夫人形入り」とあるが、この興行のものとみられる『義太夫年表 近世篇』所載番付には「『染模様妹背門松』「質屋のたん 切 豊竹若太夫ノ豊沢団平」とある。	(不明)
一八五〇	嘉永3	11	道頓堀竹田芝居	新板歌祭文	野崎村の段(口 理、切 田組)。 ※角書「おそめノ久まつ」。 ※別番付の人形役割は「久松(新五郎)、お染母(文三)」。	久松(市松)、久作(文三)、おそめ(大次郎)、おみつ(新五郎)、お染母(喜十郎)。	
一八五一	嘉永4	8	清 水 町 浜	歌 祭 文	油やのたん(当久=仙八)。 ※角書「おそめノ久まつ」。		
一八五一	嘉永4	11	道頓堀竹田芝居	新板歌祭文	野崎むら。 ※角書「おそめノ久松」。 ※素人の太夫による浄瑠璃興行。	小介(文蝶)、おそめ(新三)、久さく(門蔵)、おみつ(新五郎)、おそめ母(文蝶)。	
一八五二	嘉永5	8/16~	京 寺町道場南新 小屋	新板歌祭文	野崎村之段(文事 むら)、油や之段(田組=猿糸)。 ※角書「おそめノ久まつ」。		
一八五二	嘉永5	10/10~	京 寺町四条道場	新板歌祭文 下ノ巻	野崎村(四綱軒)。 ※角書「おそめノ久松」。 ※「かけゑ」浄瑠璃興行。		
△	一八五二	嘉永5	11/1	法 善 寺	(新版歌祭文)	野さき(小鞆)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五三	嘉永6	11/28	播州 明石平松山	(新版歌祭文)	野ざきむら(田組)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
△	一八五三	嘉永6	11	兵庫 兵庫定芝居	新板歌祭文	油屋のだん（口 森、切 多満）、野崎邑のだん（口 由良、切 富司）。 ※角書「お染ノ久松」。	久松（才枝）、おそめ（小竹）、久作（喜十郎）、おみつ（国八）、お染母（大造）。
	一八五三	嘉永6	12/1	播州 明石平松山	（歌 祭 文）	（田組）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
	一八五四	嘉永7	4	新築地清水町 浜小家	新板歌祭文	ざまの前のだん（田喜）、野崎村之段（中 当久、切 湊）、油屋のだん（中 佐賀、切 田組）。 ※角書「お染ノ久松」。	
	一八五六	安政3	5/5～	京 寺町道場寺内 新席	新板歌祭文	油や飯碗のだん（浜＝亀祐）。 ※「カゲエ」浄瑠璃興行。	
	一八五七	安政4	11/1～	いなり社内東	新板歌祭文 上下	座摩の前のだん（口 音賀、おく 多満）、野さき村の段（中 弥、切 長登）、油屋のたん（口 田喜、切 染）。 ※角書「お染ノ久松」。	
	一八五八	安政5	3/3～	京 四条南側大芝 居	野 崎 村	（津賀＝源吉）。 ※角書「お染ノ久松」。	
	一八五八	安政5	3/3～	京 四条南側大芝 居	油 や ノ 段	（多満＝浅造）。 ※角書「お染ノ久松」。 ※『染模様妹背門松』の可能性も。	
	一八五八	安政5	8/15	京 寺町寅薬師席	[]	（小津賀＝広市）。 ※角書「おそめノ久松」。 ※上演外題未詳。 ※『染模様妹背門松』の可能性も。	
	一八六二	文久2	10/2～	京 寺町和泉式部 境内	新板歌祭文 下ノ巻	野崎邑の段（阿蘇＝竜糸）。 ※角書「お染ノ久松」。	
△	一八六三	文久3	1/16～	紀州 谷 川	（歌 祭 文）	野崎（米）、油屋段（長子）。 ※角書「お染ノ久松」。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
	一八六五	元治2	1/5～	京 四条道場北ノ 小家	野 崎 村	（阿蘇＝清治）。 ※角書「お染ノ久松」。 ※素浄瑠璃。	
△	一八六五	元治2	1/11	紀州 和 歌 山	（歌 祭 文）	油や（長子）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八六五	元治2	1/12	紀州 和 歌 山	（新版歌祭文）	油屋（長子）。 ※『弥太夫日記』に拠る。 ※『染模様妹背門松』の可能性も。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八六五	元治2	3	いなり東小家	新板歌祭文	座摩の前のだん(口浪登、奥多満)、野崎村のだん(中佐賀、切春)。 ※角書「おそめ/久松」。 ※『撰津大掾出演手控』に「野崎村 春太夫 右替り相勤ル」とあり、水谷不倒著『竹本撰津大掾』も「野崎村」他の代役の好評が「出世の端緒」となったと記す。	久まつ(玉三郎)、手代小助(喜十郎)、鈴木弥忠太(玉之助)、おそめ(玉蝶)、百性久作(才治)、久作女房(玉五郎)、おみつ(松江)、母おかつ(玉造)。
一八六六	慶応2	6/18~	京四條北側大芝居	野崎村	(咲=友次郎)。 ※角書「お染/久松」。 ※別番付には「鶴沢友次郎」の上に「伝吉事」とある。	
一八六七	慶応3	3/27~	京四條道場北ノ小家	新板歌祭文	野崎むらノ段(相模=竜糸、津賀=弥七・ツレ 団六・喜代七)。 ※角書「お染/久松」。	
一八六七	慶応3	12/8~	京四條北側芝居	野崎村之段	(津賀=豊吉)。 ※角書「お染/久松」。	
一八六九	明治2	12/10~	京都北側大芝居	野崎村	(津賀)。 ※角書「おそめ/久松」。 ※上演年次は推定。	
一八七〇	明治3	1/2~	京都四條道場北ノ小家	新板歌祭文	野崎村のたん(口絹、切津賀)。 ※角書「お染/久松」。	
一八七〇	明治3	6	京都四條道場芝居	新板歌祭文	野崎村のたん(口津、切津賀)。 ※角書「お染/久松」。	丁稚久松(東助)、下人小介(万治)、おそめ(歌緑)、百性久作(金四)、久作女房(才丸)、おみつ(清十郎)。
一八七一	明治4	1	座摩社内	新板歌祭文	野崎村のだん(口嶋、切津賀)。 ※角書「おそめ/久まつ」。 ※「太夫欄「新板歌祭文」ハ張付箋」(『義太夫年表 明治篇』)。	(不明)
一八七一カ	明治4カ	3	京都北側大芝居	野崎村之段	(嶋=弥三郎)。 ※角書「お染/久松」。 ※典拠とした番付には興行年次に関する記載が見当たらない。『中西仁智雄コレクション 浄瑠璃番付写真集』には明治5年とあるが、『義太夫年表 明治篇』欄外記事、八世竹本綱太夫『でんでん虫』に従い、明治4年とした。	
△一八七一	明治4	12/9~	京都寺町北向芝居	野崎村	(町=広造)。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一八七二	明治5	1/2~	京都北側大芝居	野崎村	(駒=吉弥)。 ※角書「おそめ/久松」。 ※素浄瑠璃。	
一八七二	明治5	9	若太夫芝居	野崎村ノ段	(口鰻、切久)。 ※角書「お染/久松」。 ※首振芝居。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八七四	明治7	6	松嶋文楽座	新 板 歌 祭 文 上 下	座摩の前の段（口 須磨、奥 弥）、野崎村の段（中 中、切 春）。 ※角書「おそめ／久松」。 ※「弥太夫、下痢ノタメ六月十九日ヨリ六月中休座シ七月一日ヨリ出ル」（『義太夫年表 明治篇』）。	丁稚久松（小兵吉）、下人小介（玉助）、鈴木弥忠太（兵吉）、娘おそめ（鹿造）、百姓久作（玉造）、久作女房（小玉）、娘おみつ（辰造）、母おかつ（玉之助）。
一八七四	明治7	6	堀 江 芝 居	新 板 歌 祭 文	野崎村の段（口 鞆登、中 津、切 古鞆）。 ※角書「おそめ／久松」。	久まつ（兵造）、下人小介（兵三）、むすめおそめ（辰太郎）、久作（金四）、おみつの母（信吉改 辰一）、娘おみつ（東十郎）、おそめはゝ（門造）。
一八七四	明治7	11/1~14	名古屋 末 広 座	野 崎 村	（茂）。 ※角書「お染／久松」。 ※浄瑠璃身振り。初日・千穂楽は『勾欄類見聞』に拠る。	
一八七五	明治8	11	竹 田 芝 居	野 崎 村	（春＝団平）。 ※角書「おそめ／久松」。 ※素浄瑠璃。	
一八七六	明治9	1/1~	天満大工町芝 居	野 崎 村	（〔不明〕＝団平）。 ※角書「お染／久松」。 ※「浄瑠璃緑りの鉢植」の内。	
一八七六	明治9	3	松嶋文楽座	新 版 歌 祭 文	野崎村の段（中 津、切 越路）、道行浪花の賑ひ（路・長子・弥の・栄）。 ※「三月九日ヨリ卅八日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	丁稚久まつ（小兵吉）、小助（光造）、むすめお染（小玉）、百姓久作（玉之助）、久作女房（松江）、娘おみつ（玉造）、母おかつ（東十郎）。
一八七七	明治10	2/13~	弁 天 座	野 崎 村	（新三郎）。 ※故人太鼓卯之助追善「過し日の／其年月も／めぐり来て 連営手向の薫樹 礼拝三度」の内。 ※日程は番付欄外の墨書に拠る。	
一八七八	明治11	3	大 江 橋 席	新 板 歌 祭 文	野崎村の段（房、鞆栄、津）。 ※角書「おそめ／久松」。	久松（辰之助）、手代小介（友造）、娘おそめ（冠四）、百しやう久作（金四）、娘おみつ（才治）、おそめ母（友造）。
一八七八	明治11	12	松嶋文楽座	新 板 歌 祭 文	油屋の段（中 長子、切 津）。 ※「十二月三日ヨリ」（『義太夫年表 明治篇』）。	丁稚久松（辰吉）、久三小介（紋十郎）、鈴木弥忠太（玉太郎）、タハの勘八（玉助）、おそめ（小玉）、後家おかつ（東十郎）、乳母お十（鹿造）。
一八七九	明治12	2	京都 せいぐわんじ 本堂まへ定席 夷 谷 座	染模様妹背門松	しち店の段（操）、野崎村の段（君）。 ※角書「お染／久松」。 ※浄瑠璃身振り。	
一八八一	明治14	4	京都 せいぐわんじ 本堂前定席 夷 谷 座	新 版 歌 祭 文 上 下	小山やの段（初＝友三郎）、油やの段（三輪＝玉助）。 ※角書「お染／久松」。 ※上るりみふり。 ※『染模様妹背門松』の可能性も。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一八八一	明治14	8/21~9/7 カ	京都 北側	お染久松 久作住家の段(津)。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。 ※『増補浄瑠璃大系図』には「歌祭文 野崎村の段 口 竹本袖太夫、竹本津太夫」とある。	
	一八八三	明治16	3	京都 せいぐわんじ 本堂前定席 夷谷座	新版歌祭文 野崎村のだん(嶋戸=文作)。 ※浄瑠璃身振。	
	一八八三	明治16	4	松嶋文楽座	新版歌祭文 上下 つがひ蝶夢路のたわむれ(むら・春栄・成、おそめ久松善六地ぞう尊 狸鬼女魁大臣赤鬼天女 右九役早かわりにて相つとめ申候 吉田玉 造)、野崎村のだん(中 弥、切 越路)。 ※角書「おそめ久松」。 ※紋下に越路・玉造の二人、三味線欄に紋下格の團平を二重枠にする 番付と、越路・團平・玉造、三人紋下の番付と2種の番付あり。 ※筋書(和田喜板)の太夫三味線役割は「つがひ蝶夢路の戯れ(む ら・春栄・弥津・成=清次郎・庄次郎・小弥七・小十・広松)、野崎 村の段(弥=重造、越路=団平・ツレ 勝七)」。	久まつ(亀松)、久三小介(紋三郎)、娘お そめ(玉助)、親久作(玉造)、久作女房 (東十郎)、娘おみつ(紋十郎)、後家おか つ(鹿造)。
	一八八四	明治17	3	彦六座	新版歌祭文 上下 野崎村の段(中 町、切 春子)、道行浮名の咲分(シテ 芳・ワキ 若 靱=*友松・ツレ 越磨・ツレ 組与)。 ※角書「お染久松」。	久松(卯之助)、手代小介(辰枝)、娘お染 (松江)、百姓久作(小辰造)、久作女房 (為十郎)、むすめお光(才治)、母おかつ (喜市)。
△	一八八五	明治18	10/31~ 11/18	東京 猿若町一丁目 文楽座	(新版歌祭文) 野崎村の段(多門、津=才治)。 ※竹本越路太夫・吉田玉造の一座。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	(不明)
	一八八六	明治19	2	松嶋文楽座	新版歌祭文 油やのだん(中 梶栄、次 織)、野崎村のだん(中 南部、切 越 路)。 ※「二月廿日ヨリ廿一日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	丁稚久松(玉米)、娘おそめ(玉造)、百姓 久作(紋十郎)、おみつ(玉助)、母かつ (鹿造改 玉之助)。
	一八八七	明治20	12/1~	彦六座	新版歌祭文 座摩社のだん(此)、野崎村のだん(中 越、切 住)、油やのだん (口 田喜、切 組、此所出つかひにて御覧に入申候)。 ※角書「おそめ久松」。 ※「十二月一日ヨリ十三日マデ十三日間」(『義太夫年表 明治 篇』)。	丁児久松(玉松)、手代小介(光造)、浪人 弥忠太(玉米)、油しめ勘六(辰五郎)、む すめおそめ(紋造)、百姓久作(才治)、娘 おみつ(亀松)、油や主おかつ(三吾)。
△	一八八八	明治21	1/25	京都 南側劇場	(お染久松) 野崎村の段(津=広助・ツレ 鶴太郎)。 ※文楽座。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八八八	明治21	8/1	名古屋 千歳座	(お染久松) 野崎村(津=広助・ツレ 勝鳳・鶴太郎)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八八九	明治22	1/24	京都 北の劇場	(お染久松) 野崎村の段(津=広助)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八八九	明治22	4/1~	彦六座	新版歌祭文	野崎村の段(山登、越=*吉三郎、此所惣出つかひにて御覧に入申候)、油やの段(朝香、七五三、此)、恋の初春道行(芳・朝の・組登・八重加・七々子、此所惣出つかひにて御覧に入申候)。	丁稚久まつ(玉米)、手代小介(辰五郎)、鈴木弥忠太(小友)、たばの勘六(兵吉)、娘お染(玉松)、百姓久作(光造)、娘おみつ(亀松)、久作女房(三吾)、後家お勝(鹿造)、乳母お庄(三吾)。
△	一八八九	明治22	8/10	京都 北側演劇場	(お染久松) 野崎村の段(越路=広助)。 ※文楽座、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八八九	明治22	12/14 12/24	名古屋 千歳座	(お染久松) 野崎村の段(越路=広助)。 油やの段(路=鶴太郎)。 ※竹本越路太夫・豊沢広介一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。 ※『染模様妹背門松』の可能性も。	
	一八九〇	明治23	4	御霊文楽座	新版歌祭文 野崎村の段(中文、切 東京下り 相生=*八兵衛)。 ※角書「おそめ/久松」。 ※「四月十三日より五月四日迄廿一(廿二)日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	久松(金之助)、おそめ(玉助)、百姓久作(玉造)、久作女房(玉五郎)、おみつ(紋十郎)、お染はゞ(玉治)。
△	一八九〇	明治23	4/26	名古屋 千歳座	(おそめ久松) 野崎村の段(大隅=団平)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九一	明治24	1/4	名古屋 末広座	(お染久松) 油屋の段(路=花助)。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。 ※『染模様妹背門松』の可能性も。	
	一八九一	明治24	1/28~	彦六座	新版歌祭文 上下 野崎村(中生嶋)、久作内の段(切 朝、此所出つかひにて御覧に入申候)、道行 引抜春駒 所作事(田喜・芳・朝路・七々子、此所惣出つかひにて御覧に入候)。 ※角書「おそめ/久松」。	久松引抜男春駒(玉松)、手代小介(宗十郎)、おそめ(紋之助)、百しよう久作(亀松)、娘おみつ(玉米)、油やおかつ(鹿造)。
△	一八九二	明治25	1/26	京都 北座	染模様妹背門松 野崎村(相生=鶴太郎)。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九二	明治25	7/22 7/26	名古屋 千歳座	(お染久松) 野崎村(相生=鶴太郎)。 油屋の段(初お目見得 久=寛次郎)。 ※文楽・彦六両座合併「大阪浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。 ※『染模様妹背門松』の可能性も。	
△	一八九二	明治25	8/12 8/17	名古屋 笑福座	(お染久松) 野崎村(相生)。 (おそめ久松) 油屋(久)。 ※相生太夫・久太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。 ※『染模様妹背門松』の可能性も。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八九二	明治25	11	御霊文楽座	新版歌祭文	座摩の前の段（口久、奥谷）、野崎村の段（中相生、切越路）、油やの段（中文、切呂）。 ※「十一月十八日より十二月九日まで廿二日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	久松（卯三郎）、久三小介（金之郎）、鈴木左忠太（松江）、油絞り勘六（玉助）、娘おそめ（玉五郎）、親久作（玉造）、久作女房（兵三）、娘お光（紋十郎）、母おかつ（玉治）、乳母お庄（玉亀）。
△	一八九三	明治26	3/9	京都北座	（お染久松）野崎村場（相生）。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	8/2	名古屋末広座	（おそめ久松）野崎村の段（相生＝勝右衛門）。	
		8/11		（お染久松）野崎村（越路＝広助）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一八九三	明治26	8/23	京都南座	（お染久松）野崎村（津）。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九三	明治26	10/19	名古屋千歳座	（お染久松）野崎村（大隅＝団平・ツレ友松）。 ※大隅太夫・豊沢団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	2/6	京都南座	（お染久松）野崎村（綾）。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八九四	明治27	3/26～	稲荷座	新版歌祭文 座摩の前の段（口組栄、奥新朝）、油屋の段（中長子、切弥）。 ※「廿八日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	久松（栄三）、手代小介（玉松）、弥忠太（玉米）、駄々の勘六（清十郎）、娘お染（三十郎）、母おかつ（松江）、乳母お庄（三吾）。
△	一八九四	明治27	7/15	名古屋新守座	（お染久松）野崎村（綾＝勝七）。 ※綾太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	7/25	名古屋宝生座	（お染久松）野崎村（高尾）。 ※綾太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九四	明治27	11/15～	稲荷座	新版歌祭文 野崎村の段（伊達＝*友松、大隅＝団平）、道行浮世の咲分（菅・角・雛・一）。 ※角書「お染／久松」。	久松（簗助）、手代小介（栄寿）、娘お染（栄三）、久作（玉松）、お光母（三吾）、お光（玉米）、お染の母（三十郎）。
	一八九五	明治28	4	御霊文楽座	新板歌祭文 座摩の前の段（口尾上、奥さの）、野崎村の段（中路、切越路）。 ※「四月十三日より五月廿九日まで」（『義太夫年表 明治篇』）。	丁稚久松（玉助）、手代小介（金之助）、鈴木左忠太（玉朝）、駄々の勘六（鹿呂七）、娘お染（亀松）、親久作（玉造）、久作女房（玉亀）、娘お光（紋十郎）、母おかつ（玉五郎）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一八九五	明治28	7/31	京都南座	(野崎村) (鶴尾=吉作)。 ※角書「お染/久松」。 ※呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九五	明治28	8/9	名古屋千歳座	(お染久松) 野崎村(さの=大造)。 ※大坂文楽、豊竹呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九五	明治28	9/23	東京新声館	(新版歌祭文) 野崎村(若浜=鶴助)。 ※第2回義太夫演芸会。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	
	一八九五	明治28	11	御霊文楽座	新版歌祭文 油屋のだん(中鶴尾、切綾)。 ※「十一月十三日ヨリ十二月十日マデ廿八日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	丁稚久松(卯三郎)、小介(金之助)、鈴木弥忠太(玉朝)、油紋り勘六(玉助)、おそめ(玉六)、後家おかつ(亀松)、乳母お庄(玉五郎)。
	一八九五	明治28	12/14	浪花座	野崎村 (大隅=団平・友松)。 ※義太夫・稲荷座総一座。	
△	一八九六	明治29	2/5	名古屋千歳座	(お染久松) 野崎村(越=小団治・ツレ松之助)。 ※竹本越太夫・七五三太夫・新朝太夫・菅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	2/18	名古屋千歳座	(お染久松) 野崎村(越)。 ※竹本越太夫。前項の二の替り。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	7/26	京都南座	(お染久松) 野崎村(高尾)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九六	明治29	8/7	名古屋末広座	(新板奇(マ)祭文) お染久松 野崎村の段(大隅=団平)。 ※大隅太夫・団平一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	2/1~	東京新声館	(新版歌祭文) 歌祭文の段(鏝=芳三郎)、久作内の段(相生=大造・ツレ芳三郎・燕二)。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	久松(新造)、久作(兵吉)、娘おみつ(国五郎)。
△	一八九七	明治30	3/4	名古屋音羽座	(お染久松) 野崎村(相生=大造・ツレ伝四)。 ※竹本相生太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	3/19	名古屋蓬座	(お染久松) 野崎村(相生=大造・ツレ伝四)。 ※相生太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九七	明治30	6/9~	稲荷座	新版歌祭文 座摩の前のだん(口隅栄、奥長子)、油や飯碗のだん(中小隅、切組、此所出つかひにて御覧に入申候)。 ※角書「おそめ/久松」。	久松(徳之助)、番頭小助(玉松)、侍弥忠太(栄寿)、油紋り勘六(玉米)、娘おそめ(亀松)、母おかつ(福松)、乳母お庄(簗助)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八九七	明治30	7/1~	御霊文楽座	新版歌祭文	野崎村のだん(中 七五三、切 津=*吉兵衛)、道行のだん(鶴尾・呂嶋・越登)。 ※角書「おそめ/久松」。 ※「七月一日ヨリ十九日マデ十八日間、七月十六日、十七日ハ祭禮ニツキ休演」(『義太夫年表 明治篇』)。	でっち久松(助太郎)、小介(玉朝)、ダハの勘六(玉助)、娘おそめ(金之助)、親久作(玉造)、娘お光(玉助)、母おかつ(玉五郎)。
△	一八九七	明治30 7/15 7/16	名古屋 千歳座	(お染久松)	野崎村(朝=松太郎・ツレ 仙昇)。 油屋(組)。 ※組太夫・朝太夫・生島太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。 ※『染模様妹背門松』の可能性も。	
△	一八九七	明治30	7/30	京都 南座	(野崎村) (津=吉兵衛)。 ※角書「お染/久松」。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	10/30	京都 南座	(野崎村) (さの=大造・ツレ 力之助)。 ※角書「お染/久松」。 ※竹本さの太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八九八	明治31	3	稲荷座	新版歌祭文 野崎村のだん(口 隅栄、中 菅、切 住)、徳庵堤のだん(弥雲)。 ※角書「お染/久松」。	丁児久松(簗助)、下男小助(鶴松)、娘お染(玉松)、百しやう久作(門造)、久松母(玉子)、おみつ(駒十郎)、お染母(三十郎)。
△	一八九八	明治31	8/9	京都 南座	(お染久松) 野崎村(文字)。 ※竹本文字大夫(佐野太夫改め)・竹本文太夫・竹本七五三太夫・竹本高尾太夫等の一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	12/14 12/21	名古屋 御園座	(新版歌祭文) (おそめ久松) 野崎村の段(大隅=叶・ツレ 卯三郎)。 野崎村(朝=松太郎・ツレ 団之助)。 ※大阪 大隈(マ)一座・東京 朝太夫一座による「京阪合併浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	
△	一八九九	明治32	3/17	名古屋 末広座	おそめ久松 野崎村(総かけ合)。 ※大阪稲荷座若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	7/19	東京 歌舞伎座	(新版歌祭文) 野崎村(大隅=叶)。 ※素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一八九九	明治32	7/29	京都 南座	(野崎村) (越路=吉兵衛)。 ※角書「お染/久松」。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
		7/30		(お染久松)	油屋(文字=猿糸)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。 ※『染模様妹背門松』の可能性も。		
△	一九〇〇	明治33	3	御霊文楽座	新板歌祭文	野崎村のだん(中司、切文字)。 ※「三月一日ヨリ四月廿九日マデ六十日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	久松(玉助)、久三小介(助太郎)、娘おそめ(玉造)、親久作(金之助)、久作女房(玉治)、娘おみつ(紋十郎)、母おかつ(三吾)。
△	一九〇〇	明治33	7/31	京都南座	(お染久松)	野崎むら(越路)。 ※文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	12/6	名古屋末広座	(おそめ久松)	野崎村(大隅=叶・ツレ 団友)。 ※明楽座一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九〇一	明治34	2/3~	明楽座	新板哥祭文	座摩の前のだん(口加賀、奥生嶋)、野崎村のだん(中春子、切大隅=叶)、道行(雛・一・弥=王へんに玉)・立身・津子・子友)。	丁稚久松(栄三)、手代小介(玉治郎)、油屋勘六(友造)、娘お染(玉松)、父久作(兵吉)、久作女房(清十郎)、娘おみつ(玉五郎)、後家お勝(門造)、油屋の後家(簀之助)。
△	一九〇一	明治34	2/5	名古屋御園座	(お染)	野崎村(小隅=力松)。 ※竹本組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	6/12	名古屋千歳座	(新坂(マ)歌祭文)	野崎村の段(伊達)。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	7/23	名古屋歌舞伎座	(おそめ久松)	野崎村(越路=吉兵衛)。 ※越路太夫・文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	8/20	京都幾代亭	(お染久松)	野崎村(小隅)。 ※組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	8/25	名古屋末広座	(お染久松)	野崎村久作家(大隅=叶)。 ※大坂明楽座、竹本大隅太夫・鶴沢叶一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	12/8	名古屋末広座	(於染久松)	野崎村(住=小団二)。	
		12/14	(お染久松)		野崎村(雛=団丸)。 ※住太夫・朝太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	一九〇一	明治34	12/10	東京歌舞伎座	(おそめ久松)	野崎村(大隅=叶)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇二	明治35	2/20	名古屋御園座	(新版歌祭文) 野崎村の段(文字=吉弥)。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九〇二	明治35	4	御霊文楽座	新板歌祭文 座摩前のだん(口源子、奥南部)、野崎村のだん(中染=*竹三郎、切越路)。 ※「四月十八日より五月廿八日マデ四十日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	丁稚久松(助太郎)、久三小介(玉治)、鈴木佐忠太(玉丸)、勘六(清吉)、娘おそめ(玉助)、親久作(玉造)、久作ばば(小友)、娘お光(紋十郎)、後家おかつ(三吾)。
△	一九〇二	明治35	8/3~5カ	東京明治座	(新版歌祭文) 野崎村。 ※義太夫常磐津合同公演。 ※『明治座評判記』は8月2日からの公演とする。 ※『演芸世界』第18号に拠る。	お光(紋十郎)。
△	一九〇二	明治35	8/8	京都南座	(野崎村) (文字=吉弥)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	9/6	京都岩神座	(お染久松) 野崎村(大隅)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	12/22	名古屋千歳座	(新版歌祭文) 野崎村(住=小団治)。 ※「大坂文楽明楽合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九〇三	明治36	1/1~	明楽座	新板歌祭文 野崎村のだん(中長子、切組)。 ※「コノ興行限り明楽座瓦解」(『義太夫年表 明治篇』)。	悴久松(鬼笑)、手代小介(光ル)、娘おそめ(玉五郎)、親久作(門造)、娘おみつ(玉松)、久作女房(兵三)、油屋おかつ(清十郎)。
△	一九〇三	明治36	8/18	名古屋御園座	(新版歌祭文) 野崎村の段(越路=吉弥)。 ※竹本文字太夫改三代目竹本越路太夫改名披露。素浄瑠璃。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	9/3	京都南座	(野崎村) (越路=吉弥)。 ※文字太夫改め越路太夫・むら太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	9/11	京都千本座	(野崎村) (越路)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	9/21~27	京都南座	(歌祭文) 野崎村(住=小団治)。 ※玉造・紋十郎一座。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	久松(助太郎)、久三小助(玉治)、お染(玉助)、久作(玉造)、久作女房(紋之助)、お光(紋十郎)、お染母(紋左衛門)。
△	一九〇四	明治37	7/23	名古屋御園座	(お染久松) 野崎村(越路)。 ※越路太夫・文太夫・南都太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇四	明治37	8/4	京都 歌舞伎座	(野崎村) (越路=吉弥)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	12/20	角座	(新版歌祭文) 野崎村(大隅)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	12/22	東京 歌舞伎座	(お染久松) 野崎村(摂津大掾=吉兵衛・ツレ 寛治郎)。 ※大阪文楽義太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	1/22 1/23	京都 朝日座	(野崎村) (伊達=市二郎)。 (好友=仙八)。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	2/23	名古屋 新守座	(お染久松) 野崎の段(住)。 ※竹本住太夫・竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九〇五	明治38	6	御霊文楽座	新版歌祭文 座摩社烏居前の段(口 越喜、奥 文=*勝鳳)、野崎村の段(中 南部、切 摂津大掾)、油屋の段(中 富=*竹三郎、切 七五三)。 ※「六月六日ヨリ七月七日マデ卅一日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	丁稚久松(栄三)、久三小介(多み蔵)、鈴木弥忠太(玉六)、駄々の勘六(門造)、娘おそめ(助太郎)、親久作(紋十郎)、久作女房(玉亀)、娘おみつ(玉助)、母おかつ(三吾)、乳母お庄(玉五郎)。
△	一九〇五	明治38	6/7	京都 岩神座	(野崎村) (伊達)。 ※竹本伊達太夫・竹本長子太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	7/13	名古屋 新守座	(お染久松) 野崎村(文)。 ※竹本文太夫一座による「大阪/文楽若手浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	7/22	東京 歌舞伎座	(新版歌祭文) 野崎(大隅=清六)。 ※竹本大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	8/20	京都 南座	(野崎) (南部=猿糸)。 ※大阪文楽座青年連、南部太夫・猿糸一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇五	明治38	12/15	京都 明治座	(野崎村) (大隅)。 ※摂津大掾・大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	2/7	京都 南座	(野崎村) (住)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	2/19	京都 岩神座	(野崎村) (住)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇六	明治39	7/24	京都 歌舞伎座	(野崎村) (大隅)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	8/9	名古屋 末広座	(新版歌祭文) 野崎村(総掛合)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	8/10	名古屋 歌舞伎座	(お染久松) 野崎村(津ばめ)。 ※竹本津ばめ太夫ほかによる「大阪若手浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九〇六	明治39	9/30~	堀江座	新版歌祭文 油屋のだん(中君、切長子、此所人形出遣いにて御覧に入候)、道 行のだん(お染一角・久松一ツツレ 生勢・敷嶋)。 ※角書「お染久松」。	丁稚久松(玉市)、手代小介(玉松)、鈴木 弥忠太(光ル)、油人勘六(兵吉)、娘おそ め(小兵吉)、後家おかつ(東助)、母お庄 (冠四)。
△	一九〇六	明治39	12/7	名古屋 末広座	(新版歌祭文) 野崎村(朝=松太郎)。 ※朝太夫・松太郎一座、住太夫・龍助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九〇七	明治40	1/2~	堀江座	新版歌祭文 野崎村の段(中 鑊=*猿治郎、切 伊達=*市治郎)。 ※角書「お染久松」。	丁稚久松(玉市)、手代小介(冠四)、娘お そめ(玉松)、父久作(玉治)、野崎ば (東助)、娘おみつ(簗助)、後家おかつ (小兵吉)。
△	一九〇七	明治40	12/16	名古屋 御園座	(新版歌祭文) 野崎村の段(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫・メ太夫・南部太夫・時太夫一座。素浄 瑠璃。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	7/15	名古屋 御園座	(新版歌祭文) 野崎村の段(摂津大掾=広助・ツレ 綱次郎)。 ※大阪文楽一座。竹本摂津大掾名古屋一世一代。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	8/10	京都 南座	(野崎村) (大隅)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	8/13	中座	(野崎村) (大隅)。 ※竹本大隅太夫・豊沢団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	9/11	京都 南座	(野崎村) (越路=吉兵衛)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	9/17	京都 岩神座	(野崎村) (文)。 ※文太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	10/28	京都 大宮座	(野崎) (薩摩)。 ※大阪文楽若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九〇八	明治41	12/11	名古屋 御園座	(新版歌祭文) 野崎村(生島改め大島)。 ※「大阪文楽・堀江合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	12/15	東京 歌舞伎座	(新版歌祭文) 野崎(越路=吉兵衛)。 ※竹本摂津大掾一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	2/20	京都 南座	(野崎村) (越路)。 ※文楽一座、越路太夫・村太夫・南部太夫・呂太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇九	明治42	3/1~	堀江座	新版歌祭文 野崎村のだん(中 鑿、切 伊達=吉三郎)、地蔵巡りのだん(お染一 鑿・久松一寿・ツレ 里・隅登・生栄、此所人形出遣にて御覧に申 候)。 ※角書「お染/久松」。	丁稚久松(玉吉)、手代小介(紋三)、娘お そめ(政亀)、親久作(東吉)、久作女房 (文造)、おみつ(小兵吉)、後家おかつ (兵枝)。
△	一九〇九	明治42	7/29	名古屋 千歳座	(新版歌祭文) 野崎村(伊達=吉三郎)。 ※竹本伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	8/23	名古屋 御園座	(新版歌祭文) 野崎村の段(越路)。 ※大阪文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	9/7	京都 南座	(野崎村) (越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽一座、越路太夫・南部太夫・鶴尾太夫・常子太夫・古靱太 夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	9/28	京都 夷谷座	(新版歌祭文) 野崎村(岡)。 ※野沢金之助主催の素人浄瑠璃大会に岡太夫スケ。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	2/6	名古屋 千歳座	(お染久松) 野崎村(鳴門=善次郎)。 ※呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	7/6	名古屋 末広座	(お染久松) 野崎村(大隅=団平)。 ※大隅太夫・団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	7/21	名古屋 御園座	(新版歌祭文) 野崎村(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座附竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	8/17	京都 国華座	(野崎村) (越路=吉兵衛)。 ※越路太夫・津太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	10/22	京都 明治座	(野崎村) (古靱)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九一〇	明治43	11/1~	堀江座	新版歌祭文	油屋のだん(中米、切長子)、道行地藏廻り(里・栄・春見・東・春次)。 ※角書「お染ノ久松」。	でっち久松(兵次)、手代小介(小兵吉)、鈴木弥忠太(光ル)、油しめ勘六(政亀)、娘おそめ(玉三)、油屋おかつ(東吉)、母お正(冠四)。
△	一九一〇	明治43	12/11	名古屋千歳座	(新版歌祭文) 野崎(薩摩)。 ※豊竹薩摩太夫・小鞠太夫・薩喜太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	12/11	名古屋御園座	(新版歌祭文) 野崎村の段(古鞠=清六)。 ※大阪文楽座、越路太夫・七五三太夫・古鞠太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一一	明治44	1/2~	御霊文楽座	新版歌祭文 野崎村のだん(中呂、切越路=吉兵衛)、油屋のだん(中静、切津)。 ※「一月二日ヨリ二月十二日マデ四十(四十二)日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	久松(玉七)、下男小介(多為蔵)、弥忠太(玉子)、油絞り勘六(玉治郎)、娘お染(三左衛門)、親久作(文三)、久作女房(紋之助)、おみつ(栄三)、後家おかつ(玉五郎)、お庄(亀三郎)。
△	一九一一	明治44	2/21~23カ	名古屋朝日座	(新版歌祭文) 野崎(薩摩)。 ※浄瑠璃身振演劇。大阪文楽薩摩太夫一行に中京素人浄瑠璃連。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	3/26	名古屋御園座	(新版歌祭文) 野崎村の段(南部=猿糸)。 ※竹本南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	7/12	京都歌舞伎座	(野崎村) (越路=吉兵衛)。 ※文楽一座、越路一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	8/6 8/14	浪花座	(野崎村) (越路)。 (古鞠)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	9/4	明楽座	(新版歌祭文) 野崎村(叶)。 ※竹本津太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	10/8	名古屋末広座	(新版歌祭文) 野崎村(伊達=吉三郎)。 ※「大阪堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	10/14~	名古屋吾妻座	(新版歌祭文) 野崎村。 ※大阪初上り吉田清五郎一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
	一九一二	明治45	1	近松座	新版歌祭文 座摩の前のだん(口毎日替栄//組代事琴=*竜太郎//大嶋)、野崎村のだん(中長子、切大隅=*団平)。 ※近松座第1回興行。 ※「一月十三日ヨリ二月廿日マデ」(『義太夫年表 明治篇』)。	丁稚久松(駒次)、下男小介(玉市)、左忠太(東吉)、油メ勘六(勇昇)、娘おそめ(小兵吉)、百姓久作(駒十郎)、久作女房(冠四)、娘おみつ(文五郎)、後家おかつ(小伊三郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一三	明治45	4/12 4/16	京都 開盛座	(野崎村) (鳴門)。 (寿)。 ※近松座若手連中。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	明治45	7/19	浪花座	(新版歌祭文) 野崎村(越路)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一三	大正1	12/8	東京 新富座	(新版歌祭文) 野崎(越路=吉兵衛)。 ※素浄瑠璃。 ※『演芸倶楽部』(大正2年1月号)に拠る。	
△	一九一三	大正1	12/23	京都 明治座	(野崎) ※女流義太夫呂昇一座に文楽人形入り。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	久松(玉子)、おそめ(玉七)、久作(多為蔵)、おみつ(栄三)、母おかつ(玉五郎)。
△	一九一三	大正2	2/8	京都 南座	(野崎村) (大隅=団平)。 ※大阪近松座引越し、大隅一派。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	3/22	松嶋文芸館	(新版歌祭文) 野崎村(鑊)。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。 ※劇場未詳。大阪カ。	
△	一九一三	大正2	7/1~	台湾	(新版歌祭文) 野崎村(大隅)。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	一九一三	大正2	9/20~	御霊文楽座	新版歌祭文 野崎村のだん(中富=*三二、切南部=*友治郎・ツレ*燕四)。 ※「十月十六日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	丁稚久松(玉七)、手代小介(玉治郎)、娘お染(多為蔵)、百姓久作(文三)、久作女房(亀三郎)、娘おみつ(栄三)、母おかつ(琴糸)。
△	一九一三	大正2	11/10	名古屋 帝国座	(新版歌祭文) 野崎村(伊達=猿二郎)。 ※近松座、竹本伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一三	大正2	12/1~	近松座	新版歌祭文 一幕 野崎村のだん(中三笠=*吉作、切春子=*新左エ門・ツレ*吉郎、此所人形出遣ひにて御覧二入申候)。 ※角書「お染/久松」。 ※「十二月十日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	久松(玉市)、久三小介(小兵吉)、娘お染(政亀)、親久作(玉蔵)、久作女房(冠四)、おみつ(文五郎)、後家おかつ(小伊三郎)。
△	一九一三	大正2	12/10	東京 新富座	(新版歌祭文) 野崎(越路=吉兵衛)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一三	大正2	12/11	東京 明治座	(新版歌祭文) 野崎(錦=団平・ツレ 団市)。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一四	大正3	5/7	京都 岩神座	(野崎村) (鑊)。 ※大阪文楽座、鑊太夫・団六ほか。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一四	大正3	7/15	京都 南座	(野崎村) (南部=広作)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』、『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一四	大正3	7/22	名古屋 御園座	(新版歌祭文) 野崎村(南部=広作)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九一四	大正3	8/7	東京 新富座	(新版歌祭文) 野崎(叶=寛治郎)。 ※素浄瑠璃。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事、『松竹百年史』に拠る。	
△	一九一四	大正3	12/14~15	名古屋 御園座	(新版歌祭文) 野崎村(越路)。 ※大阪文楽座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	7/15	浪花座	(新版歌祭文) 野崎村(越路)。 ※「浄瑠璃大会」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』、『松竹百年史』に拠る。	
△	一九一五	大正4	7/21	名古屋 御園座	(新版歌祭文) 野崎村(古靱=清六)。 ※越路太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	12/1	名古屋 御園座	(新版歌祭文) 野崎村(越路=吉兵衛・ツレ友之助)。 ※大阪御霊文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九一五	大正4	12/17	名古屋 末広座	(新版歌祭文) 野崎(伊達=吉三郎)。 ※竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
	一九一六	大正5	4/20~	御霊文楽座	新版歌祭文 野崎村のだん(切古靱=*清六・ツレ*芳之介)。 ※「五月十六日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	丁稚久松(玉市)、娘お染(文五郎)、親久作(多為蔵)、久作女房(三吾)、娘お光(栄三)、後家おかつ(玉七)。
△	一九一六	大正5	5/13	名古屋 末広座	(新版歌祭文) 野崎村(春子=新左衛門)。 ※竹本春子太夫・鶴沢寛六等外十数名の大一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	7/8 7/14	浪花座	(野崎村) (朝=松太郎)。 (錦)。 ※竹本朝太夫・豊沢松太郎、近松座、錦・弥・角太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	8/6	京都 明治座	(お染久松) 野崎村(朝)。 ※竹本朝太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九一六	大正5	10/1~	近松座	新版歌祭文	野崎村のだん(雛=新造・ツレ 団造/三郎)、所作事 道行地藏廻りのだん(米・松重・弥の・春美・米穂・組栄=毎日替り 龍市/吉郎・毎日替り 勝童/団市・吉子・丸子・力造・団造・団伊三・竹弥)。 ※浄瑠璃身振。	
△	一九一六	大正5	12/5	東京歌舞伎座	(新版歌祭文) 野崎(越路=吉兵衛)。 ※文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
	一九一七	大正6	2/5~	京都竹豊座	新版歌祭文 野崎村のだん(中 三笠=*榎之助、切 春子=*新左エ門・ツレ *新之助)。 ※「二月二十日春子太夫感冒のため突然千秋楽」(『義太夫年表 大正篇』)。	丁稚久松(兵次)、下男小助(兵枝)、娘おそめ(紋太郎)、親久作(辰五郎)、久作女房(東三郎)、娘おみつ(小兵吉)、後家お勝(玉米)。
△	一九一七	大正6	5/5	名古屋末広座	(新版歌祭文) 野崎村(古靱=清六・ツレ 芳之助)。 ※豊竹古靱太夫・鶴沢清六一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	7/14	京都南座	(お染久松) 野崎村(越路=吉兵衛)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』、『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一七	大正6	7/14	名古屋末広座	(新版歌祭文) 野崎村(錦=団六・ツレ 団二郎)。 ※近松座、竹本錦太夫・竹本角太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	9/9カ~12	東京有楽座	(新版歌祭文) 野崎(錦)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	(不明)
△	一九一七	大正6	12/5	東京歌舞伎座	(新版歌祭文) 野崎村(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座浄瑠璃一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
	一九一八	大正7	1/2~	御霊文楽座	新版歌祭文 野崎村のだん(中 淀=*歌助、切 伊達=*吉三郎・ツレ *一弥)、道行のだん(越見・源路・常子・和・越穂)。 ※角書「お染/久松」。 ※「二月二日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	丁稚久松(政亀)、下男小助(文三)、娘お染(文五郎)、百姓久作(玉蔵)、久作女房(玉五郎)、娘お光(栄三)、後家お勝(玉七)。
△	一九一八	大正7	7/20	名古屋御園座	(新版歌祭文) 野崎村の段(越路=吉兵衛・ツレ 友之助)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	7/24~28	東京有楽座	(新版歌祭文) 野崎村(古靱=清六)。 ※『浄瑠璃雑誌』第416号所載の『二世豊竹古靱太夫床年譜(上)』に拠る。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事には「安達三、壺坂、沼津」とあり、演目が異なる。	
△	一九一八	大正7	7/30	京都南座	(野崎村) (越路)。 ※大阪文楽座引越、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九一八	大正7	8/12	中座 (野崎村)	(越路=吉兵衛)。 ※文楽座、越路太夫一座による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
	一九一八	大正7	11/11~	京都竹豊座	新版歌祭文 下の巻 長町のだん(南登)、油店のだん(錦=*八助)。 ※角書「お染/久松」。	丁稚久松(鶴松)、手代小助(小兵吉)、弥忠太(光造)、油や勘六(玉松)、母おかつ(兵次郎)、乳人お庄(三郎)。
△	一九一八	大正7	12/6	東京歌舞伎座	(新版歌祭文) 野崎(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
	一九一九	大正8	4/1~	京都竹豊座	新版歌祭文 野崎村のだん(薩摩=*喜八郎)、夢のだん(かけ合)。 ※角書「お染/久松」。	久松(鶴松)、娘お染(扇太郎)、親久作(徳丸)、久作の女房(兵三)、娘お光(小兵吉)、母おかつ(三郎)。
△	一九一九	大正8	7/8	名古屋御園座	(新版歌祭文) 野崎村の段(古靱=清六)。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九一九	大正8	7/13	京都南座	(野崎) (越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座引越、竹本越路太夫。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一九	大正8	12/9	東京歌舞伎座	(新版歌祭文) 野崎村(越路=吉兵衛・ツレ友之助)。 ※大阪文楽座浄瑠璃大一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一九	大正8	12/24	名古屋御園座	(新版歌祭文) 野崎村の段(越路=吉兵衛)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
	一九二〇	大正9	1/14~	京都竹豊座	新版歌祭文 野崎村のだん(春次、錦)。 ※「お染/久松」。	丁稚久松(兵次)、手代小助(兵松)、娘お染(扇太郎)、親久作(三郎)、久作女房(兵三)、娘お光(小兵吉)、母お勝(当治郎)。
	一九二〇	大正9	3/20~	御霊文楽座	新版歌祭文 野崎村のだん(中八十=勝平、切南部=*寛治郎)、油屋のだん(中越代、切古靱=*清六)。 ※角書「お染/久松」。 ※「四月二十日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。 ※「野崎村のだん・中」の三味線役割は佐藤靄子編「二代野澤喜左衛門舞台年譜」(『二代野澤喜左衛門』)に拠る。	丁稚久松(政亀)、久三之小助(玉蔵)、鈴木左忠太(琴糸)、油絞り勘六(紋三)、娘お染(栄三)、親久作(辰五郎)、久作女房(冠四)、娘お光(文五郎)、母おかつ(玉七)。
	一九二〇	大正9	7/3~7	東京新富座	新版歌祭文 野崎村(八十=勝平、古靱=清六)。 ※日程は『松竹百年史』に拠る。	丁稚久松(政亀)、下人小助(辰五郎)、娘お染(文五郎)、久作(玉蔵)、娘お光(栄三)、久作女房(光造)、母おかつ(玉五郎)。
△	一九二〇	大正9	7/7	中座 (野崎村)	野崎村(南部=寛治郎)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二〇	大正9	7/29	名古屋 御園座	(新版歌祭文) 野崎(越路=吉兵衛)。 ※越路一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	(不明)
△	一九二〇	大正9	8/8	京都 南座	(野崎村) (越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座引越、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二〇	大正9	8/25	中座	(新版歌祭文) 野崎村の段(古靱=清六・ツレ 芳之助)。 ※東西名流大演芸会。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二〇	大正9	8/30	京都 南座	(新版歌祭文) 野崎村の段(古靱=清六・ツレ 芳之助)。 ※東西名流演芸大会。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九二一	大正10	2/6~	御霊文楽座	新 版 歌 祭 文 野崎村のだん(中 鏝=*竹三郎、切 南部=*寛治郎)、道行のだん(町・鏡・辰・津駒)。 ※角書「お染/久松」。 ※「三月六日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	久松(玉七)、久三の小助(紋三)、娘お染(文五郎)、親久作(辰五郎)、久作女房(琴糸)、娘お光(栄三)、母おかつ(政亀)。
△	一九二一	大正10	7/14~19	東京 有楽座	(新版歌祭文) 野崎村(静=芳之助)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	久松(紋三)、お染(玉七)、お光(栄三)。
△	一九二一	大正10	7/28	中座	(野崎村) (南部=寛次郎)。 ※文楽座による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二一	大正10	8/7	名古屋 御園座	(新版歌祭文) 野崎村の段(南部=寛次郎)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	一九二二	大正11	7/14	名古屋 末広座	(新版歌祭文) 野崎村(古靱=新左衛門・ツレ 友之助)。 ※大阪文楽座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	お光(文五郎)。
△	一九二二	大正11	7/29カ	京都 中座	(野崎) (駒=錦糸)。 ※大阪文楽座若手連引つ越し。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二二	大正11	8/2	浪花座	(歌祭文) 野崎村(古靱=新左衛門)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二二	大正11	8/14	京都 南座	(野崎) (古靱=新左衛門)。 ※文楽座引越し、津太夫・古靱太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九二二	大正11	11/19~ 12/3	御霊文楽座	新 版 歌 祭 文 野崎村のだん(切 古靱=新左衛門・*ツレ 友之助)、道行のだん(和泉・越登・辰・富栄)。	丁稚久松(玉八)、娘お染(栄三)、親久作(文三)、久作女房(徳丸)、おみつ(文五郎)、後家おかつ(玉七)。
△	一九二二	大正11	12/7	東京 新富座	(新版歌祭文) 野崎(古靱=新左衛門・ツレ 新三郎)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九二四	大正13	3/5~	御霊文楽座	新版歌祭文	野崎村のだん(切駒)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※「二十四日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	丁稚久松(玉徳)、娘お染(政亀)、百姓久作(玉蔵)、久作女房(琴糸)、娘おみつ(文五郎)、後家おかつ(玉七)。
一九二四	大正13	6/8~	京都 新京極文楽座	新版歌祭文	野崎村のだん(中鏡=小綱、切鑿=新左衛門・ツレ 新三郎/新吉)。 ※角書「お染ノ久松」。	久松(文之助)、久三の小助(小兵吉)、娘お染(簀助)、百姓久作(冠造)、久作女房(兵三)、娘お光(文五郎)、母おかつ(扇太郎)。
△	一九二四	大正13	中座	(野崎村)	(古靱=清六)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃演奏会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二四	大正13	京都 南座	(新版歌祭文)	野崎村(古靱=清六・ツレ 小綱)。 ※大阪文楽。素浄瑠璃。津太夫紋下清六改名披露。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一九二五	大正14	3/1~	京都 新京極文楽座	新版歌祭文	野崎村のだん(中鏡=友之助、切駒=才治・ツレ 吉左)、道行のだん(越名・三好・播路・弥生=友之助・寛市・吉左・清丸・友吉)。 ※角書「お染ノ久松」。	久松(玉市)、久三の小助(兵十郎)、娘お染(紋太郎)、百姓久作(栄三)、娘おみつ(扇太郎)、久作女房(兵三)、母お勝(小兵吉)。
一九二五	大正14	6/14~	京都 新京極文楽座	新版歌祭文	野崎村の段(切実=広左衛門・ツレ 広十郎)、道行のだん(カケ合越登・長子・南登・亀久=八助・新吉・清丸・友吉・新之助)。	丁稚久松(文之助)、娘お染(紋太郎)、親久作(辰五郎)、娘お光(文五郎)、久作女房(三郎)、母おかつ(小兵吉)。
△	一九二五	大正14	神戸 松竹劇場	(新版歌祭文)	野崎村(鏡=友衛門、土佐=吉三郎)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	(不明)
△	一九二五	大正14	名古屋 御園座	(新版歌祭文)	野崎村の段(伊達改 土佐=吉三郎・ツレ 友衛門)。 ※『御園座七十年史』に拠る。	(不明)
一九二五	大正14	8/3~5	東京 歌舞伎座	新版歌祭文	野崎村の段(中鏡=友衛門、切伊達改メ 土佐=吉三郎・ツレ 友衛門)。	久松(玉徳)、久三の小助(玉幸)、娘お染(文五郎)、百姓久作(辰五郎)、娘お光(栄三)、久作女房(玉米)、母お勝(玉七)。
△	一九二五	大正14	中座	(野崎村)	(古靱=清六)。 ※文楽座連中による「涼み素浄瑠璃」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
一九二六	大正15	1/2~	御霊文楽座	新版歌祭文	野崎村のだん(中 静=*吉弥、切 土佐=*吉三郎)、道行のだん(町・越名・長子・陸路・亀久=*歌助・*浅造・他)。 ※「二十四日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	丁稚久松(簀助)、手代小助(玉松)、娘お染(文五郎)、親久作(辰五郎)、久作女房(冠四)、娘おみつ(栄三)、油屋おかつ(玉七)。
△	一九二六	大正15	京都 南座	(新版歌祭文)	野崎村の段(古靱=清六・ツレ 友衛門)。 ※文楽座引越し、豊竹古靱太夫・竹本土佐太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九二六	大正15	堺 龍神座	(新版歌祭文)	野崎(栄=力松・ツレ 竹弥)。 ※近松会。人形入、桐竹門造一座。 ※『浄瑠璃雑誌』第253・254号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二七	昭和2	6/22~27	弁天座	(新版歌祭文) 野崎村より道行まで。 ※若手向上会。 ※「大阪朝日新聞(大阪版)」(6月18日)に拠る。	
△	一九二七	昭和2	9/1	東京歌舞伎座	(新版歌祭文) 野崎(和泉=清二郎・小庄)。 ※大阪文楽座義太夫一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九二七	昭和2	12/12	東京宮戸座	(新版歌祭文) 野崎村(総掛合)。 ※身振劇。大日本義太夫因会大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第265号に拠る。	
△	一九二七	昭和2	12/14	下関弁天座	(新版歌祭文) 野崎(古靱カ)。	(不明)
			12/15~16	広島寿座	野崎(古靱)。 ※大阪文楽座巡業(12月1~16日、中国・九州)の内。 ※「大阪毎日新聞西部毎日(北九州版)」(12月2日)、「同(熊本版・山口版)」(12月9~10・14日)、「同(長崎版)」(12月3日)に拠る。	(不明)
	一九二七	昭和2	12/22	浪花座	(お染久松) 野崎村の段(駒=才治・ツレ才太郎)。 ※若手素浄瑠璃。	
△	一九二八	昭和3	3/7~8	神戸八千代座	(新版歌祭文) 野崎村(中つばめ=勝市、切古靱=清六)。 ※「神戸新聞」(2月26・28~29日・3月1~6日の記事、2月28~29日・3月1~8日の広告)に拠る。	(不明)
			3/16カ	名古屋御園座	野崎村の段(中つばめ=勝市、切古靱=清六・ツレ友衛門)。 ※大阪文楽座巡業(3月1~20日、神戸・名古屋・広島)の内。 ※『御園座七十年史』に拠る。	久松(扇太郎)、お染(紋十郎)、久作(玉次郎)、おみつ(文五郎)、お勝(玉七)。
△	一九二八	昭和3	6/24	神戸八千代座	(新版歌祭文) 野崎村(総掛合久作一文字・お染一越名・久松一辰・母一長・下女一文字栄=喜左衛門・ツレ勝市)。 ※若手幹部連の素浄瑠璃。 ※「神戸新聞」(6月23~25日の記事、6月23~26日の広告)に拠る。	
△	一九二八	昭和3	7/2	金沢尾山倶楽部	(新版歌祭文) 野崎村(鏝=新左衛門)。 ※竹本土佐大夫一行巡業(7月1~13日、北陸)の内。素浄瑠璃。 ※「北国新聞」(6月28・30日・7月1・3~5日)に拠る。	
	一九二八	昭和3	7/12~16	東京新橋演舞場	新版歌祭文 野崎村の段(中相生=芳之助、切大隅=道八・ツレ友衛門)。	丁稚久松(玉七)、久三の小助(玉市)、娘お染(栄三)、親久作(玉次郎)、久作女房(冠四)、娘お光(文五郎)、油屋お勝(扇太郎)。
△	一九二八	昭和3	7/16	神戸八千代座	(新版歌祭文) 野崎(鏝)。 ※文楽中堅花形の大一座。素浄瑠璃。 ※「神戸新聞」(7月12・14~15・17~18日の記事、7月12~18日の広告)に拠る。	
	一九二八	昭和3	8/21	浪花座	新版歌祭文 野崎村の段(お染一越名・久作一つばめ・お光一島・久松一相生・母一千駒・下女一和泉=友衛門・ツレ小庄)。 ※文楽座若手素浄瑠璃。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二八	昭和3	12/5	東京 三越ホール	(新版歌祭文) 野崎村(お光一和国・お染一都・久松一紅葉・下女+後家一巖・久作一君=紋左衛門・ツレ 吉松郎・紋三郎・幸太郎)。 ※第2回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃世界』第300号、『浄瑠璃雑誌』第275号に拠る。	
	一九二九	昭和4	1/5~7	神戸 八千代座	新版歌祭文 野崎村の段(中 鏡=団六、切 大隅=道八・ツレ 友衛門)。	丁稚久松(光之助)、久三の小助(玉市)、娘お染(紋十郎)、親久作(玉次郎)、久作女房(伝之助)、娘おみつ(文五郎)、油屋お勝(紋太郎)。
	一九二九	昭和4	1/19~20	名古屋 御園座	新版歌祭文 野崎村の段(中 鏡=団六、切 大隅=道八・ツレ 友衛門)。	丁稚久松(光之助)、久三の小助(玉市)、娘お染(紋十郎)、親久作(玉次郎)、久作女房(伝之助)、娘おみつ(文五郎)、油屋お勝(紋太郎)。
△	一九二九	昭和4	1/25	豊橋 東雲座	(新版歌祭文) 野崎村の段。 ※「参陽新報」(1月20~25日の記事、1月22・24日の広告)、「新朝報」(1月16・20~25日の記事、1月22・24日の広告)、「豊橋新報」(1月16・19~20・22・24~25日の記事、1月23~24日の広告)、「豊橋日日新聞」(1月16・20・22~23・25日の記事、1月22・24日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九二九	昭和4	2/4~22	地方公演 (山陽・九州)	(新版歌祭文) 野崎村の段(相生=芳之助、鑊=新左衛門)。 ※大阪文楽座巡業。2月5日岡山・岡山劇場、2月7日広島・寿座(配役は鑊=新左衛門とのみ)での公演を含む。 ※「山陽新報」(1月22日・2月1・5日の記事、2月2日の広告)、「中国新聞」(2月7~8日の記事、2月5~8日の広告)に拠る。	(不明)
	一九二九	昭和4	3/2~18	弁天座	新版歌祭文 野崎村の段(中 源路=吉左、切 朝=猿糸・ツレ 友之助/八助)。 ※千種染は「大阪朝日新聞」(3月17日)に拠る。	丁稚久松(光之助)、娘お染(紋十郎)、親久作(門造)、久作女房(伝之助)、娘お光(扇太郎)、油屋お勝(紋太郎)。
△	一九二九	昭和4	4/1~10	八千代座	(新版歌祭文) ※『文楽浄瑠璃物語』に拠る。 ※『義太夫年表 昭和篇』は『新版歌祭文』の代りに『三十三所壺坂寺』の上演とする。	
△	一九二九	昭和4	6/16	東京銀座	(新版歌祭文) 野崎(巖=新造)。 ※新撰所作浄瑠璃(浄瑠璃舞踊)。 ※『浄瑠璃雑誌』第280号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	7/7	東京 並木倶楽部	(新版歌祭文) (お光一生駒・お染一巖・久松+下女一雛女・後家一君・久作一和国=新造・幸太郎)。 ※歌声会。 ※『浄瑠璃雑誌』第281号に拠る。	
	一九二九	昭和4	7/18~21	東京 新橋演舞場	新版歌祭文 野崎村の段(中 つばめ=勝市、切 古靱=清六)。 ※角書「お染/久松」。	丁稚久松(光之助)、久三の小助(玉市)、娘お染(紋十郎)、親久作(玉次郎)、久作女房(玉七)、娘お光(文五郎)、油屋お勝(扇太郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九二九	昭和4	9/11	名古屋 新守座	(新版歌祭文) 野崎村の段(つばめ=勝市)。 ※「新愛知」(9月3~8・10~11日の記事、9月6~7・9・11日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第283号に拠る。	
			9/18~19	神戸 八千代座	野崎村の段(切 大隅=道八・ツレ 友衛門)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※「神戸新聞」(9月11~15・17~18日の記事、9月13~19日の広告)に拠る。	久松(光之助)、娘お染(紋十郎)、久作(玉次郎)、久作妻(伝之助)、娘お光(文五郎)、油屋勝(文之助)。
			9/23	高松 聚楽座	お染久松 新版歌祭文	野崎村の段(切 大隅=道八・ツレ 友衛門)。 ※大阪文楽座巡業(9月7~23日、名古屋・神戸・高松)の内。 ※「香川新報」(9月19~23日の記事、9月20~21・23日の広告)に拠る。
△	一九二九	昭和4	11/20	東京 三越ホール	(新版歌祭文) 野崎(滝=新造)。 ※第11回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第284・286号に拠る。	
△	一九三〇	昭和5	2/19	東京 三越ホール	(新版歌祭文) 野崎村(総掛合)。 ※第14回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第288号に拠る。	
	一九三〇	昭和5	3/6~	四ツ橋文楽座	新版歌祭文 野崎村の段(切 大隅=道八・ツレ 団六・綱右衛門・清二郎)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※三代竹本越路太夫・名庭絃阿弥七回忌追善。 ※日延三十二日間(『文楽興行記録昭和篇』)。	丁稚久松(光之助)、娘お染(紋十郎)、親久作(玉松)、久作女房(玉七)、娘おみつ(栄三)、油屋お勝(紋太郎)。
	一九三〇	昭和5	8/19	東京 東京劇場	新版歌祭文 野崎村の段(古靱=清六・ツレ 団伊三)。 ※素浄瑠璃。	
	一九三一	昭和6	2/1~22	四ツ橋文楽座	新版歌祭文 油屋の段(中 駒=重造//文字=勝平、切 古靱=清六)。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。 ※竹本文字太夫2月18日より休演(『文楽浄瑠璃物語』に拠る)。	丁稚久松(文作)、手代小助(栄三)、鈴木弥忠太(門造)、油紋り勘六(玉松)、娘お染(扇太郎)、油屋お勝(政亀)、乳母お庄(小兵吉)。
△	一九三一	昭和6	6/8	朝日会館	(新版歌祭文) お染ノ久松野崎村の段(久作一葉・久松一文字・ほか=蔦之助・ほか)。 ※豊竹呂昇一周忌追善。竹本叶太夫等が追善浄瑠璃の掛合に出演。女流義太夫の名前は省いた。 ※『浄瑠璃雑誌』第302号に拠る。	
	一九三一	昭和6	9/8~14	東京 帝国劇場	新版歌祭文 野崎村の段(切 駒=重造・ツレ 友駒・吉男)。	丁稚久松(文作)、娘お染(小兵吉)、親久作(玉松)、久作女房(玉造)、娘お光(文五郎)、母お勝(徳三郎)。
	一九三一	昭和6	12/1~4	東京 明治座	新版歌祭文 野崎村の段(切 鑿=新左衛門・ツレ 吉男)、道行の段(播路・叶美・佐久・土佐子=団伊三・吉貞・清若・市松・綱治)。	丁稚久松(文作)、娘お染(紋十郎)、親久作(小兵吉)、久作女房(玉七)、娘お光(栄三)、油屋お勝(光之助)。
	一九三一	昭和6	12/5~7	東京 明治座	新版歌祭文 油屋の段(中 相生=清二郎、切 古靱=清六)。	丁稚久松(文作)、手代小助(栄三)、鈴木弥忠太(玉市)、油紋り勘六(玉松)、娘お染(紋太郎)、油屋お勝(扇太郎)、乳母お庄(小兵吉)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三二	昭和7	5/5	名古屋 御園座	(新版歌祭文) 野崎村(駒=重造)。 ※竹本鐙太夫一行巡業(5月4~14日、東海)の内。文楽座の若手による素浄瑠璃。 ※「新愛知」(5月1・3~8日)、『浄瑠璃雑誌』第312号、『御園座七十年史』に拠る。	
	一九三二	昭和7	5/16~18	東京 東京劇場	新版歌祭文 野崎村の段(切 大隅=道八・ツレ 団伊三)。 ※角書「お染/久松」。	丁稚久松(文作)、娘お染(扇太郎)、親久作(小兵吉)、久作女房(伝之助)、娘お光(紋十郎)、油屋お勝(光之助)。
△	一九三二	昭和7	7/2	備後町三休橋 角綿業会館	(新版歌祭文) 野崎村(和泉=綱右衛門)。 ※三人会(貴鳳・長尾・和泉)。 ※『浄瑠璃雑誌』第313号に拠る。	
△	一九三二	昭和7	7/19	神戸 神港倶楽部	(新版歌祭文) 野崎村(和泉=綱右衛門・ツレ 小綱)。 ※三人会。 ※『浄瑠璃雑誌』第314号に拠る。	
	一九三二	昭和7	10/1~17	四ツ橋文楽座	新版歌祭文 野崎村の段(親久作一呂・娘お光一つばめ・娘お染一南部/小春・母お勝一町・下女およし一富/綾・久松一和泉=叶・勝平・毎日替 ツレ 友衛門/清二郎・叶太郎/友作・芳之助・友若/寛市・友二/吉左)。 ※角書「木立寒い時分の/恋がよひ/振の袖さへ」。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	丁稚久松(光之助)、娘お染(扇太郎)、親久作(玉松)、久作女房(覚三郎)、娘おみつ(紋十郎)、油屋を勝(小兵吉)。
	一九三二	昭和7	10/26	東京 東京劇場	新版歌祭文 野崎村の段(土佐=吉兵衛・ツレ 市之助)。 ※素浄瑠璃。	
△	一九三三	昭和8	1/26	北陽演舞場	(新版歌祭文) 野崎村(駒=団六・ツレ 団二郎)。 ※花菱会。桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第320号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	6/25	高知 堀詰座	(新版歌祭文) 野崎村の段(南部=吉三・勝芳)。 ※竹本土佐太夫一行巡業(6月22~26日、高知)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第325号に拠る。	
	一九三三	昭和8	8/21~23	京都 南座	新版歌祭文 野崎村の段(中 小春=団二郎、切 鐙=新左衛門・ツレ 新太郎)。	丁稚久松(光之助)、久三小助(玉松)、娘おそめ(扇太郎)、親久作(玉次郎)、久作女房(玉七)、娘おみつ(文五郎)、油屋お勝(小兵吉)。
	一九三三	昭和8	12/7~9	東京 歌舞伎座	新版歌祭文 野崎村の段(切 鐙=新左衛門・ツレ 新太郎)。	丁稚久松(文作)、娘お染(扇太郎)、親久作(栄三)、久作女房(玉七)、娘お光(紋十郎)、油屋お勝(門造)。
△	一九三四	昭和9	2/20	新町演舞場	(新版歌祭文) 野崎村の段(お染一陸路・久松一定路・およし一駒司・母親一駒若・お光一播路・久作一貴鳳=喜代之助・ツレ 友駒・仙三郎)。 ※くつわ会。 ※『浄瑠璃雑誌』第330号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	3/25	滋賀長浜 日比劇場	(新版歌祭文) 野崎(掛合)。 ※まこと改め竹本松栄太夫披露会。桐竹門造指導少女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第332号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九三四	昭和9	5/1~	四ツ橋文楽座	新版歌祭文	野崎村の段(中 南部=吉弥、切 土佐=吉兵衛・ツレ 吉左/喜代之助)。 ※先代桐竹紋十郎二十五年追善。 ※番付には油屋お勝の人形は桐竹政亀とある。	丁稚久松(紋太郎)、久三の小助(玉松)、娘お染(紋十郎)、親久作(栄三)、久作女房(玉七)、娘お光(文五郎)、油屋お勝(小兵吉)。
一九三四	昭和9	7/1~3	京都南座	新版歌祭文	野崎村の段(親久作一鏡・娘お光一南部・娘お染一小春・丁稚久松一辰・油屋お勝一長・下女およし一叶美=吉左・ツレ 勝芳・友花)。	丁稚久松(紋太郎)、娘お染(扇太郎)、親久作(玉次郎)、娘お光(紋十郎)、油屋お勝(小兵吉)。
一九三四	昭和9	7/30~31	東京歌舞伎座	新版歌祭文	野崎村の段(中 南部=吉弥、切 古靱=清六・ツレ 重造)。 ※角書「お染/久松」。	丁稚久松(紋太郎)、久三の小助(玉松)、娘お染(紋十郎)、親久作(栄三)、久作女房(玉七)、娘お光(文五郎)、油屋お勝(小兵吉)。
△一九三四	昭和9	8/12	満州永楽町扇芳亭方楼上広間	(新版歌祭文)	野崎(玉糸、富平)。 ※竹本叶太夫一行巡業(7月25日~8月15日、満州)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
一九三五	昭和10	6/1	福岡大博劇場	新版歌祭文	野崎村の段(つばめ=猿糸)。 ※豊竹古靱太夫一行巡業(5月28日~6月14日、山陽・九州)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第340号に拠る。	(不明)
△一九三五	昭和10	8/25	浪花座	(新版歌祭文)	野崎(掛合=友治郎)。 ※文楽若手浄瑠璃会納涼浄瑠璃。 ※「大阪毎日新聞」(8月21日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第342号に拠る。	
△一九三五	昭和10	12/5	東京並木倶楽部	(新版歌祭文)	野崎村(東=猿三郎)。 ※大日本義太夫因会秋季大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第345号に拠る。	
△一九三六	昭和11	2/2	松本建国座	(新版歌祭文)	野崎村の段。 ※大阪文楽座巡業(2月2~10日、長野・愛知・静岡)の内。2月6日長野・上田劇場(役割不明)で同公演あり。 ※「信濃毎日新聞」(1月30日・2月4日)、『浄瑠璃雑誌』第346号に拠る。	(不明)
△一九三六	昭和11	2/26	姫路楽天座<新義座>	(新版歌祭文)	野崎村(南部=勝平・ツレ 勝之介)。 ※角書「お染/久松」。 ※『浄瑠璃雑誌』第346号に拠る。	
一九三六	昭和11	3/1~	四ツ橋文楽座	新版歌祭文	野崎村の段(切 古靱=重造・ツレ 喜代之助)。 ※角書「お染/久松」。	丁稚久松(文作)、娘お染(紋十郎)、親久作(栄三)、娘お光(文五郎)、油屋お勝(小兵吉)。
△一九三六	昭和11	4/2~3	名古屋御園座	(お染久松新版歌祭文)	野崎村の段(駒=重造・道造)。 ※「古靱大夫は『野崎村』を語るはずであったが、病気のため惜しくも休演となった」(『御園座七十年史』)。 ※大阪文楽座巡業(4月2日~、東海)の内。 ※「新愛知」(3月26・28~29日・4月1~3・5・7日の記事、3月27・30~31日・4月1・6日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第347号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九三六	昭和11	4/12~14	神戸 松竹劇場	(新版歌祭文) 野崎村(切 鑿=新左衛門・ツレ 新太郎・吉季)。 ※「神戸新聞」(4月9・12・15~16日の記事、4月10・15日の広告)、 『浄瑠璃雑誌』第347号に拠る。	久松(文作)、お染(紋十郎)、久作(栄三)、母(玉七)、お光(文五郎)、お勝(小兵吉)。
△	一九三六	昭和11	8/28	京都 朝日会館 〈新義座〉	(お染久松) 野崎村の段(南部=勝平・ツレ 勝之介)。 ※大阪文楽新義座の京都第1回公演。素浄瑠璃。 ※「大阪朝日新聞(京都版)」(8月25・27~28日)、『浄瑠璃雑誌』 第351・352号に拠る。	
△	一九三六	昭和11	9/3	北陽演舞場 〈新義座〉	(お染久松) 野崎村の段(南部=勝平・ツレ 勝之介)。 ※「大阪朝日新聞」(8月5日)、「大阪毎日新聞」(8月27日・9月2日)、 『浄瑠璃雑誌』第352号に拠る。	
△	一九三六	昭和11	12/8	上海 東 劇	(お染久松) 野崎村(総出演)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(12月7~11日、上海)の内。上海皇軍慰問公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第356号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	4/18	岐阜駄知町 〈新義座〉	(新版歌祭文) 野崎村(南部=勝平)。 ※大阪新義座巡業(4月4~28日、東海・関東)の内。乙女人形入。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
△	一九三七	昭和12	4/27	堀江演舞場	(新版歌祭文) 野崎村(=広太郎)。 ※松崎松重翁三回忌追善舞踊会。文楽座人形入素義浄瑠璃。 ※『浄瑠璃雑誌』第360号に拠る。	久松(文枝)、お染(玉米)、久作(玉幸)、お光(光之助)、母親(兵次)。
	一九三七	昭和12	6/5~7	東京 明治座	新版歌祭文 野崎村の段(切 鑿=新左衛門・ツレ 喜代之助・新太郎)。 ※角書「お染/久松」。	丁稚久松(栄三郎)、娘お染(光之助)、親久作(玉次郎)、久作の女房(玉七)、娘お光(紋十郎)、油屋お勝(紋太郎)。
	一九三八	昭和13	5/1~	四ツ橋文楽座	新版歌祭文 座摩社烏居前の段(口 長尾=叶太郎//富=団伊三、奥 文字=広助)、野崎村の段(娘お光一鑿・娘お染一伊達・丁稚久松一源・油屋お勝一辰/竹・下女およし一常子/津磨・親久作一大隅=新左衛門・ツレ 友造/友駒・重造/新太郎)、油屋の段(中 呂=叶、切 古靱=清六)、蔵場の段(相生=寛治郎)。 ※角書「お染/久松」。	丁稚久松(文作)、久三の小助(栄三)、浪人鈴木弥忠太(玉徳)、勘六(玉蔵)、娘お染(紋十郎)、百姓久作(門造)、娘お光(文五郎)、油屋お勝(小兵吉)、乳母お庄(玉次郎)。
	一九三八	昭和13	9/23~25	東京 明治座	新版歌祭文 野崎村の段(和泉=寛治郎・ツレ 一郎右衛門)。 ※角書「お染/久松」。	丁稚久松(栄三郎)、娘お染(紋太郎)、親久作(門造)、娘お光(紋十郎)、油屋お勝(政亀)。
△	一九三八	昭和13	10/24	東京 蚕糸会館	(新版歌祭文) 野崎(弥国=寛三郎・ツレ 松市郎)。 ※東京浄瑠璃人形芝居秋季特別公演。 ※『太棹』第99号、『浄瑠璃雑誌』第376号に拠る。	久松(高瀬弦之丞)、お染(国三郎)、久作(国五郎)、お光(池田三国)、お勝(清三郎)。
△	一九三八	昭和13	11/26	北陽演舞場 〈新義座〉	(新版歌祭文) 野崎村(南部=勝平・ツレ 綱延)。 ※『浄瑠璃雑誌』第376号、「大阪毎日新聞」(11月26日)に拠る。	
△	一九三九	昭和14	2/1~3	京都 南 座	(お染久松 新版歌祭文) 野崎村の段(切 駒=清二郎・ツレ 清友)。 ※「京都日出新聞」(1月23・25~26日・2月2日の記事、2月1日の広告)、「京都日日新聞」(1月28・30日・2月3日の記事、1月26日の広告)、『昭和の南座 資料編(上)』に拠る。	丁稚久松(紋太郎)、お染(紋十郎)、久作(玉幸)、娘お光(文五郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九三九	昭和14	3/27~29	東京 明治座	新版歌祭文	野崎村の段（親久作一大隅・娘お光一織・娘お染一文・丁稚久松一竹／播路・油屋お勝一辰／千駒・下女およし一播路／竹＝広助・ツレ友衛門・寛市・吉左）。 ※角書「お染／久松」。	丁稚久松（栄三郎）、娘お染（紋十郎）、親久作（玉蔵）、娘お光（文五郎）、油屋お勝（政亀）。	
△	一九三九	昭和14	4/27	京都 朝日会館	（お染久松新版歌祭文）	野崎村の段（掛合 久作一大隅・お光一伊達・お染一源・久松一隅若・下女一土佐男＝広助・友衛門・八造・寛六・吉蔵）。 ※国粋古典芸術鑑賞会主催「第6回春季文楽浄瑠璃の夕」。 ※「京都日出新聞」「大阪朝日新聞（京都版）」（4月26日）、『浄瑠璃雑誌』第378号に拠る。	
△	一九三九	昭和14	9/4~5	名古屋 御園座	（新版歌祭文）	野崎村の段（大隅＝広助）。 ※『浄瑠璃雑誌』第382号、『御園座七十年史』、「新愛知」（9月1~3・5~6日の記事、9月1~7日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九三九	昭和14	12/19	ラジオ放送	（新版歌祭文）	野崎村の段（呂＝新左衛門・ツレ 新太郎）。 ※「大阪朝日新聞」（12月19日）、『浄瑠璃雑誌』第385号に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	1/25	東京 日本橋倶楽部	（新版歌祭文）	野崎村（お染一巴・お光一双葉・母一浪江・久松一松江・久作一駒登＝和孝・ツレ 団七）。 ※南北座。 ※『太棹』第111号に拠る。	お染（高瀬弦之丞）、久作（国五郎）、お光（池田三国）。
△	一九四〇	昭和15	2/25	ラジオ放送	（新版歌祭文）	野崎村の段（古靱＝清六・ツレ 清友）。 ※「大阪朝日新聞」「東京朝日新聞」（2月25日）、『太棹』第113号に拠る。	
	一九四〇	昭和15	4/1~	四ツ橋文楽座	新版歌祭文	野崎村の段（久作一相生・お光一役毎日替 南部／伊達・お染一役毎日替 伊達／南部・久松一播路・お勝一伊勢・およし一津磨／隅若＝仙糸・ツレ 友平）。 ※角書「お染／久松」。 ※4月10日ラジオ中継放送。お光は竹本南部太夫、お染は竹本伊達太夫、およしは竹本津磨太夫、三味線は豊沢仙作も加わる（「大阪朝日新聞」「東京朝日新聞」（4月10日）、『太棹』第114号に拠る）。	丁稚久松（文二郎）、娘お染（栄三郎）、親久作（門造）、娘お光（紋十郎）、油屋お勝（小兵吉）。
△	一九四〇	昭和15	5/9	東京 日本橋倶楽部	（新版歌祭文）	野崎（紅葉＝猿三郎・ツレ 宗之助）。 ※日本義太夫因会春季大会。 ※『太棹』第114号に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	9/24カ	東京 新橋演舞場	（新版歌祭文）	野崎村（古靱＝清六）。 ※素浄瑠璃。 ※「朝日新聞（東京版）」（9月20~22・25~27日の広告）、「報知新聞」（9月20~27日の広告）、「東京日日新聞」（9月25日の記事、9月22日の広告）、『太棹』第118号、『浄瑠璃雑誌』第394・395号に拠る。	
△	一九四一	昭和16	1/23	東京 日本橋倶楽部	（新版歌祭文）	野崎（お光一弥国・お染一巴・久松一近衛・久作一駒登＝絃平・ツレ 松四郎・宗之助・美之助）。 ※南北座第1回東京浄瑠璃人形芝居初春公演。 ※『太棹』第123号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四一	昭和16	3/1~23	四ツ橋文楽座	新版歌祭文	野崎村の段（呂＝仙糸//伊達＝友衛門）、久松堤お染は船（呂/伊達・長尾/伊勢・源/文・辰/千駒・播路・常子・津磨・宮・叶美・隅若・越名・松島/土佐尾・南次/呂賀＝仙糸/吉弥・友造/友平・猿二郎/友衛門・叶太郎/友作・八造・団伊三・友十郎・友花・仙三郎・友三郎・団作・竜市・仙松・徳若・勝之介）。 ※角書「お染/久松」。 ※公演プログラムには鶴沢友花の代わりに鶴沢友蔵とある。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	丁稚久松（文二郎）、娘お染（文作）、親久作（門造）、娘お光（紋十郎）、油屋お勝（多三郎）。
一九四一	昭和16	7/11~15	東京新橋演舞場	新版歌祭文	野崎村の段（切大隅＝清二郎）、久松堤お染は船（七五三・宮・津磨・越名・松島・呂賀＝吉左・喜代之助・団伊三・友花・吉季・清友・綱延・団作・勝之介・扇之助）。 ※角書「お染/久松」。	丁稚久松（文二郎）、娘お染（文作）、親久作（門造）、娘お光（紋十郎）、油屋お勝（政亀）。
一九四一	昭和16	8/4~6	京都南座	新版歌祭文	野崎村の段（南部＝重造//伊達＝友衛門）、久松堤お染は船（南部/伊達・雛・千駒/播路・さの/常子・隅若/叶美・松島/南次・七五三＝重造/友衛門・八造・団伊三・新太郎・友三郎・一郎右衛門・吉蔵・勝之介・団作）。 ※角書「お染/久松」。 ※竹本七五三太夫の名はチラシ類にのみある。	丁稚久松（紋司）、娘お染（文作）、親久作（政亀）、娘お光（紋十郎）、油屋お勝（小兵吉）。
△	一九四一	昭和16	8/11~12	名古屋御園座	（新版歌祭文） 野崎村の段（南部＝重造、伊達＝友衛門、他）。 ※『御園座七十年史』、「新愛知」（8月2・6・12日の記事、8月5・11・13日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九四一	昭和16	11/26	京都朝日会館	（新版歌祭文） 野崎村（源＝八造）。 ※国粹古典芸術鑑賞会主催「文楽浄瑠璃の夕」。 ※『浄瑠璃雑誌』第405号に拠る。	
△	一九四二	昭和17	2/18	（不明）	（新版歌祭文） （都＝紋左衛門・猿蔵・芳太郎・猿三郎・新造）。 ※邦楽彰功会。 ※『浄瑠璃月報』第40号に拠る。	
一九四二	昭和17	4/1~	四ツ橋文楽座	新版歌祭文	野崎村の段（親久作一住・娘お光一七五三・娘お染一常子改め 田喜・丁稚久松一津磨/越名・下女およし一呂賀・母お勝一富/三滝＝綱造・吉三郎・ツレ 団作・徳若）。 ※五代竹本常子太夫改め三代竹本田喜太夫。	丁稚久松（栄三郎）、娘お染（亀松）、親久作（門造）、娘お光（紋十郎）、母親お勝（政亀）。
△	一九四二	昭和17	4/10	東京浅草並木倶楽部	（新版歌祭文） 野崎村（お光一弥国・お染一浪花・およし一歳・久作一杣・久松一津弥・母一都・ツレ 朝見/卯/駒登/巴/稲/近衛＝猿之助・ツレ 猿平/蟻鳳/新造/絃平・三下り 猿蔵・和孝・美之助・絃内・琴 芳太郎・猿喜知・松四郎・胡弓 猿三郎・扇之助・宗之助・二絃琴 松市郎・絃吾）。 ※日本義太夫因会春季大会。 ※『太棹』第134号、『浄瑠璃月報』第42号に拠る。	
△	一九四二	昭和17	5/17	住吉区昭和町ライトハウス	（新版歌祭文） 野崎村（源福＝広三郎・ツレ 広重）。 ※義太夫箏曲鑑賞会。 ※『浄瑠璃雑誌』第410号に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四二	昭和17	12/22~27	東京 新橋演舞場	新版歌祭文	野崎村の段(切 古靱=清六・ツレ 友衛門)。 ※角書「お染／久松」。	丁稚久松(栄三郎)、娘お染(亀松)、親久作(栄三)、久作女房(多三郎)、娘お光(文五郎)、母お勝(小兵吉)。
一九四三	昭和18	5/1~23	四ツ橋文楽座	新版歌祭文	野崎村の段(親久作一住・娘お光一叶・娘お染一源／文・丁稚久松一播路／司・母お勝一伊勢／八十・下女およし一司／八十=吉三郎・ツレ 新太郎)。 ※『浄瑠璃雑誌』第420号による人形小割は次の通り。お光の左は吉田玉徳、足は吉田兵次郎、かいしやくは吉田万次郎・吉田光次・桐竹亀之輔・吉田栄市、お染の左は吉田玉米、足は吉田亀夫、サハリは吉田玉男、下女およしの左は吉田玉助、足は吉田光次、久作の左は吉田光司、足は吉田藤一、久松の左は吉田常次、足は吉田駒三郎、かごつめは吉田万次郎・桐竹亀之輔、お勝の左は吉田兵次、足は桐竹亀之輔、かごやは吉田常次・桐竹小紋、船頭竹松の足は吉田駒三郎、まく木は吉田万次郎。 ※千穰楽は「毎日新聞(大阪版)」(5月22日)、『浄瑠璃雑誌』第421号に拠る。	丁稚久松(紋太郎)、娘お染(栄三郎)、親久作(政亀)、娘お光(亀松)、母お勝(多三郎)。
一九四三	昭和18	7/11~15	東京 新橋演舞場	新版歌祭文	野崎村の段(親久作一相生／呂・娘お光一南部／伊達・娘お染一呂賀改め 松・丁稚久松一宮／越名・母お勝一千駒／駒若・下女およし一宮／越名=観西翁)、お染は船久松堤(相生／呂・南部／伊達・雛・つばめ・浜・千駒／隅若・松島・七五三=仙糸／吉五郎・喜左衛門／重造・友衛門・団伊三・燕三・勝太郎・仙三郎・錦糸・団作・清広)。 ※角書「お染／久松」。	丁稚久松(栄三郎)、娘お染(亀松)、親久作(政亀)、娘お光(紋十郎)、母お勝(玉徳)。
△一九四三	昭和18	8/13~15	名古屋 御園座	(新版歌祭文)	野崎村の段(住・七五三・南部・伊達=綱造・ツレ 錦糸)。 ※豊竹古靱太夫櫓下披露。 ※『御園座七十年史』、「中部日本新聞」(7月28日の記事、8月1・5・10・13・15日の広告)に拠る。	(不明)
一九四三	昭和18	9/5~8	京都 南座	新版歌祭文	野崎村の段(切 大隅=清二郎・ツレ 友花改 燕三・清広・団作)。	丁稚久松(紋司)、娘お染(文作改め 亀松)、親久作(門造)、娘お光(紋十郎)、母お勝(多三郎)。
一九四三	昭和18	9/18~20	神戸 松竹劇場	新版歌祭文	野崎村の段(切 大隅=清二郎・ツレ 友花改め 燕三・団作)。	丁稚久松(紋司)、娘お染(文作改め 亀松)、親久作(門造)、娘お光(紋十郎)、母お勝(紋太郎)。
△一九四四	昭和19	1/16	東京駕籠町 寿々本	(新版歌祭文)	野崎(都喜=新三郎)。 ※義太夫特選会。 ※『浄瑠璃月報』第83号に拠る。	
一九四四	昭和19	4/1~25	四ツ橋文楽座	新版歌祭文	野崎村の段(中 重=広助、切 古靱=清六・ツレ 重造)。 ※角書「お染／久松」。	丁稚久松(紋司)、下男小助(玉徳)、娘お染(亀松)、親久作(栄三)、久作女房(紋太郎)、娘お光(文五郎)、母親お勝(小兵吉)。
△一九四四	昭和19	8/25~27	神戸 八千代劇場	(新版歌祭文)	野崎村の段。 ※「神戸新聞」(8月19・24日の広告)に拠る。	(不明)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九四四	昭和19	10/5~7	名古屋 御園座	(新版歌祭文) 野崎村の段(伊達=喜左衛門)。 ※『御園座七十年史』、「中部日本新聞」(9月27日の記事、9月26~30日・10月2~4・6~7日の広告)に拠る。	(不明)
	一九四四	昭和19	11/10~28	四ツ橋文楽座	新版歌祭文 野崎村の段(切 相生=吉五郎//呂=友衛門・ツレ 友松・仙松)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(玉枝)、娘お染(紋司)、親久作(玉助)、娘お光(光造)、母お勝(小兵吉)。
	一九四五	昭和20	11/2~7	朝日会館	新版歌祭文 野崎村の段(切 織=団六)、お染は舟久松堤の段(つばめ/浜・富・千駒・隅若・松島=広助・猿二郎・市治郎・仙糸・叶太郎)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※豊竹つばめ太夫復員後出座(『四代竹本越路大夫』)。竹本織太夫9月復員後出座、竹沢団六を相三味線に(『織大夫夜話』『文楽の家』)。	久松(紋司)、お染(亀松)、久作(門造)、お光(紋十郎)、母お勝(亀夫)。
△	一九四六	昭和21	6/21	佐賀 佐賀劇場	(お染久松 新 版歌祭文) (住)。 ※中国・九州巡業(6月1日~)の内。6月6日倉敷・千秋座(役割不明)、17~19日福岡・大博劇場(役割不明)で同公演あり。 ※「合同新聞」(6月5日の広告)、「西日本新聞(地方版)」(6月16・18~19日の広告)に拠る。	(不明)
	一九四六	昭和21	8/4~18	四ツ橋文楽座	新版歌祭文 野崎村の段(久作一住・お光一松・お染一つばめ・久松一宮・お勝+お芳一隅寿)、久松は堤お染は船(七五三・駒尾・織部・織の)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(紋司)、娘お染(光造)、親久作(玉市)、娘お光(紋十郎)、女房お勝(玉徳)。
	一九四六	昭和21	11/2~16	四ツ橋文楽座	新版歌祭文 油屋の段(切 大隅=清八)、地藏巡りの段(お染一松・久松一宮・越名・隅寿・古住・織部・織の=清二郎・吉三郎・一郎右衛門・仙松・団作・叶太郎)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(紋昇)、手代小助(玉助)、油紋り勘六(玉市)、娘お染(栄三郎)、油屋お勝(光造)、乳母お庄(紋太郎)。
	一九四六	昭和21	11/17	四ツ橋文楽座	新版歌祭文 道行地藏巡りの段(お染一和・久松一隅寿・織部・織の・古住=新三郎・寛弘・友衛門・猿二郎・清八)、油屋の段(浜=錦糸)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※第2回文楽座若手向上会。	久松(和夫)、小助(紋昇)、勘六(玉市)、お染(紋之助)、お勝(紋三郎)、乳母お庄(紋太郎)。
△	一九四六	昭和21	11/21	愛媛 三津永楽座	(お染久松 新 版歌祭文) 野崎村の段。 ※四国巡業(11月21~29日)の内。 ※「愛媛新聞」(11月18・22日の広告)、「島根新聞」(11月20日の記事、11月22・24日の広告)、『文楽因会三和会興行年表』に拠る。	(不明)
	一九四六	昭和21	12/5~23	四ツ橋文楽座	新版歌祭文 野崎村の段(中 住=重造、切 古朝=清六・ツレ 八造)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※鶴沢清六休演のため、野沢吉五郎代演。鶴沢清六の復帰と入れ替わりに豊竹古朝太夫休演のため、竹本織太夫代演。鶴沢重造休演のため、鶴沢一郎右衛門代演(『文楽』昭和22年2月号に拠る)。	丁稚久松(紋昇)、手代小助(玉市)、娘お染(栄三郎)、親久作(玉助)、久作女房(紋太郎)、娘お光(文五郎)、油屋お勝(玉徳)。
	一九四六	昭和21	12/24	四ツ橋文楽座	新版歌祭文 野崎村の段(富・一郎右衛門・つばめ=錦糸・ツレ 清八)。 ※第3回若手向上会。	丁稚久松(和夫)、手代小助(玉市)、娘お染(紋之助)、親久作(紋昇)、久作女房(紋太郎)、娘お光(栄三郎)、油屋お勝(玉徳)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九四七	昭和22	1/24	ラジオ放送	(新版歌祭文) 野崎村(津、ほか)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「読売新聞」(1月24日)に拠る。	
	一九四七	昭和22	3/24~25	奈良友楽座	新版歌祭文 野崎村の段(切 呂=友衛門・ツレ 錦糸)。	丁稚久松(紋之助)、娘お染(光造)、親久作(玉徳)、娘お光(文五郎)。
△	一九四七	昭和22	6/28	山口山口経済専門学校講堂	(新版歌祭文) 野崎村。 ※「防長新聞」(6月25日の広告)に拠る。	(不明)
	一九四七	昭和22	7/4~11	京都南座	新版歌祭文 野崎村の段(切 相生=吉五郎、七五三・雛・浜ノつばめ・越名・相次・伊達男=寛治郎・叶太郎・八造・友十郎・一郎右衛門・仙松・猿二郎)。	久松(紋昇)、おそめ(栄三郎)、百姓久作(門造)、娘お光(光造)、後家お勝(玉男)。
△	一九四七	昭和22	11/4	京都知恩院境内源光院	(新版歌祭文) 野崎村(綱=弥七・ツレ 新三郎)。 ※第2回春秋会。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
	一九四八	昭和23	2/1~21	四ツ橋文楽座	新版歌祭文 野崎村の段(切 相生=清二郎//呂=松之輔・ツレ 一郎右衛門)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※2月7日ラジオ放送(「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(2月7日)に拠る)。	丁稚久松(紋之助)、娘お染(亀松)、親久作(玉市)、娘お光(紋十郎)、母お勝(玉男)。
	一九四八	昭和23	2/22	四ツ橋文楽座	新版歌祭文 野崎村の段(雛=錦糸・ツレ 寛治郎・喜左衛門)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※第5回若手向上会。	丁稚久松(光次)、娘お染(紋之助)、親久作(玉男)、娘お光(紋司)、母お勝(文五郎)。
△	一九四八	昭和23	5/29	富山富山座	(新版歌祭文) 野崎。 ※姫路・北陸巡業(5月公演打上げ後~29日)の内。 ※「富山新聞」(5月23日の広告)に拠る。	(不明)
	一九四八	昭和23	7/7~12	名古屋御園座	新版歌祭文 野崎村の段(切 相生=清二郎・ツレ 仙二郎)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(紋昇)、娘お染(紋司)、親久作(玉市)、娘お光(文五郎)、母お勝(兵次)。
△	一九四八	昭和23	7/16	浜松江東劇場	(新版歌祭文) お染久松 野崎村の段。 ※東海巡業(7月13~16日)の内。 ※「浜松民報」(7月21日の記事、7月16日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九四八	昭和23	12/14~15	福知山市福知山市公会堂	(新版歌祭文) お染久松 野崎村の段。 ※「京都新聞」(12月11日の広告)に拠る。	
	一九四九	昭和24	1/14~15・18~22	松坂会館<因会>	新版歌祭文 野崎村の段(松=綱造・ツレ 新三郎)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※文楽座因会としての初公演(『文楽興行記録昭和篇』)。	丁稚久松(玉男)、娘お染(紋司)、親久作(玉市)、娘お光(亀松)、母親お勝(登一)。
	一九四九	昭和24	3/28	和歌山大映遊楽座<因会>	新版歌祭文 野崎村の段(切 大隅=清八・ツレ 新三郎)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※日時と場所は「和歌山新聞」(3月21・27日の広告)に拠る。	丁稚久松(玉男)、娘お染(紋司)、親久作(玉市)、娘お光(文五郎)、母お勝(登一)。
△	一九四九	昭和24	4/22	瀬戸市東海劇場<組合>	(新版歌祭文) お染久松 野崎村の段(伊達)。 ※巡業(7日間)の内。 ※「東海民生新聞」(4月19日の広告)に拠る。	(不明)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九四九	昭和24	5/1~6	東京 有楽座 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段（中 雛=広助、切 山城少掾=清六・ツレ 清友）。 ※角書「お染／久松」。 ※豊竹山城少掾・吉田文五郎芸術院会員披露公演。 ※吉田文五郎2日より休演（『幕間』昭和24年6月号に拠る）。 ※『文楽興行記録昭和篇』は「野崎村の段・中」の三味線を野沢八造とする。	丁稚久松（玉男）、手代小助（亀松）、娘お染（光造）、親久作（玉市）、娘お光（文五郎）、母お勝（登一）。	
△	一九四九	昭和24	5/14	松江 出雲劇場 〈組合〉	（お染久松）	野崎村の段。 ※「島根新聞（西部版）」（5月6・13日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九四九	昭和24	5/29	兵庫 兵庫県立加古 川東高等学校 〈組合〉	（お染久松）	※加古川東高等学校主催の文楽研究会。 ※「加古中新聞」（7月1日）に拠る。	（不明）
	一九四九	昭和24	7/21~22	京都 祇園会館 〈組合〉	（新版歌祭文）	野崎村の段（呂=寛治郎、住=吉兵衛・ツレ 団作）。	久松（紋三郎）、お染（紋之助）、久作（玉徳）、お光（紋十郎）、お勝（小紋）。
△	一九四九	昭和24	7/23~25	岐阜 真砂座 〈組合〉	（新版歌祭文）	お染久松 野崎村の段。 ※巡業（11日間）の内。7月26日岐阜・伏見劇場、27日岐阜・大井劇場、28日岐阜・瑞浪映画劇場、30~31日高松・南座で同公演あり。 ※「岐阜タイムス」（7月18・21日の広告）、「東海夕刊」（7月21日の広告）、「中部日本新聞（岐阜版）」（7月21日の広告）、「濃飛新聞」（7月26日の広告）、「四国新聞」（7月29日の広告）に拠る。	
△	一九四九	昭和24	9/17	岡崎 岡崎劇場 〈組合〉	（新版歌祭文）	野崎村の段。 ※東海巡業の内。15日の公演予定が荷物延着のため17日に延期。 ※「東海新聞（岡崎版）」（9月15~17日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九四九	昭和24	9/28~29	和歌山県新宮 市 日の出映画劇場 〈組合〉	（お染久松 新 版歌祭文）	野崎村の段（前 伊達=喜左衛門、後 住=吉兵衛・ツレ 団作）。 ※巡業の内。新宮市警察署庁舎落成記念興行。 ※「紀南新聞」（9月27日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九四九	昭和24	10/18	今治市 大劇 〈組合〉	（お染久松 新 版歌祭文）	野崎村の段。 ※播州路・四国巡業の内。10月23日徳島・歌舞伎座で同公演あり。 ※「愛媛新聞」（10月16日の広告）、「徳島民報」（10月22日の広告）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	（不明）
△	一九四九	昭和24	11/19	京都 西洞院にしき 〈因会〉	（新版歌祭文）	野崎村（綱=弥七）。 ※第41回幕間友の会、浄瑠璃観賞講座（第5回）。解説並に義太夫。 ※『幕間』第4巻第12号（昭和24年12月号）に拠る。	
	一九四九	昭和24	12/1~8	東京 三越劇場 〈組合〉	新版歌祭文	野崎村の段（呂=寛治郎・ツレ 寛弘//住=吉兵衛・ツレ 寛弘）。 ※角書「お染／久松」。 ※芸術祭参加引越し興行。 ※「役のすんだ太夫三味線は動きの少ない人形の左や足に回る」（『文楽興行記録昭和篇』）	久松（紋三郎）、お染（紋之助）、久作（玉徳）、お光（紋十郎）、お勝（小紋）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九四九	昭和24	12/10	桐生 東宝劇場 〈組合〉	(新版歌祭文) 野崎村の段。 ※「上毛新聞」(12月8日の広告)に拠る。	(不明)
	一九五〇	昭和25	2/15~18	名古屋 御園座 〈因会〉	新版歌祭文 野崎村の段(久作一山城少掾・お光一相生・お染一雛・久松一宮・おかつ一浜・下女およし一隅若・船頭一織の・船頭一相次・船頭一弘=松之輔・ツレ 新三郎)。 ※角書「お染ノ久松」。	久松(光次)、お染(紋司)、親久作(玉市)、お光(文五郎)、後家おかつ(常次)。
△	一九五〇	昭和25	2/18~19	和歌山 田辺市公会堂 〈組合〉	(新版歌祭文) お染久松 野崎村の段。 ※和歌山巡業の内。 ※「紀伊民報」(2月15日の記事、2月14日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九五〇	昭和25	3/6	長崎市 西日本会館 〈組合〉	(お染久松 新版歌祭文) 野崎村の段。 ※九州巡業(15日間)の内。 ※「長崎日日新聞」(3月3日の広告)に拠る。	(不明)
	一九五〇	昭和25	3/9~13	東京 新橋演舞場 〈因会〉	新版歌祭文 野崎村の段(親久作一山城少掾・娘お光一相生・娘お染一雛・丁稚久松一宮・母お勝一隅若・下女およし一織の=豊助・ツレ 清友)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(和夫)、娘お染(紋司)、親久作(玉市)、娘お光(文五郎)、油屋お勝(登一)。
	一九五〇	昭和25	7/6~25	地方公演 (東北・信越) 〈因会〉	新版歌祭文 野崎村の段(切 山城少掾=弥七・ツレ 清友)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※豊竹山城少掾休演、竹本綱太夫が代演(『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る)。	丁稚久松(玉男)、油屋娘お染(紋司)、親久作(玉市)、婆(兵次)、おみつ(前=文五郎、後=亀松)、後家おかつ(常次)。
	一九五〇	昭和25	9/12~	地方公演 (関東・東北) 〈三和会〉	新版歌祭文 野崎村の段(切 住=友衛門・ツレ 団作)。 ※角書「お染ノ久松」。	久松(作十郎)、お染(紋之助)、久作(紋太郎)、お光(紋十郎)、お勝(小紋)。
△	一九五〇	昭和25	10/8	兵庫 洲本劇場 〈三和会〉	(お染久松 新版歌祭文) 野崎村の段。 ※「神戸新聞(淡路版)」(10月4日)、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	(不明)
	一九五一	昭和26	3/3~18	四ツ橋文楽座 〈因会〉	新版歌祭文 野崎村の段(親久作一大隅・娘お光一松・娘お染一越名・丁稚久松一織の・母お勝一河内ノ静・下女およし一弘=清八・ツレ 八造ノ清友)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※大阪府民劇場。 ※9日から18日、若手勉強会(『文楽興行記録昭和篇』)。 ※千種染は『松竹百年史』に拠る。	丁稚久松(光次)、娘お染(文雀)、親久作(玉市)、娘お光(栄三)、油屋お勝(登一)。
	一九五一	昭和26	4/1	(不明) 〈因会〉	新版歌祭文 野崎村の段(親久作一綱・娘お光一松・娘お染一越名・丁稚久松一織の・下女およし一織部・母お勝一河内=弥七・ツレ 寛弘)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※藤浪紡績株式会社阪和久米田工場新築記念。	丁稚久松(光次)、娘お染(文雀)、親久作(兵次)、娘お光(玉五郎)、母お勝(登一)。
	一九五一	昭和26	5/2~5	東京 新橋演舞場 〈因会〉	新版歌祭文 野崎村の段(親久作一相生・娘お光一雛・娘お染一越名・丁稚久松一織の・母お勝一宮・下女およし一織部=松之輔・ツレ 友十郎)。	丁稚久松(和夫改め 文雀)、娘お染(紋司改め 玉五郎)、親久作(玉市)、娘お光(亀松)、母お勝(登一)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九五一	昭和26	6/4~7/7	地方公演 (北陸・北海道・東北・信州) 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(親久作一山城少掾・お光一松・お染一越名・下女およし一十九・久松一織の・母おかつ一織部=豊助・ツレ 新三郎・寛弘)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(光次)、油屋娘お染(文雀)、親久作(玉市)、娘お光(栄三)、母おかつ(兵次)。	
一九五一	昭和26	8/1~	地方公演 (中国・四国) 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(越名=錦糸)。 ※さわり集。 ※松竹30周年記念興行。	娘お染(玉五郎)。	
△	一九五一	昭和26	8/15	京都 京都大丸 〈因会〉	(新版歌祭文)	野崎村お染の実演(松=八造)。 ※人形浄瑠璃解説と実演の会。 ※「都新聞」(8月13・16日)に拠る。	(不明)
△	一九五一	昭和26	11/12	金沢市 北国第一劇場 〈三和会〉	(新版歌祭文)	野崎村の段。 ※「北国新聞」(10月28日・11月11日の記事、11月6・11~12日の広告)、「石川新聞」(11月5日の広告)、『三和会公演控』に拠る。	(不明)
△	一九五一	昭和26	12/12	ラジオ放送 〈因会〉	(新版歌祭文)	野崎村(河内、ほか)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「読売新聞」(12月12日)に拠る。	
	一九五二	昭和27	2/9	松坂会館 〈因会〉	お染久松	野崎村(綱=弥七・ツレ 寛弘)。 ※名流鑑賞会。	
	一九五二	昭和27	5/2~21	四ツ橋文楽座 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(久作一河内・お光一南部・お染一織部・久松一弘ノ十九・母親一弘ノ十九・およし一織の=広助・ツレ 寛弘・藤之助)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※鶴沢清六復帰出演(筋書)。	丁稚久松(光次)、娘お染(玉五郎)、親久作(玉市)、娘お光(栄三)、母お勝(常次)。
	一九五二	昭和27	6/1~10	東京 三越劇場 〈三和会〉	新版歌祭文	野崎村の段(久作一七五三・お光一源・お染一呂賀・久松一古住・母親一松島・およし一伊達路=前 勝太郎・後 燕三・ツレ 一郎右衛門・団作・仙二郎・勝平・猿二郎)。 ※角書「お染ノ久松」。	久松(紋弥)、お染(紋之助)、親久作(辰五郎)、娘お光(紋十郎)、母おかつ(常次)。
	一九五二	昭和27	7/14~19	東京 新橋演舞場 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(中津=寛治郎、切山城少掾=藤蔵・ツレ 錦糸)。 ※14~19日まで日延べ(「東京新聞」(7月16日の記事、7月11日の広告)に拠る)。	丁稚久松(光次)、久三の小助(玉男)、娘お染(玉五郎)、親久作(玉助)、お光の母(紋太郎)、娘お光(文五郎)、母おかつ(登一)。
	一九五二	昭和27	8/6~10	京都 南座 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(中津=寛治郎、切山城少掾=藤蔵・ツレ 錦糸)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(光次)、手代小助(玉男)、娘お染(玉五郎)、親久作(玉市)、お光の母(紋太郎)、娘お光(文五郎)、油屋お勝(登一)。
	一九五二	昭和27	9/2~11	中座 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(親久作一相生・娘お光一雛・娘お染一宮・丁稚久松一織の・母お勝一十九・下女およし一弘=豊助)、久松堤お染は船(河内・宮・静・長子・相次・弘=鱗糸改め 喜八郎・八造・錦糸・新三郎・寛弘・藤之助・清好)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※近松門左衛門生誕三百年記念公演。 ※「お光文雀代り十日程」(『文楽興行記録昭和篇』)。	丁稚久松(光次)、娘お染(玉男)、親久作(玉助)、娘お光(文五郎)、母お勝(登一)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九五二	昭和27	9/28	山口 旧防府商業学 校講堂 〈三和会〉	新 版 歌 祭 文	(久作一つばめ・お光一古住・久松一伊達路・お染一呂賀・お勝+下 女一松島=叶太郎・友若・ツレ 一郎右衛門・猿二郎)。 ※五代目吉田辰五郎襲名披露。 ※丹後・山陽巡業(19日間)の内。	久松(紋二郎)、お染(紋之助)、久作(辰 五郎)、お光(勘十郎)、お勝(要助)。	
△	一九五二	昭和27	11/3~4	徳島 歌 舞 伎 座 〈三和会〉	(新版歌祭文)	野崎村の段。 ※九州・四国巡業(19日間)の内。10月30日高知市・中央公民館、10 月31日高知県後免町・日の出座で同公演あり。 ※「徳島民報」(11月2日の広告)、「徳島新聞」(11月2・4日)、 「高知新聞」(10月15・29~30日の広告)に拠る。	(不明)
	一九五二	昭和27	12/3~7	東京 新橋演舞場 〈因会〉	新 版 歌 祭 文	野崎村の段(松=清六・ツレ 清友・新三郎)。 ※近松門左衛門生誕三百年記念・文楽祭。	丁稚久松(玉昇)、娘お染(玉男)、親久作 (玉助)、娘お光(亀松)、母お勝(登 一)。
△	一九五三	昭和28	1/11	広島 広島市児童文 化会館 〈三和会〉	(新版歌祭文)	野崎村の段。 ※「中国新聞」(1月10日の記事、1月8・10日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九五三	昭和28	1/28	ラジオ放送 〈三和会〉	(新版歌祭文)	野崎村(つばめ)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「読売新聞」(1月28日)に拠る。	
	一九五三	昭和28	3/27~29	神戸 織 維 会 館 〈因会〉	新 版 歌 祭 文	野崎村の段(松=清六・ツレ 清友・新三郎)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※鶴沢道八追善。	丁稚久松(文雀)、娘お染(玉男)、親久作 (玉市)、娘おみつ(亀松)、母おかつ(常 次)。
△	一九五三	昭和28	4/4	敦賀市 国 際 劇 場 〈三和会〉	(新版歌祭文)	野崎村の段。 ※北陸・山陽・九州巡業の内。4月5日福井市・国際劇場、6日富山・富 山座、7日金沢市・北国第一劇場で同公演あり。 ※「福井新聞」(4月1・3~5日の広告)、「富山新聞」(4月4・6日の 広告)、「北国新聞」(4月5日の記事、4月7日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九五三	昭和28	5/17	加古川 兵庫県立加古 川東高等学校 講堂 〈三和会〉	(新版歌祭文)	野崎村の段。 ※文楽観賞会。 ※「神戸新聞(東播版)」(5月16日)に拠る。	(不明)
	一九五三	昭和28	6/1~7	四ツ橋文楽座 〈因会〉	お染久松 新版 歌祭文	野崎村の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大顔合せ特別公演。	丁稚久松(光次)、娘お染(玉男)、親久作 (玉助)、許嫁お光(栄三)、母お勝(淳 造)。
△	一九五三	昭和28	6/21	ラジオ放送 〈因会〉	(新版歌祭文)	野崎村(綱、ほか)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「読売新聞」(6月21日)に拠る。	
△	一九五三	昭和28	6/27	ラジオ放送 〈因会〉	(新版歌祭文)	野崎村の段(山城少掾=藤蔵・ツレ 吉三郎)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(6月27日)に拠 る。	
	一九五三	昭和28	9/4~6	京都 南 座 〈因会〉	新 版 歌 祭 文	野崎村の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大顔合せ特別公演。	丁稚久松(光次)、娘お染(玉男)、親久作 (紋太郎)、許嫁お光(玉五郎)、母お勝 (常次)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五三	昭和28	9/25	池田市公会堂 〈因会〉	お染久松 新版 歌祭文	野崎村の段。	(不明)
一九五三	昭和28	12/23~27	東京 新橋演舞場 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(松=清六・ツレ 清友)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(文雀)、娘お染(玉男)、親久作(玉市)、娘お光(亀松)、母お勝(紋太郎)。
一九五四	昭和29	1/22~24	名古屋 御園座 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(松=清六・ツレ 清好)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(文雀)、娘お染(玉男)、親久作(玉助)、娘お光(亀松)、母おかつ(常次)。
一九五四	昭和29	2/16~25	京都 弥栄会館 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(松=清六・ツレ 清好)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(光次)、娘お染(玉男)、親久作(玉助)、娘お光(亀松)、油屋お勝(常次)。
△一九五四	昭和29	3/10	ラジオ放送 〈三和会〉	(新版歌祭文)	野崎村の段(若=綱造)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(3月10日)に拠る。	
一九五四	昭和29	4/6	佐賀 北方会館 〈三和会〉	新版歌祭文	野崎村の段(前 つばめ=勝太郎、後 七五三=燕三・ツレ 団作)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※中国・九州巡業(3月20日~4月11日)の内。3月20日姫路・姫路市公会堂(役割不明)、3月21日福山・福山市公会堂(役割不明)で同公演あり(「神戸新聞(姫路版)」(3月13・21日)、『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る)。	丁稚久松(紋弥)、お染(紋二郎)、久作(辰五郎)、お光(勘十郎)、母お勝(紋之丞)。
一九五四	昭和29	4/20~	地方公演 (東海・東北・関東) 〈三和会〉	新版歌祭文	野崎村の段(つばめ=勝太郎・団作)。	丁稚久松(紋弥)、お染(紋二郎)、親久作(辰五郎)、お光(勘十郎)、母お勝(紋之丞)。
一九五四	昭和29	4/23~24	天理市 天理教館 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(伊達=八造・ツレ 藤二郎)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(光次)、娘お染(玉男)、親久作(玉助)、娘お光(前=文五郎、後=玉五郎)、母お勝(淳造)。
一九五四	昭和29	6/8~13	東京 三越劇場 〈三和会〉	新版歌祭文	野崎村の段(久作一七五三・お染一古住・久松一呂賀・およし一若子・おかつ一松島・お光一三和=燕三・ツレ 猿二郎・一郎右衛門・仙二郎・団作・八助・勝平・勝太郎・叶太郎)。	久松(紋弥)、お染(紋二郎)、久作(辰五郎)、お光(紋之助)、お勝(紋之丞)。
一九五四	昭和29	8/1~30	地方公演 (東海・北陸・東北・北海道) 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(久作一山城少掾・お光一雛・お染一和佐・久松一織の・母親一伊達路・下女一弘=藤蔵・錦糸・寛弘)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(玉男)、娘お染(玉五郎)、親久作(玉助)、娘お光(文五郎)、後家おかつ(常次)。
一九五四	昭和29	9/4・14~16	四ツ橋文楽座 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(松=清六・ツレ 清好・清治)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※9月13・14日、台風のため休演、27・28日に日延べ興行を行う(「毎日新聞(大阪版)」(9月13日)に拠る)。	丁稚久松(玉昇)、娘お染(玉男)、親久作(玉助)、娘お光(玉五郎)、母親おかつ(常次)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九五四	昭和29	9/14	前橋市 群馬会館 〈三和会〉	(新版歌祭文) 野崎村の段。 ※巡業(中部・北陸・関東)の内。9月13日伊勢崎市・伊勢崎市公民館、9月21日甲府市・中央劇場、22日諏訪市・諏訪市民会館で同公演あり。 ※「上毛新聞」(9月13日の広告)、「山梨日日新聞」(9月17日の記事、9月18日の広告)、「南信日日新聞」(9月15日の記事、9月21日の広告)、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	(不明)
	一九五四	昭和29	10/10~15	名古屋 新歌舞伎座 〈三和会〉	新版歌祭文 野崎村の段(久松一司・お染一呂賀・久作+下女一小松・母親一松島・お光一三和=勝太郎・ツレ 仙二郎・団作・勝平・猿二郎)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※『三和会公演控』『文楽因会三和会興行記録』は16~22日の公演とする。	久松(紋弥)、お染(紋二郎)、久作(辰五郎)、お光(紋之助)、お勝(紋之丞)。
	一九五四	昭和29	11/24	四ツ橋文楽座 〈因会〉	新版歌祭文 野崎村の段。 ※素人義太夫藤波和泉特別進歩賞披露祝賀人形浄瑠璃大会。	丁稚久松(文昇)、娘お染(文雀)、親久作(紋太郎)、娘お光(栄三)、母お勝(淳造)。
△	一九五四	昭和29	11/24	福井 福井市公会堂 〈三和会〉	(新版歌祭文) 野崎村の段。 ※北陸巡業(11月20日~)の内。11月20日富山座で同公演あり。 ※「福井新聞」(11月18・24日の記事、11月12・14・22日の広告)、「富山新聞」「北陸夕刊」(11月20日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九五五	昭和30	2/14	ラジオ放送	(新版歌祭文) 野崎村(綱義会連中)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(2月14日)に拠る。	
△	一九五五	昭和30	2/27	ラジオ放送 〈因会〉	(新版歌祭文) 野崎村の段(綱=弥七・寛弘)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(2月27日)に拠る。	
	一九五五	昭和30	3/4~13	京都 南座 〈因会〉	新版歌祭文 野崎村の段(伊達=八造・ツレ 寛弘)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(光次)、娘お染(文雀)、親久作(玉助)、娘お光(亀松)、母おかつ(兵次)。
	一九五五	昭和30	5/25~26	和歌山 和歌山市民会館 〈因会〉	お染久松 新版 歌祭文 野崎村の段(切 綱=弥七・ツレ 団二郎)。	丁稚久松(光次)、娘お染(文雀)、親久作(玉市)、娘お光(玉五郎)、母親おかつ(常次)。
	一九五五	昭和30	7/9~11	名古屋 御園座 〈因会〉	新版歌祭文 野崎村の段(伊達=清六・ツレ 清友・清治)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(光次)、娘お染(玉男)、親久作(玉市)、娘お光(栄三)、母おかつ(文五郎)。
	一九五五	昭和30	7/26~31	東京 新橋演舞場 〈因会〉	新版歌祭文 野崎村の段(伊達=清六・ツレ 清好・清治)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(玉昇)、娘お染(玉男)、親久作(玉市)、娘お光(栄三)、母親おかつ(兵次)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五五	昭和30	10/4~	地方公演 (東海・近畿・四国・九州・山陽) 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(久作一静・お光一南部・お染一織部・久松一十九・母おかつ一伊達路・下女およし一相子=藤蔵・ツレ 新三郎・藤二郎)。	丁稚久松(玉昇)、お染(玉男)、親久作(玉助)、娘お光(亀松)、母お勝(淳造)。
一九五五	昭和30	10/29	名古屋 御園座 〈因会〉	新版歌祭文	お染久松 野崎村の段(綱=弥七・ツレ 錦糸)。 ※第6回邦楽名人大会。	
一九五六	昭和31	2/1~4	道頓堀文楽座 〈因会〉	お染久松 新版 歌祭文	野崎村の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大合同公演。	丁稚久松(光次)、娘お染(玉男)、親久作(玉市)、娘お光(亀松)、母親おかつ(常次)。
一九五六	昭和31	2/26	姫路市 姫路市公会堂 〈三和会〉	新版歌祭文	野崎村の段(住=勝太郎・ツレ 仙二郎・団作・友若・勝平)。	久松(紋弥)、お染(紋二郎)、久作(辰五郎)、お光(勤十郎)、お勝(紋之丞)。
一九五六	昭和31	5/2~26	道頓堀文楽座 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(伊達=藤蔵・ツレ 藤二郎・団二郎)。 ※角書「お染/久松」。 ※千種楽は「朝日新聞(大阪版)」(5月25日)に拠る。	丁稚久松(玉昇)、娘お染(玉男)、親久作(玉市)、娘お光(亀松)、母親お勝(常次)。
一九五六	昭和31	6/12~16	東京 東横ホール 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(切 綱=弥七・ツレ 錦糸・団二郎)。 ※角書「お染/久松」。	丁稚久松(玉昇)、娘お染(文雀)、親久作(玉市)、娘お光(亀松)、母お勝(常次)。
一九五六	昭和31	10/3~24	地方公演 (北海道・東北・関東) 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(切 綱=弥七・ツレ 団二郎)。 ※角書「お染/久松」。	丁稚久松(文雀)、娘お染(玉五郎)、親久作(玉市)、娘お光(亀松)、母おかつ(兵次)。
一九五六	昭和31	10/26~27	東京 三越劇場 〈合同〉	新版歌祭文	野崎村の段(松=清六・ツレ 徳太郎・清好)。 ※芸術祭第3回文楽合同公演。 ※10月27日テレビ放送(「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(10月27日)に拠る)。	丁稚久松(紋七)、娘お染(紋二郎)、親久作(辰五郎)、娘お光(紋十郎)、母お勝(紋市)。
一九五七	昭和32	4/10~	地方公演 (中国・九州) 〈三和会〉	新版歌祭文	野崎村の段(切 源=叶太郎・ツレ 勝平)。 ※角書「お染/久松」。 ※『文楽興行記録昭和篇』は、人形役割の丁稚久松を桐竹紋寿と桐竹紋弥の一日替りとする。 ※4月10日大阪・貝塚市立公民館公演では、三味線のツレは竹沢団作、人形役割の丁稚久松を桐竹紋弥、母お勝を桐竹紋市。	丁稚久松(紋寿)、お染(紋二郎)、親久作(辰五郎)、お光(紋之助)、母お勝(紋之丞)。
一九五七	昭和32	4/18~23	京都 南座 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(伊達=藤蔵・ツレ 藤二郎)。 ※角書「お染/久松」。 ※吉田難波掾受領披露。	丁稚久松(文昇)、娘お染(東太郎)、親久作(玉市)、娘お光(亀松)、後家おかつ(淳造)。
一九五七	昭和32	5/10~	地方公演 (東北・北海道) 〈三和会〉	新版歌祭文	野崎村の段(切 源=叶太郎・ツレ 勝平)。 ※角書「お染/久松」。	久松(紋寿)、お染(紋二郎)、久作(辰五郎)、お光(紋之助)、お勝(紋市)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九五七	昭和32	6/22~24	山口 山陽パルプ株 式会社岩国工 場 〈因会〉	お染久松 新版 歌祭文	野崎村の段（切 綱=弥七・ツレ 団二郎）。 ※地方公演（中国・九州）の内。6月25日福岡・直方市国際劇場で同公 演あり（『松竹百年史』に拠る）。 ※日程は『松竹百年史』に拠る。	丁稚久松（玉昇）、娘お染（玉男）、親久作 （玉市）、娘お光（亀松）、母おかつ（常 次）。	
一九五七	昭和32	7/26~28	道頓堀文楽座 〈因会〉	お染久松 新版 歌祭文	野崎村の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大合同公演。豊澤三平五十年祭。	丁稚久松（小玉）、娘お染（文雀）、親久作 （玉市）、娘お光（玉五郎）、後家おかつ （常次）。	
一九五七	昭和32	8/3~4	神戸 神戸新聞会館 〈因会〉	新 版 歌 祭 文	野崎村の段（切 綱=弥七、後 雛=八造・ツレ 新三郎）。 ※角書「お染ノ久松」。 ※七世土佐大夫襲名披露。	丁稚久松（玉昇）、娘お染（文雀）、親久作 （玉市）、娘お光（前=文五郎事 難波掾、 後=玉五郎）、後家お勝（常次）。	
一九五七	昭和32	8/6~11	名古屋 御 園 座 〈因会〉	新 版 歌 祭 文	野崎村の段（切 綱=弥七、後 雛=八造・ツレ 新三郎）。 ※角書「お染ノ久松」。 ※伊達大夫改め七世竹本土佐大夫襲名披露。	丁稚久松（玉昇）、娘お染（文雀）、親久作 （玉市）、娘お光（前=文五郎事 難波掾、 後=玉五郎）、後家お勝（常次）。	
△	一九五八	昭和33	3/9	ラジオ放送 〈因会〉	（新版歌祭文） 野崎村から（源=叶太郎）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪 版）」（3月9日）に拠る。		
△	一九五八	昭和33	4/16~19	地方公演 （徳島・淡 路） 〈因会〉	新 版 歌 祭 文	野崎村。 ※『松竹百年史』に拠る。	（不明）
一九五八	昭和33	7/2~9	東京 三 越 劇 場 〈三和会〉	新 版 歌 祭 文	野崎村の段（つばめ=喜左衛門・ツレ 勝平）。 ※国立劇場設立促進・鶴沢綱造追善公演。	久松（紋寿）、お染（紋二郎）、久作（辰五 郎）、お光（紋之助）、母親（国秀）。	
一九五八	昭和33	9/1~11	道頓堀文楽座 〈合同〉	新 版 歌 祭 文	野崎村の段（久作一津・お光一土佐ノ松・お染一土佐ノ松・久松一 雛・母お勝一和佐・下女およし一静=清六・ツレ 徳太郎・清好）。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松（玉男）、娘お染（栄三）、親久作 （玉市）、娘お光（紋十郎）、母親お勝（玉 五郎）。	
一九五九	昭和34	1/30	愛媛 今治市公会堂 〈因会〉	新 版 歌 祭 文	野崎村の段。 ※「愛媛新聞」（1月26日）に拠る。		
一九五九	昭和34	1/31	道頓堀文楽座 〈合同〉	新 版 歌 祭 文	野崎村の段（久作一弘・お光一相子・お染一津の子・久松一綱子・祭 文売一小松・小助一織の・およし+お勝一若子=藤蔵・団二郎・藤二 郎）。 ※文楽嫩会結成記念公演。	久松（一暢）、久三の小助（玉幸）、お染 （勘之助）、久作（玉昇）、お光（文雀）、 お勝（小紋）。	
一九五九	昭和34	2/17~20	東京 新橋演舞場 〈合同〉	新 版 歌 祭 文	野崎村の段（親久作一つばめ・娘お光一土佐・娘お染一松・丁稚久 松一南部・下女およし一小松・母親お勝一和佐=喜左衛門・ツレ 燕 三・勝平）。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松（紋之助）、娘お染（栄三）、親久 作（玉助）、娘お光（亀松）、母お勝（作十 郎）。	
一九五九	昭和34	3/23	京都 南 座 〈合同〉	新 版 歌 祭 文	野崎村の段（久作一弘・お光一相子・お染一津の子・久松一綱子・祭 文売一小松・小助一織の・およし一松香・お勝一津弥=藤蔵・団二 郎・藤二郎）。 ※文楽嫩会第3回例会、結成記念京都公演。	久松（一暢）、久三の小助（玉幸）、お染 （勘之助）、久作（玉昇）、お光（文雀）、 お勝（小紋）。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五九	昭和34	4/11	京都綾部市 〈三和会〉	お染久松 新版 歌祭文	野崎村の段（古住＝市治郎・ツレ 団作）。 ※大本みろく大祭。奉納文楽。	久松（紋弥）、お染（紋二郎）、久作（辰五郎）、お光（紋之助）、お勝（小紋）。
一九五九	昭和34	5/26～27	道頓堀文楽座 〈因会〉	お染久松 新版 歌祭文	野崎村の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫合同公演。	丁稚久松（文昇）、娘お染（玉五郎）、親久作（玉市）、娘お光（亀松）、母お勝（兵次）。
一九五九	昭和34	6/13～15	名古屋 御園座 〈合同〉	新版歌祭文	野崎村の段（親久作一津・娘お光一土佐・娘お染一南部・丁稚久松一古住・母お勝一和佐・下女およし一相子＝寛治・ツレ 団六）。 ※角書「お染／久松」。 ※6月21日テレビ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（6月21日）に拠る）。	丁稚久松（紋二郎）、娘お染（玉男）、親久作（辰五郎）、娘お光（栄三）、母おかつ（紋之助）。
一九五九	昭和34	8/14	ラジオ放送 〈合同〉	（新版歌祭文）	野崎村（つばめ、土佐）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（8月14日）に拠る。	
一九六〇	昭和35	1/1～24	道頓堀文楽座 〈合同〉	新版歌祭文	野崎村の段（中 静＝吉三郎、前 松＝松之輔、後 津＝寛治//つばめ＝喜左衛門・ツレ 叶太郎・藤二郎）。 ※角書「お染／久松」。	丁稚久松（東太郎）、手代小助（勘十郎）、娘お染（玉男）、親久作（辰五郎）、久作女房（国秀）、娘お光（亀松）、母おかつ（作十郎）。
一九六〇	昭和35	1/26～27	道頓堀文楽座 〈因会〉	お染久松 新版 歌祭文	野崎村の段。 ※文楽座人形浄瑠璃女義太夫大合同公演。	丁稚久松（文昇）、娘お染（玉男）、親久作（玉市）、娘お光（玉五郎）、母親おかつ（文雀）。
一九六〇	昭和35	1/30	愛媛 今治市公会堂 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段（弘・織の＝団六・藤二郎）。	丁稚久松（小玉）、娘お染（文昇）、親久作（玉市）、娘お光（玉五郎）、母お勝（玉米）。
一九六〇	昭和35	2/11～20	東京 新橋演舞場 〈合同〉	新版歌祭文	野崎村の段（前 つばめ＝喜左衛門、後 若＝勝太郎・ツレ 市治郎・藤二郎）。 ※角書「お染／久松」。	丁稚久松（東太郎）、娘お染（玉五郎）、親久作（辰五郎）、久作女房（国秀）、娘お光（亀松）、母親おかつ（作十郎）。
一九六〇	昭和35	3/1～8	京都 南座 〈合同〉	新版歌祭文	野崎村の段（前 古住改め 文字＝叶太郎、後 津＝寛治・ツレ 団六・勝平）。 ※角書「お染／久松」。※古住大夫改め竹本文字大夫・紋之助改め豊松清十郎襲名披露。芸術院会員吉田難波椽文化功労者受章記念興行。	丁稚久松（紋二郎）、娘お染（玉五郎）、親久作（辰五郎）、娘お光（栄三）、母お勝（作十郎）。
一九六〇	昭和35	4/1～16	地方公演 （山陽・九州） 〈三和会〉	新版歌祭文	野崎村の段（つばめ＝喜左衛門・ツレ 猿二郎）。 ※角書「お染／久松」。	丁稚久松（紋弥）、お染（紋二郎）、親久作（辰五郎）、お光（紋之助改め 清十郎）、お勝（国秀）。
一九六〇	昭和35	4/19	東京 新橋演舞場 〈合同〉	お染久松 新版 歌祭文	野崎村の段（綱＝弥七・ツレ 勝平）。 ※綱弥会・西東会共催文楽素浄瑠璃の会。	
△一九六〇	昭和35	5/12	ラジオ放送 〈因会〉	（新版歌祭文）	野崎村の段（松＝清六）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（5月12日）に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九六〇	昭和35	5/27~ 6/19	地方公演 (東海・関東) 〈三和会〉	新版歌祭文	野崎村の段(つばめ=喜左衛門・ツレ 仙二郎・団作)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(紋弥)、お染(紋二郎)、親久作(辰五郎)、お光(紋十郎)、お勝(国秀)。	
		6/19	足利市 興国化学講堂 〈三和会〉		野崎村の段(若=勝太郎・ツレ 勝平)。	久松(紋弥)、お染(紋二郎)、久作(辰五郎)、お光(紋十郎)、お勝(国秀)。	
一九六〇	昭和35	9/14~ 10/4	地方公演 (東海・関東) 〈三和会〉	新版歌祭文	野崎村の段(つばめ=喜左衛門・ツレ 仙二郎・団作)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(紋弥)、お染(紋二郎)、親久作(辰五郎)、お光(紋十郎)、お勝(国秀)。	
一九六〇	昭和35	10/1	広島 広島大学三原 分校講堂 〈因会〉	新版歌祭文	お染久松 野崎村の段(津=団六・藤二郎)。 ※中国巡業(9月28日~)の内。	久松(文昇)、お染(玉男)、久作(玉市)、お光(玉五郎)、お勝(玉幸)。	
一九六一	昭和36	2/1~12	東京 三越劇場 〈三和会〉	新版歌祭文	野崎村の段(文字=交替出演 燕三ノ市治郎・ツレ 仙二郎)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※第13回学生の文楽教室。	久松(紋弥)、お染(紋寿ノ勘之助)、久作(辰五郎ノ勘十郎)、お光(清十郎ノ紋二郎)、お勝(国秀ノ作十郎)。	
△	一九六一	昭和36	ラジオ放送 〈合同〉	(新版歌祭文)	野崎村の段(春子、つばめ=松之輔、喜左衛門、勝平)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(2月17日)に拠る。		
	一九六一	昭和36	5/1~20	道頓堀文楽座 〈合同〉	新版歌祭文	野崎村の段(久作一綱・お光一土佐・お染一春子・久松一織の・母お勝一文字・下女およし一津の子=弥七・ツレ 勝平・団二郎)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※因会・三和会(参加)公演。	丁稚久松(玉五郎)、娘お染(亀松)、親久作(玉助)、娘お光(紋十郎)、母おかつ(文雀)。
△	一九六一	昭和36	6/9~18	地方公演 (関東・東北・北陸) 〈合同〉	(新版歌祭文)	野崎村の段(久作一つばめ・お光一春子・お染一南部・久松一文字・母親一十九・およし一津の子=喜左衛門・ツレ 吉三郎・錦糸)。 ※『昭和36年度因協会年報』に拠る。	久松(玉昇)、お染(玉男)、久作(玉市)、お光(亀松)、お勝(文昇)。
△	一九六一	昭和36	6/20~21	山口 宇部市公会堂 〈因会〉	(新版歌祭文)	野崎村。 ※宇部市教育委員会主催文楽教室。 ※『吉田文雀ノート』に拠る。	お光(文雀)。
△	一九六一	昭和36	6/22	広島 ノートルダム 清心学園 〈因会〉	(新版歌祭文)	野崎村。 ※『吉田文雀ノート』に拠る。	(不明)
	一九六一	昭和36	7/27	東京 歌舞伎座 〈因会〉	お染久松 新版 歌祭文	野崎村の段(春子=松之輔・ツレ 藤二郎)。 ※文楽座大夫三味線名曲鑑賞会。	
	一九六一	昭和36	9/22	松坂会館 〈因会〉	新版歌祭文	お染久松 野崎村の段。 ※有楽会素義会に人形参加。	久松(玉幸)、お染(文昇)、親久作(玉市)、娘お光(玉五郎)、母お勝(玉男)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六一	昭和36	9/28~ 10/5	地方公演 (四国) 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段(前 春子=吉三郎、後 土佐=藤蔵・団二郎)。 ※角書「お染ノ久松」。	久松(玉幸)、お染(文昇)、久作(玉市)、お光(玉五郎)。
一九六二	昭和37	4/18~5/3	地方公演 (東海・関東) 〈三和会〉	新版歌祭文	野崎村の段(つばめ=喜左衛門・ツレ 仙二郎・勝之輔)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(紋弥)、お染(簗助)、親久作(辰五郎)、お光(紋十郎)、お勝(国秀)。
一九六二	昭和37	5/1	東京 立教大学立大 タッカーホール 〈三和会〉	お染久松 新版 歌祭文	野崎村の段(切 つばめ、後 若子=喜左衛門・ツレ 団作・勝之輔)。 ※立教大学歌舞伎研究会主催「文楽を観る会」。	丁稚久松(紋弥)、お染(簗助)、親久作(辰五郎)、お光(清十郎)、お勝(国秀)。
一九六二	昭和37	6/2	神戸 神戸海員会館 〈三和会〉	新版歌祭文	野崎村の段(切 若=勝太郎・ツレ 団作・勝之輔)。	丁稚久松(紋寿)、お染(簗助)、親久作(辰五郎)、お光(紋十郎)、母おかつ(国秀)。
△一九六二	昭和37	6/13~22	地方公演 (関東) 〈三和会〉	(新版歌祭文)	野崎村(つばめ=喜左衛門・ツレ 仙次郎・勝之輔)。 ※東京都内文楽教室。 ※日程は『義太夫年表 昭和篇』、他は『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	久松(紋弥)、お染(簗助)、久作(辰五郎)、お光(紋十郎)、お勝(国秀)。
一九六二	昭和37	10/18	神戸 国際会館大 ホール 〈三和会〉	お染久松 新版 歌祭文	野崎村の段(前 つばめ=喜左衛門、後 小松=燕三・ツレ 仙二郎・団作)。	久松(勘之助)、お染(清十郎)、久作(辰五郎)、お光(紋十郎)、お勝(国秀)。
一九六二	昭和37	10/29~ 11/16	地方公演 (東海・関東・中部) 〈三和会〉	新版歌祭文	野崎村の段(つばめ=喜左衛門・ツレ 仙二郎・勝之輔)。 ※角書「久松ノお染」。 ※10月30日静岡・浜松市民会館では演目差し替え。	丁稚久松(紋弥)、お染(簗助)、親久作(辰五郎)、お光(紋十郎)、お勝(国秀)。
一九六二	昭和37	11/25	京都 京都大学 〈三和会〉	お染久松 新版 歌祭文	野崎村の段(つばめ=喜左衛門・ツレ 勝平・勝之輔)。 ※京大歌舞伎研究会主催「古典芸能鑑賞会」。	丁稚久松(紋弥)、お染(簗助)、親久作(辰五郎)、お光(紋十郎)、お勝(紋七)。
一九六二	昭和37	12/4	熊本 八代市厚生会 館 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の場(十九、相子=吉三郎、団二郎)。	(不明)
△一九六二	昭和37	12/5	福岡 小倉市民会館 〈因会〉	(新版歌祭文)	野崎村。 ※歳末義金助け合い公演。 ※『吉田文雀ノート』、「朝日新聞(福岡・北九州版)」(12月4日)に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六三	昭和38	1/1~10	道頓堀文楽座 〈因会〉	新版歌祭文 通し狂言	座摩社前の段（大隅＝吉三郎）、野崎村の段（久作＝相生・手代小助＝津・お光＝土佐・お染＝春子・久松＝織の改め 織＝おかつ＝大隅・およし＝綱子＝藤蔵・ツレ 徳太郎）、油屋の段（中 南部＝錦糸、切 綱＝弥七）。 ※竹本織の大夫改め五代目竹本織大夫襲名披露。 ※1月14日「油屋の段」ラジオ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（1月14日）に拠る。	丁稚久松（東太郎）、手代小助（玉男）、鈴木弥忠太（玉幸）、油紋り勘六（玉市）、娘お染（玉五郎）、久作（玉助）、娘お光（亀松）、油屋おかつ（文雀）、乳母お庄（常次）。
△	一九六三	昭和38	ラジオ放送 〈因会〉	（新版歌祭文）	野崎村（春子）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（1月1日）に拠る。	
一九六三	昭和38	1/11	道頓堀文楽座 〈因会〉	新版歌祭文	野崎村の段（中 綱子＝弥七、前 文字＝勝太郎、後 織の改め 織＝藤蔵・ツレ 勝之輔）。 ※文楽三業養成会・若手勉強発表会。	丁稚久松（紋次）、手代小助（玉幸）、お染（小玉）、親久作（文昇）、お光（文雀）、母お勝（玉之助）。
一九六三	昭和38	2/8~13	東京 東横ホール 〈因会〉	新版歌祭文 通し狂言	座摩社頭の段（大隅＝吉三郎）、野崎村の段（中 十九＝徳太郎、前 土佐＝吉三郎、後 相生＝重造・ツレ 新三郎）、油屋の段（中 南部＝錦糸、切 綱＝弥七）。 ※織の大夫改め五代目竹本織大夫襲名披露。東京お名残り自主公演。 ※文楽協会設立に伴う因会最期の自主公演（『文楽興行記録昭和篇』）。	丁稚久松（東太郎）、手代小助（玉男）、鈴木弥忠太（玉幸）、油紋り勘六（玉市）、娘お染（玉五郎）、久作（玉助）、娘お光（亀松）、油屋おかつ（文雀）、乳母お庄（常次）。
一九六三	昭和38	2/14~15	東京 東横ホール 〈合同〉	新版歌祭文	野崎村の段（中 綱子＝弥七、前 文字＝勝太郎、後 織の改め 織＝藤蔵・ツレ 勝之輔）。 ※文楽因会三和会合同若手公演・国家指定芸能鑑賞会。	丁稚久松（紋次）、手代小助（玉幸）、お染（小玉）、親久作（文昇）、お光（文雀）、母お勝（玉之助）。
一九六三	昭和38	2/22~3/9	地方公演 （東京） 〈三和会〉	新版歌祭文	野崎村の段（つばめ＝喜左衛門・ツレ 勝平）。 ※角書「久松／お染」。	丁稚久松（紋弥）、お染（簗助）、親久作（辰五郎）、お光（紋十郎）、お勝（国秀）。
一九六三	昭和38	5/11~23	地方公演 （中国・九州）	新版歌祭文	野崎村の段（津＝勝太郎・ツレ 勝平）。 ※角書「お染／久松」。 ※財団法人「文楽協会」誕生記念地方公演。	久松（紋弥）、お染（玉男）、久作（玉市）、お光（亀松）、母お勝（常次）。
一九六三	昭和38	5/24~25	四天王寺会館	新版歌祭文	野崎村の段より（清治、徳太郎）。 ※義太夫三味線の演奏のみ。 ※上宮学園昭和38年度校祖誕生会。	
△	一九六四	昭和39	ラジオ放送	（新版歌祭文）	野崎村の段（若子＝勝太郎・勝之輔）。 ※「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（1月23・30日）に拠る。	
一九六四	昭和39	3/3~22	朝日座	新版歌祭文	野崎村の段（口 大隅＝燕三、前 織＝藤蔵、後 つばめ＝喜左衛門・ツレ 勝平）。 ※文五郎事吉田難波掾追善。	丁稚久松（玉昇）、小助（紋弥）、娘お染（簗助）、親久作（辰五郎）、娘おみつ（玉五郎）、母お勝（文昇）。
△	一九六四	昭和39	ラジオ放送	（新版歌祭文）	野崎村の段（織＝藤蔵・勝之輔）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（4月16・23日）に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六四	昭和39	5/14~16	京都 祇園会館	新版歌祭文	野崎村の段（口 大隅＝燕三、つばめ＝喜左衛門・ツレ 勝平・寛弘）。 ※文五郎事吉田難波掾追善。	丁稚久松（簗助）、小助（紋弥）、娘お染（清十郎）、親久作（辰五郎）、娘お光（玉五郎）、母お勝（文昇）。
一九六四	昭和39	5/23~24	名古屋 愛知文化講堂	新版歌祭文	野崎村の段（口 大隅＝燕三、切 つばめ＝喜左衛門・ツレ 勝平）。	丁稚久松（簗助）、小助（紋弥）、娘お染（清十郎）、親久作（長五郎）、娘お光（玉五郎）、母お勝（文昇）。
一九六四	昭和39	5/30	神戸 神戸海員会館	新版歌祭文	野崎村の段（前 織＝藤蔵、後 土佐＝吉兵衛・ツレ 清治）。 ※国連協会主催。	丁稚久松（玉昇）、娘お染（玉五郎）、親久作（玉市）、娘お光（亀松）、母お勝（常次）。
一九六四	昭和39	7/18~8/3	地方公演 （関東・甲信越）	新版歌祭文	野崎村の段（南部／春子＝吉兵衛・ツレ 清治）。	丁稚久松（玉幸）、娘お染（文雀）、親久作（辰五郎）、娘おみつ（栄三）、母お勝（常次）。
一九六四	昭和39	10/3~12	東京 芸術座	新版歌祭文	野崎村（前 土佐＝吉兵衛・ツレ 寛弘、後 つばめ＝喜左衛門・ツレ 勝平）。 ※芸術祭主催公演・東京都芸術祭公演。 ※10月9・20日ラジオ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（10月9・20日）に拠る）。	丁稚久松（紋弥）、娘お染（清十郎）、親久作（辰五郎）、娘おみつ（栄三）、母お勝（国秀）。
一九六四	昭和39	10/21~27	地方公演 （四国・九州）	新版歌祭文	野崎村の段（相生＝弥七・ツレ 寛弘）。	丁稚久松（玉幸）、娘お染（簗助）、親久作（玉市）、娘おみつ（栄三）、母お勝（玉五郎）。
△	一九六四	昭和39	広島 尾道市公会堂	（新版歌祭文）	野崎村（春子＝吉兵衛・ツレ 寛弘）。 ※地方公演（12月4~13日、北九州・山陽）の内。 ※文楽協会資料、『昭和39年度因協会年報』、『吉田文雀ノート』に拠る。	久松（文雀）、お染（玉男）、久作（玉市）、お光（紋十郎）、お勝（辰五郎）。
△	一九六五	昭和40	栃木県足利市 月見ヶ丘会館	新版歌祭文	野崎村の段（文字＝燕三・ツレ 清治）。 ※地方公演（東海・関東）の内。 ※文楽協会資料、『昭和40年度因協会年報』、『文楽友の会通信』第10号、『吉田文雀ノート』に拠る。	丁稚久松（紋弥）、娘お染（玉男）、親久作（勘十郎）、娘お光（紋十郎）、母お勝（常次）。
	一九六五	昭和40	尼崎 広濟寺	新版歌祭文	野崎村の段。 ※大近松二百四十二年祭。録音テープを使用。	娘お染（文雀）。
	一九六六	昭和41	東京 三越劇場	新版歌祭文	野崎村の段（つばめ＝喜左衛門・ツレ 勝平）。 ※豊竹若大夫・鶴沢寛治の叙勲を祝って。	丁稚久松（文昇）、娘お染（簗助）、親久作（玉男）、娘おみつ（玉五郎）、母お勝（文雀）。
△	一九六六	昭和41	地方公演 （東海・関東）	新版歌祭文	野崎村の段（前 土佐＝吉兵衛、後 津／織＝勝太郎・ツレ 勝平・寛弘）。 ※文楽協会資料、『文楽友の会通信』第12号に拠る。	丁稚久松（玉昇）、娘お染（簗助）、親久作（辰五郎）、娘お光（紋十郎）、母お勝（作十郎）。
	一九六六	昭和41	地方公演 （東海・関東）	新版歌祭文	野崎村の段（前 土佐＝重造、後 大隅＝徳太郎・ツレ 寛弘）。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	丁稚久松（文昇）、娘お染（簗助）、親久作（辰五郎）、娘お光（紋十郎）、母お勝（作十郎）。
		4/26	神奈川 神奈川県立上溝高等学校		野崎村（前 源＝叶太郎、後 大隅＝徳太郎・ツレ 新三郎）。 ※文楽教室。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
		5/2	滋賀 長浜市民会館		野崎村（前 土佐＝重造、後 大隅＝錦糸・ツレ 新三郎//文字＝錦糸・ツレ 新三郎）。 ※「中日新聞（滋賀版）」（4月29日）、文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る。	お染（文雀）、お光（栄三）。
△	一九六六	昭和41	6/24	京都 京都会館第一 ホール	（新版歌祭文） 野崎村の段。 ※古典芸能（文楽・落語・狂言）の団体鑑賞。 ※「京都新聞」（6月23日）、『吉田文雀ノート』に拠る。	（不明）
△	一九六六	昭和41	6/24	京都 精華女子高等 学校・東向日 町西山高等学 校	（新版歌祭文） 野崎村。 ※『吉田文雀ノート』に拠る。	お染（文雀）。
	一九六六	昭和41	8/5 8/6	吹田市民会館 松原市立松原 中学校 羽曳野市立古 市小学校	新 版 歌 祭 文 野崎村の段（前 織＝燕三、後 十九＝錦糸・ツレ 団二郎）。 ※大阪府民劇場。	丁稚久松（文雀）、娘お染（簗助）、親久作（玉男）、娘お光（玉五郎）、母お勝（小玉）。
	一九六七	昭和42	1/8～22	朝 日 座	新 版 歌 祭 文 野崎村の段（切 土佐＝吉兵衛、切 相生＝重造、源、文字、若子、小松、小春、大隅＝叶太郎、錦糸、団二郎、清治、勝之輔、仙次郎）。 ※竹本土佐太夫1月18～22日休演のため、竹本文字太夫代演（『吉田文雀ノート』に拠る）。	丁稚久松（小玉）、娘お染（簗助）、親久作（辰五郎）、おみつの母（兵次）、娘おみつ（栄三）、母お勝（文昇）。
	一九六七	昭和42	1/23～24	朝 日 座	新 版 歌 祭 文 野崎村の段（相子／若子、若子／相子＝団二郎・ツレ 勝之輔）。 ※復活第1回文楽若手向上会。	丁稚久松（福丸）、娘お染（紋寿）、親久作（紋弥）、娘おみつ（小玉）、母お勝（小紋）。
	一九六七	昭和42	5/27～28	名古屋 中日劇場	新 版 歌 祭 文 野崎村の段（十九＝錦糸、土佐＝吉兵衛・ツレ 清治）。 ※中日劇場開場1周年記念公演。	丁稚久松（玉昇）、娘お染（簗助）、親久作（辰五郎）、娘おみつ（玉五郎）、母お勝（常次）。
△	一九六八	昭和43	1/27	朝 日 座	（お染久松 新 版歌祭文） 野崎村の段。 ※竹本三蝶一座。女義太夫に人形参加。 ※チラシに拠る。	丁稚久松（玉幸）、娘お染（文昇）、親久作（玉男）、娘お光（玉五郎）、母お勝（作十郎）。
	一九六八	昭和43	8/10～15	地 方 公 演 （東北・北海 道）	新 版 歌 祭 文 野崎村の段（口 小松＝勝平、文字＝燕三・ツレ 勝平・団二郎・勝之輔）。 ※文化庁主催青少年芸術劇場。	丁稚久松（文昇）、娘お染（玉五郎）、親久作（玉男）、娘おみつ（栄三）、母お勝（小玉）。
	一九六九	昭和44	1/2～19	朝 日 座	新 版 歌 祭 文 野崎村の段（大隅＝勝平、織＝徳太郎、相生＝重造・ツレ 清治・勝之輔）。 ※竹本大隅太夫1月19日休演のため、竹本相子太夫代演（『吉田文雀ノート』に拠る）。	丁稚久松（文昇）、久三の小助（玉五郎）、娘お染（清十郎）、親久作（辰五郎）、娘おみつ（紋十郎）、おみつの母（国秀）、母お勝（文雀）。
△	一九六九	昭和44	2/2～3	朝 日 座	（新版歌祭文） 野崎村の段（相子＝勝平、越路＝弥七・ツレ 団二郎）。 ※労音公演。 ※文楽協会資料、『昭和43年度年報』に拠る。	丁稚久松（玉昇）、久三の小助（玉五郎）、娘お染（清十郎）、親久作（辰五郎）、娘おみつ（紋十郎）、母お勝（文雀）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六九	昭和44	3/25~ 4/10	地方公演 (東海・関東)	新版歌祭文	野崎村の段(織=徳太郎、津=団六・ツレ 勝之輔)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	丁稚久松(文昇)、娘お染(文雀)、親久作(玉男)、娘おみつ(簗助)、母お勝(紋寿)。
一九六九	昭和44	6/6~8	京都 弥栄会館	新版歌祭文	野崎村の段(相生=重造・ツレ 団二郎)。	丁稚久松(玉昇)、娘お染(清十郎)、親久作(辰五郎)、娘おみつ(亀松)、母お勝(小玉)。
一九六九	昭和44	6/11~26	地方公演 (北陸・関東・東海)	新版歌祭文	野崎村の段(小松=勝平、十九=吉兵衛・ツレ 団六)。	丁稚久松(小玉)、娘お染(玉五郎)、親久作(辰五郎)、娘おみつ(栄三)、母お勝(玉昇)。
一九七一	昭和46	1/2~17	朝日座	新版歌祭文 通し狂言	座摩社前の段(伊達路=吉兵衛)、野崎村の段(小松=勝平、越路=喜左衛門・ツレ 勝之輔)、油屋の段(咲=錦糸、文字=弥七)、蔵場の段(嶋=団六)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※桐竹勘十郎休演のため、油絞り勘六を吉田玉昇が代演、1月3日より吉田玉五郎休演のため、油屋お勝を吉田文昇が代演(文楽協会資料、『吉田文雀ノート』、「朝日新聞(大阪版)」(1月11日)に拠る)。 ※5月3日テレビ放送(「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(5月3日)、NHKクロニクルに拠る)。	丁稚久松(清十郎)、手代小助(玉男)、鈴木弥忠太(玉幸)、油絞り勘六(勘十郎)、娘お染(簗助)、親久作(亀松)、おみつの母(国秀)、娘おみつ(栄三)、油屋お勝(玉五郎)、乳母お庄(文雀)。
一九七一	昭和46	1/18~19	朝日座	新版歌祭文 通し狂言	座摩社前の段(呂=勝平)、野崎村の段(久作=咲・おみつ=小松・お染=嶋・久松=英・お勝=緑・およし=津駒・おみつの母=相子=前 勝之輔・後 清治・ツレ 勝之輔)、油屋の段(伊達路=団二郎)、蔵場の段(松香=団六)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※第9回文楽若手向上会。	丁稚久松(紋寿)、手代小助(紋弥)、鈴木弥忠太(玉女)、油絞り勘六(玉幸)、娘お染(一暢)、親久作(文昇)、おみつの母(国秀)、娘おみつ(小玉)、油屋お勝(勘寿)、乳母お庄(常次)。
一九七一	昭和46	1/23~24	朝日座	新版歌祭文	野崎村の段(織=道八・ツレ 清治)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※労音公演。	丁稚久松(紋弥)、娘お染(文昇)、親久作(玉男)、娘おみつ(清十郎)、油屋お勝(小玉)。
△	一九七一	昭和46	1/26	神戸 神戸海員会館	(新版歌祭文) 野崎村。 ※労音公演。 ※『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	
一九七一	昭和46	2/7~21	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文 通し狂言	上の巻 座摩社の段(伊達路=吉兵衛)、野崎村の段(小松=勝平、越路=喜左衛門・ツレ 勝之輔)、下の巻 長町の段(相子=叶太郎)、油屋の段(咲=錦糸、文字=弥七、嶋=団六)。 ※角書「お染ノ久松」。 ※野沢喜左衛門=作曲(「長町の段」)。	丁稚久松(清十郎)、久三の小助(玉男)、鈴木弥忠太(玉幸)、油絞り勘六(玉昇)、娘お染(簗助)、親久作(亀松)、おみつの母(国秀)、娘おみつ(栄三)、母お勝(文昇)、乳母お庄(文雀)。
△	一九七一	昭和46	2/22	東京 共立講堂	(新版歌祭文) 野崎村。 ※労音公演。 ※『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割	
一九七一	昭和46	3/16~28	地方公演 (東海道・信越・関東)	新版歌祭文	野崎村の段(相子=吉兵衛、織=燕三・ツレ 勝之輔)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	丁稚久松(一暢)、娘お染(文昇)、親久作(玉男)、娘おみつ(亀松)、母お勝(小玉)。	
一九七一	昭和46	6/11~23	地方公演 (北陸・信越・関東)	新版歌祭文	野崎村の段(相子=吉兵衛、伊達路=清治・ツレ 勝之輔)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	丁稚久松(紋弥)、娘お染(紋寿)、親久作(辰五郎)、娘おみつ(簗助)、母お勝(玉幸)。	
一九七一	昭和46	9/20~21	地方公演 (関東)	新版歌祭文	野崎村の段(越路=喜左衛門・ツレ 勝平)。 ※文化庁主催移動芸術祭。	丁稚久松(紋弥)、娘お染(一暢)、親久作(勘十郎)、娘おみつ(簗助)、油屋お勝(国秀)。	
		11/2~7	地方公演 (四国・中国・九州)				
一九七一	昭和46	10/2	兵庫 豊岡市民会館	新版歌祭文	野崎村の段(越路=喜左衛門・ツレ 勝平)。 ※開館落成記念文楽公演。 ※大夫・三味線の配役は文楽協会資料に拠る。	丁稚久松(紋弥)、娘お染(一暢)、親久作(勘十郎)、娘おみつ(簗助)、油屋お勝(国秀)。	
△	一九七一	昭和46	11/10	兵庫 兵庫県立明石高等学校	(新版歌祭文)	野崎村(小松=団二郎)。 ※『吉田文雀ノート』、『兵庫県立明石高等学校八十周年記念誌』に拠る。	久松(勘寿)、お染(小玉)、久作(文雀)、お光(玉五郎)。
一九七一	昭和46	12/4~5	名古屋 中日劇場	新版歌祭文	野崎村の段(相子改め 相生=燕三、相生改め 相生翁=重造・ツレ 勝之輔)。 ※三世竹本相生大夫引退・四世竹本相生大夫襲名披露狂言。	丁稚久松(清十郎)、娘お染(簗助)、親久作(亀松)、娘おみつ(栄三)、油屋お勝(玉昇)。	
一九七一	昭和46	12/7~21	地方公演 (中国・九州・四国)	新版歌祭文	野崎村の段(相子改め 相生=燕三、文字=吉兵衛・ツレ 団二郎)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	丁稚久松(一暢)、娘お染(紋寿)、親久作(作十郎)、娘おみつ(簗助)、油屋お勝(国秀)。	
一九七二	昭和47	1/31	兵庫 伊丹市立文化会館	新版歌祭文	野崎村の段(相生=燕三、文字=吉兵衛・ツレ 団二郎)。 ※伊丹市芸術祭。 ※吉田国秀休演のため、油屋お勝を吉田文雀が代演(『吉田文雀ノート』に拠る)。	丁稚久松(一暢)、娘お染(紋寿)、親久作(作十郎)、娘おみつ(簗助)、油屋お勝(国秀)。	
△	一九七二	昭和47	11/28	尼崎 尼崎文化会館	(新版歌祭文)	野崎村の段。 ※尼ヶ崎太十会に人形出演。 ※文楽協会資料に拠る。	丁稚久松(小玉)、娘お染(一暢)、親久作(作十郎)、娘お光(清十郎)、油屋お勝(小紋)。
△	一九七三	昭和48	1/3	ラジオ放送	(新版歌祭文)	野崎村の段(越路、南部=喜左衛門)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」(1月3日)に拠る。	
一九七三	昭和48	1/13~15・20	朝日座	新版歌祭文	野崎村の段(呂=重造、島=勝平・ツレ 団二郎)。 ※青少年のための文楽教室。	丁稚久松(一暢/小玉)、娘お染(文雀/文昇)、親久作(勘十郎/玉男)、娘おみつ(清十郎/簗助)、母お勝(作十郎/玉昇)。	
△	一九七三	昭和48	3/1~4/15	アメリカ・カナダ	(新版歌祭文)	野崎村の段(呂=重造、島=勝平・団二郎)。 ※『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。役割はサンフランシスコ公演のプログラムに拠るが、日時・会場不明のプログラムに油屋お勝は吉田文昇とある。	丁稚久松(一暢)、娘お染(文雀)、親久作(亀松)、娘お光(清十郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九七三	昭和48	6/1~3	京都 京都府立文化 芸術会館	新版歌祭文 野崎村の段（南部＝吉兵衛・ツレ 勝司）。	丁稚久松（玉松）、娘お染（一暢）、親久作（勘十郎）、娘おみつ（文雀）、母お勝（国秀）。
△	一九七三	昭和48	6/3	ラジオ放送	（新版歌祭文） 野崎村の段（越路）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（6月3日）に拠る。	
	一九七四	昭和49	2/23	兵庫 芦屋市民会館 ルナホール	新版歌祭文 野崎村の段（南部＝燕三・ツレ 清友）。 ※国際大学婦人連盟第18回国際大会開催募金。	丁稚久松（玉昇）、娘お染（文昇）、親久作（勘十郎）、娘おみつ（亀松）、油屋お勝（文雀）。
	一九七四	昭和49	3/25	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文 野崎村の段。 ※野沢勝太郎・吉田玉男・桐竹勘十郎＝指導、吉田玉昇＝補導。 ※文楽研修生発表会。太夫三味線は全員研修生。	久松（研修生）、お染（紋寿）、百姓久作（玉幸）、娘お光（小玉）、母おかつ（一暢）。
	一九七四	昭和49	5/27~7/7	ヨーロッパ	新版歌祭文 野崎村の段（津＝錦糸・ツレ 寛平）。 ※6月3・5日のウィーン公演では、三味線役割は竹沢弥七と竹沢団二郎。	丁稚久松（玉幸）、娘お染（小玉）、親久作（玉男）、娘おみつ（文雀）、油屋お勝（作十郎）。
	一九七四	昭和49	6/11~21	朝日座	新版歌祭文 野崎村の段（嶋＝道八、十九＝吉兵衛・ツレ 清友）。 ※第15回青少年のための文楽教室。	丁稚久松（清十郎）、娘お染（簀助）、親久作（勘十郎）、娘おみつ（亀松）、母お勝（玉五郎）。
△	一九七四	昭和49	7/13	兵庫 明石市民会館	新版歌祭文 野崎村の段（松香＝勝平、南部＝道八・ツレ 清友）。 ※文楽協会資料に拠る。	丁稚久松（一暢）、久三の小助（小玉）、娘お染（紋寿）、親久作（勘十郎）、娘おみつ（亀松）、油屋お勝（文昇）。
	一九七四	昭和49	11/19~27	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文 野崎村の段（中 松香＝勝司、奥 咲＝叶太郎・ツレ 清介//呂＝吉兵衛・ツレ 弥三郎//嶋＝錦糸・ツレ 喜久三郎）。	丁稚久松（小玉）、手代小助（玉松）、娘お染（一暢）、親久作（作十郎）、お光母（玉男/勘十郎）、娘お光（文雀）、後家お勝（和生）。
	一九七四	昭和49	11/19~27	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文 野崎村の段（嶋＝錦糸・ツレ 喜久三郎//呂＝吉兵衛・ツレ 弥三郎//咲＝叶太郎・ツレ 清介）。 ※第6回文楽鑑賞教室（高校生のための文楽教室）。 ※11月19日国鉄・私鉄ストのため文楽公演中止、28日に代替公演（『吉田文雀ノート』に拠る）。	丁稚久松（勘寿）、娘お染（紋寿）、親久作（玉松/玉幸）、お光母（清十郎/簀助/文雀）、娘お光（文昇）、後家お勝（小玉/一暢）。
	一九七五	昭和50	3/1~26	地方公演 （近畿・東 海・関東）	新版歌祭文 野崎村の段（南部＝吉兵衛・ツレ 喜久三郎/松也）。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。 ※3月14・15日吉田簀助休演のため、娘おみつを桐竹一暢が代演（『吉田文雀ノート』に拠る）。	丁稚久松（玉幸）、娘お染（小玉）、親久作（玉男）、娘おみつ（簀助）、母お勝（和生）。
	一九七五	昭和50	4/18~5/1	朝日座	新版歌祭文 野崎村の段（咲＝叶太郎、津＝勝太郎・ツレ 勝司）。	丁稚久松（玉幸）、手代小助（玉松）、娘お染（紋寿）、親久作（玉男）、おみつの母（玉五郎）、娘おみつ（簀助）、油屋お勝（一暢）。
△	一九七五	昭和50	5/2	大阪府立八尾 高等学校	（新版歌祭文） 野崎村。 ※『吉田文雀ノート』に拠る。	久作（文雀）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
△	一九七五	昭和50	6/22~7/6	地方公演 (近畿・中 国・九州)	新版歌祭文 野崎村の段(越路=喜左衛門・ツレ 勝平)。	丁稚久松(玉松)、娘お染(文昇)、親久作 (勘十郎)、娘おみつ(簗助)、母お勝(和 生)。
△	一九七五	昭和50	9/17	ラジオ放送	(新版歌祭文) 野崎村の段(咲)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪 版)」「(9月17日)に拠る。	
	一九七五	昭和50	9/28	宮城 宮城県民会館	新版歌祭文 野崎村の段(津=勝太郎・ツレ 勝司)。	丁稚久松(文昇)、娘お染(紋寿)、親久作 (玉男)、娘おみつ(簗助)、油屋お勝(小 玉)。
	一九七五	昭和50	12/1~2	名古屋 中日劇場	新版歌祭文 野崎村の段(咲=清治、越路=吉兵衛・ツレ 勝平)。	丁稚久松(玉松)、手代小助(小玉)、娘お 染(文昇)、親久作(玉男)、おみつの母 (紋寿)、娘おみつ(簗助)、油屋お勝(作 十郎)。
△	一九七六	昭和51	1/2	ラジオ放送	(新版歌祭文) (津=勝太郎)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪 版)」「(1月1日)に拠る。	
	一九七六	昭和51	3/29	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文 野崎村の段(緑・津国・南司・文字栄=弥三郎・松也・浅造・研修 生)。 ※野沢勝太郎=義太夫・三味線指導、吉田玉男=人形指導。 ※第2期文楽研修生発表会。	久松(玉女)、お染(勘寿)、親久作(玉 松)、娘お光(一暢)、母おかつ(若玉)。
△	一九七六	昭和51	8/30~ 10/9	ヨーロッパ	新版歌祭文 野崎村の段(島=団二郎、南部=道八・ツレ 勝司)。 ※文楽協会資料に拠る。	丁稚久松(一暢)、娘お染(文昇)、親久作 (亀松)、娘おみつ(簗助)、油屋お勝(玉 松)。
△	一九七六	昭和51	11/6	東京 お茶の水女子 大学文教育学 部附属高等学 校・教育大付 属小学校講堂	(新版歌祭文) 野崎村の段(文字=錦糸・ツレ 清介)。 ※学生文楽教室。 ※文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る。	丁稚久松(玉昇)、娘お染(簗助)、親久作 (玉男)、娘おみつ(清十郎)、母お勝(文 雀)。
△	一九七六	昭和51	11/18	ラジオ放送	(新版歌祭文) 野崎村の段(島=道八・清介・清友)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪 版)」「(11月18日)、今尾哲也氏義太夫関係カセットテープ一覽 (『近松研究所紀要』第13号)に拠る。	
△	一九七七	昭和52	5/2	兵庫 甲南女子高等 学校	(新版歌祭文) 野崎村の段(小松=勝平・ツレ 勝司)。 ※文楽教室。 ※文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る。	丁稚久松(小玉/一暢)、娘お染(文雀/簗 助)、親久作(勘十郎/玉男)、娘おみつ (清十郎/亀松)、油屋お勝(玉昇/文 昇)。
	一九七七	昭和52	6/7~18	朝 日 座	新版歌祭文 【午前】野崎村の段(咲=団六、南部=道八・ツレ 八介)。	丁稚久松(小玉)、娘お染(文雀)、親久作 (勘十郎)、娘おみつ(清十郎)、油屋お勝 (玉昇)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
					【午後】野崎村の段（小松＝勝平、十九＝吉兵衛・ツレ 弥三郎／浅造）。 ※高校生青少年のための文楽教室。 ※9月23日テレビ放送。役割不明（「朝日新聞（大阪）」「毎日新聞（大阪）」「読売新聞（大阪）」（9月23日）、NHKクロニクルに拠る）。	丁稚久松（一暢）、娘お染（簀助）、親久作（玉男）、娘おみつ（亀松）、油屋お勝（文昇）。
△	一九七七	昭和52	8/5～7	札幌 札幌市教育文化会館	新版歌祭文 野崎村の段（文字＝道八・ツレ 清友）。 ※8月6日午前に行われた青少年文楽劇場での配役は（島＝勝平・ツレ 勝司）。	丁稚久松（一暢）、娘お染（簀助）、親久作（作十郎）、娘おみつ（亀松）、油屋お勝（文雀）。
△	一九七八	昭和53	6/5	ラジオ放送	（新版歌祭文） 油屋飯碗の段（咲）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（6月5日）に拠る。	
△	一九七八	昭和53	6/20	京都 宮川町歌舞練場	（新版歌祭文） 野崎村の段。 ※斯道60周年記念文楽人形浄瑠璃大会。 ※文楽協会資料に拠る。	丁稚久松（簀太郎）、娘お染（一暢）、親久作（玉昇）、娘おみつ（清十郎）、油屋お勝（勘寿）。
	一九七八	昭和53	10/22	愛知 安城市民会館	新版歌祭文 野崎村の段（南部＝燕三・ツレ 浅造）。	丁稚久松（勘寿）、娘お染（一暢）、親久作（玉男）、娘おみつ（清十郎）、油屋お勝（簀太郎）。
	一九七八	昭和53	11/10～28	地方公演 （関東・東北・中国）	新版歌祭文 野崎村の段（津＝吉兵衛・ツレ 弥三郎）。 ※鶴沢燕太郎休演のため、鶴沢燕二郎代演（文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る）。	丁稚久松（玉女）、娘お染（紋寿）、親久作（勘十郎）、娘おみつ（簀助）、母お勝（簀太郎）。
	一九七九	昭和54	4/14～30	朝日座	新版歌祭文 野崎村の段（相生＝勝平、十九＝重造・ツレ 勝司）。	丁稚久松（勘寿）、娘お染（紋寿）、親久作（作十郎）、娘おみつ（清十郎）、油屋お勝（文昇）。
△	一九七九	昭和54	5/2	姫路 姫路市文化センター大ホール	（新版歌祭文） 野崎村の段（文字＝勝平・ツレ 勝司）。 ※姫路学生文楽教室。 ※文楽協会資料、「朝日新聞（兵庫版）」（5月2日）に拠る。	丁稚久松（文昇）、娘お染（紋寿）、親久作（勘十郎）、娘おみつ（簀助）、油屋お勝（一暢）。
	一九八〇	昭和55	3/7～25	地方公演 （関東・東海・近畿・中国・九州）	新版歌祭文 野崎村の段（小松＝清友、伊達路＝団六・ツレ 燕太郎）。	丁稚久松（玉幸）、娘お染（文雀）、親久作（玉男）、娘おみつ（簀助）、母お勝（和生／簀太郎）。
	一九八〇	昭和55	12/9～19	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文 野崎村の段（文字＝勝平・ツレ 八介//織＝団六・ツレ 団治）。 ※第12回文楽鑑賞教室。	丁稚久松（文雀）、娘お染（簀助）、親久作（勘十郎）、お光母（作十郎）、娘お光（清十郎）、後家お勝（玉男）。
	一九八一	昭和56	6/23	京都 京都府立勤労会館	新版歌祭文 野崎村の段（久作＝英・おみつ＝緑・久松＝三輪・小助＝嶋・祭文＝貴＝叶太郎、織＝団六、文字＝勝平・ツレ 錦弥）。 ※第3回京都文楽教室。	丁稚久松（文昇）、手代小助（亀松）、娘お染（紋寿）、親久作（文雀）、おみつの母（玉五郎）、娘おみつ（簀助）、油屋お勝（作十郎）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九八一	昭和56	6/26~29	京都 京都府立文化 芸術会館	新版歌祭文	野崎村の段（久作一英・おみつ一緑・久松一三輪・小助一嶋・祭文一貴＝叶太郎、織＝団六、文字＝勝平・ツレ 錦弥）。	丁稚久松（文昇）、手代小助（亀松）、娘お染（紋寿）、親久作（文雀）、おみつの母（玉五郎）、娘おみつ（簀助）、油屋お勝（作十郎）。
一九八一	昭和56	9/27~ 10/3	地方公演 （関東・上 越・東北）	新版歌祭文	野崎村の段（貴＝清介、嶋＝清友、越路＝清治・ツレ 清介）。 ※文化庁移動芸術祭。	丁稚久松（一暢）、手代小助（玉松）、娘お染（文昇）、親久作（文雀）、おみつの母（作十郎）、娘おみつ（簀助）、油屋お勝（勘寿）。
△一九八二	昭和57	3/2	東京 豊島区民セン ター文化ホー ル	新版歌祭文	野崎村の段（千歳＝吉之助・ツレ 浅造）。 ※田螺の会。素浄瑠璃。 ※『邦楽と舞踊』第33巻第5号（昭和57年5月）に拠る。	
一九八二	昭和57	8/3~8	地方公演 （九州）	新版歌祭文	野崎村の段（前 嶋＝清友、切 越路＝清治・ツレ 清介）。 ※文化庁主催青少年芸術劇場。	丁稚久松（玉幸）、娘お染（一暢）、親久作（玉男）、娘おみつ（簀助）、油屋お勝（文昇）。
一九八三	昭和58	4/9~25	朝 日 座	新版歌祭文	野崎村の段（中 伊達路＝清友、切 津＝団七・ツレ 燕二郎）。	丁稚久松（一暢）、手代小助（文吾）、娘お染（紋寿）、親久作（玉男）、おみつの母（玉五郎）、娘おみつ（簀助）、油屋お勝（亀松）。
一九八三	昭和58	11/14~29	地方公演 （東北・北海 道・関東）	新版歌祭文	野崎村の段（前 相生＝団六、切 津＝団七・ツレ 錦弥）。	丁稚久松（玉松）、娘お染（紋寿）、親久作（玉男）、娘おみつ（簀助）、油屋お勝（作十郎）。
△一九八三	昭和58	11/30	守口市市民会館	（新版歌祭文）	野崎村の段（前 相生＝団六、切 津＝団七・ツレ 錦弥）。 ※大阪府民劇場。 ※『文楽』第2号に拠る。	丁稚久松（玉松）、娘お染（紋寿）、親久作（玉男）、娘おみつ（簀助）、油屋お勝（作十郎）。
一九八四	昭和59	2/10~12	朝 日 座	新版歌祭文	野崎村の段（切 津＝団七・ツレ 錦弥）。 ※朝日座お名残り、歌舞伎・文楽合同松竹特別公演。	丁稚久松（文雀）、娘お染（簀助）、親久作（勘十郎）、娘おみつ（玉男）、油屋お勝（文昇）。
一九八四	昭和59	8/4~7	地方公演 （東海）	新版歌祭文	野崎村の段（前 呂＝清友、切 越路＝清治・ツレ 清二郎）。 ※文化庁主催青少年芸術劇場。 ※桐竹勘十郎休演のため、親久作を吉田文吾が代演（『文楽』第3号に拠る）。	丁稚久松（玉松）、娘お染（簀助）、親久作（勘十郎）、娘お光（玉男）、油屋お勝（勘寿）。
△一九八四	昭和59	8/8	泉南市立文化 ホール	（新版歌祭文）	野崎村の段（前 呂＝清友、切 越路＝清治・ツレ 清二郎）。 ※大阪府民劇場。 ※桐竹勘十郎休演のため、親久作を吉田文吾が代演（『文楽』第3号に拠る）。 ※『文楽』第3号、『国立文楽劇場十年史』に拠る。	丁稚久松（玉松）、娘お染（簀助）、親久作（勘十郎）、娘お光（玉男）、油屋お勝（勘寿）。
一九八四	昭和59	12/11~23	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文	座摩社の段（小助一松香・久松一貴・法印一三輪・佐四郎一津国・お染一千歳・勘六一織美・弥忠太一文字久・下女+下男一南都・金右衛門一南寿＝清友）、野崎村の段（中 英＝錦弥、前 嶋＝清介、後 小松＝清治・ツレ 清二郎）。	丁稚久松（勘寿）、手代小助（玉松）、鈴木弥忠太（勘緑）、油紋り勘六（若玉）、娘お染（一暢）、親久作（玉幸）、おみつの母（文昇）、娘おみつ（紋寿）、油屋お勝（和生）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九八五	昭和60	2/2	国立文楽劇場	新版歌祭文	(久作一津国・おみつ一織美・お染一南都・久松一文字久・お勝+およし一南寿=勝平・ツレ 清二郎)。 ※第9期文楽研修修了発表会。野沢勝平=賛助出演。	丁稚久松(玉輝)、娘お染(清之助)、親久作(勘寿)、娘おみつ(和生)。
一九八五	昭和60	10/12~29	地方公演 (北陸・東海・関東・東北・北海道・近畿)	新版歌祭文	野崎村の段(文字改メ 住=団六・ツレ 団治)。	丁稚久松(文吾)、娘お染(文昇)、親久作(作十郎)、娘おみつ(玉男)、油屋お勝(和生)。
一九八六	昭和61	3/8~24	地方公演 (近畿・中国・九州・東海・関東)	新版歌祭文	野崎村の段(津=団七・ツレ 清吾)。	丁稚久松(勘寿)、娘お染(紋寿)、親久作(作十郎)、娘おみつ(玉男)、油屋お勝(簗太郎)。
一九八七	昭和62	1/3~25	国立文楽劇場	新版歌祭文	野崎村の段(織=燕三・ツレ 清二郎)。 ※七世竹本源太夫五十回忌追善・鶴沢藤蔵二十三回忌追善狂言。	丁稚久松(玉松)、娘お染(紋寿)、親久作(作十郎)、娘おみつ(簗助)、油屋お勝(亀松)。
一九八七	昭和62	12/8~18	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文	【Aプロ】野崎村の段(十九=団六・ツレ 団治)。	丁稚久松(勘寿)、娘お染(文昇)、親久作(玉男)、娘おみつ(文雀)、後家お勝(一暢)。
					【Bプロ】野崎村の段(伊達路=喜左衛門・ツレ 清吾)。 ※第19回文楽鑑賞教室。	丁稚久松(清之助/玉輝)、娘お染(紋寿)、親久作(作十郎)、娘おみつ(簗助)、後家お勝(和生)。
一九八九	平成1	6/2~22	国立文楽劇場	新版歌祭文	座摩社の段(小助一津駒・お染一貴・久松一三輪・勘六一津国・弥忠太一南都/文字久・お伝一文字栄/呂勢=弥三郎)、野崎村の段(中緑=八介、前 嶋/呂=清友、後 小松=錦弥・ツレ 清太郎)。 ※第6回文楽鑑賞教室。	丁稚久松(文昇)、手代小助(簗太郎/玉女)、鈴木弥忠太(勘緑)、油紋り勘六(玉輝)、娘お染(紋寿/一暢)、親久作(作十郎)、娘お光(簗助)、油屋お勝(和生)。
一九八九	平成1	9/29~ 10/3	地方公演 (近畿・東海・北陸)	新版歌祭文	野崎村の段(中 津梅=八介、奥 織=清治・ツレ 清太郎)。 ※文化庁主催移動芸術祭。	丁稚久松(和生)、手代小助(玉女)、娘お染(紋寿)、親久作(玉男)、娘おみつ(文雀)、油屋お勝(若玉)。
一九八九	平成1	10/7~25	地方公演 (北陸・関東・東北・北海道)	新版歌祭文	野崎村の段(中 津梅=八介、奥 織=清治・ツレ 清太郎)。	丁稚久松(和生)、手代小助(玉女)、娘お染(紋寿)、親久作(玉男)、娘おみつ(文雀)、油屋お勝(若玉)。
△ 一九九〇	平成2	2/3	島之内キリスト教会	(新版歌祭文)	野崎村(津駒=清友)。 ※花形素浄瑠璃の会。 ※『上方芸能』104号に拠る。	
一九九〇	平成2	3/1~27	地方公演 (近畿・東海・関東・九州・中国・四国)	新版歌祭文	野崎村の段(久作一相生・おみつ一津駒・お染一呂勢・久松一文字久・お勝+およし一文字栄=団六・ツレ 団治)。 ※3月20日は「大阪府民劇場」(岸和田市立文化会館ホール)。	丁稚久松(簗太郎)、娘お染(一暢)、親久作(作十郎)、娘おみつ(簗助)、油屋お勝(簗二郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九九〇	平成2	12/6~18	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文	【Aプロ】野崎村の段（十九=団六・ツレ 団市）。	丁稚久松（文吾）、娘お染（文昇）、親久作（玉男）、娘おみつ（文雀）、母お勝（勤寿）。
					【Bプロ】野崎村の段（伊達=喜左衛門・ツレ 喜一郎）。 ※第22回文楽鑑賞教室。	丁稚久松（玉女）、娘お染（一暢）、親久作（作十郎）、娘おみつ（簀助）、母お勝（和生）。
一九九一	平成3	8/23~28	地方公演 （東北・関東）	新版歌祭文	野崎村の段（中 津国=団治、前 相生=八介、後 十九=団六・ツレ 団市）。 ※文化庁主催青少年芸術劇場。 ※竹沢団六休演のため、「野崎村の段・後」を竹沢団治が代演（『国立文楽劇場第45回文楽公演解説書』（平成4年4月）に拠る）。	丁稚久松（勤寿）、手代小助（一暢）、娘お染（紋寿）、親久作（作十郎）、娘おみつ（文雀）、油屋お勝（和生）。
一九九一	平成3	10/27	国立文楽劇場	新版歌祭文	野崎村の段（住=燕三・ツレ 錦弥）。 ※第10回邦楽公演（文楽劇場）・邦楽名曲鑑賞会。	
△一九九二	平成4	2/1	横浜 横浜市教育文化ホール	新版歌祭文	野崎村の段（住=燕三）。 ※人間国宝の共演と芸談。素浄瑠璃。 ※『横浜文楽同好会会報』第22・23号に拠る。	
一九九二	平成4	5/9~24	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文	野崎村の段（伊達=喜左衛門・ツレ 弥三郎）。 ※国立劇場新装開場。	丁稚久松（玉幸）、娘お染（紋寿）、親久作（作十郎）、娘おみつ（簀助）、油屋お勝（玉松）。
一九九二	平成4	8/19~23	地方公演 （東海・北陸・信越）	新版歌祭文	野崎村の段（中 南都=浅造、前 英=富助、後 十九=団七・ツレ 団吾）。 ※文化庁主催青少年芸術劇場。	丁稚久松（玉幸）、手代小助（玉女）、娘お染（文昇）、親久作（玉男）、娘おみつ（文雀）、油屋お勝（和生）。
一九九二	平成4	8/24~29	静岡	新版歌祭文	野崎村の段（中 南都=浅造、前 英=富助、後 十九=団七・ツレ 団吾）。 ※静岡県高校生のための鑑賞教室。 ※日程は『国立文楽劇場第50回文楽公演解説書』（平成5年4月）に拠る。	丁稚久松（玉幸）、手代小助（玉女）、娘お染（文昇）、親久作（玉男）、娘おみつ（文雀）、油屋お勝（和生）。
一九九三	平成5	1/3~25	国立文楽劇場	新版歌祭文	座摩社の段（伊達=清友）、野崎村の段（中 小松=団七、切 住=燕三・ツレ 燕二郎）、油屋の段（中 相生=燕二郎、奥 織=清介）、蔵場の段（お勝=松香・お染=三輪・勤六=文字久・久松=南都・小助+弥忠太=呂勢=八介）。 ※角書「お染/久松」。 ※竹本相生太夫休演のため、「油屋の段・中」を竹本緑太夫が代演。	丁稚久松（一暢）、久三の小助（玉男）、鈴木弥忠太（玉松）、だはの勤六（文吾/玉幸）、娘お染（文昇）、親久作（作十郎）、おみつの母（玉五郎）、娘おみつ（簀助）、油屋お勝（紋寿）、乳母お庄（文雀）。
一九九三	平成5	8/22~26	地方公演 （近畿・四国）	新版歌祭文	野崎村の段（中 久作=一貴・小助=津国・おみつ=呂勢・久松=新=団吾、前 津駒=団七、後 十九=清友・ツレ 団吾）。 ※文化庁主催青少年芸術劇場。	丁稚久松（勤寿）、手代小助（簀太郎）、娘お染（一暢）、親久作（作十郎）、娘おみつ（簀助）、油屋お勝（清之助）。
一九九三	平成5	9/25~ 10/19	地方公演 （近畿・北陸・東海・関東・東北・北海道）	新版歌祭文	野崎村の段（嶋=団六・ツレ 団市）。 ※財団法人文楽協会創立30周年記念。 ※10月19日は「大阪府民劇場」（高槻現代劇場中ホール）。	丁稚久松（玉輝）、娘お染（和生）、親久作（玉幸）、娘おみつ（文昇）、油屋お勝（文司）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九九三	平成5	12/23~24	岡山 倉敷市芸文館	新版歌祭文	野崎村の段（住＝燕三・ツレ 燕二郎）。	丁稚久松（玉女）、娘お染（勘弥）、親久作（玉男）、娘おみつ（簀助）、油屋お勝（玉也）。
一九九四	平成6	2/26~ 3/24	地方公演 （北陸・近畿・関東・東海・中国・九州）	新版歌祭文	野崎村の段（伊達＝錦弥・ツレ 団市／喜一朗）。 ※2月28日は「大阪府民劇場」（守口文化センター）。	丁稚久松（勘弥）、娘お染（和生）、親久作（玉松）、娘おみつ（文昇）、油屋お勝（亀次）。
一九九四	平成6	6/3~24	国立文楽劇場	新版歌祭文	【3~14日・午前】野崎村の段（中 貴＝浅造、前 松香＝弥三郎、後 小松＝富助・ツレ 喜一朗）。	丁稚久松（和生）、手代小助（玉也）、娘お染（紋寿）、親久作（作十郎）、娘おみつ（簀助）、母お勝（勘寿）。
					【3~14日・午後】野崎村の段（中 三輪＝団治、前 緑＝錦弥、後 相生＝清友・ツレ 団市）。	丁稚久松（勘寿）、手代小助（玉女）、娘お染（一暢）、親久作（玉男）、娘おみつ（簀助）、母お勝（清之助）。
					【15~24日・午前】野崎村の段（中 千歳＝清二郎、前 英＝八介、後 呂＝清治・ツレ 清太郎）。 ※吉田文司16~21日休演のため、母お勝を吉田玉英が代演。	丁稚久松（簀太郎）、手代小助（玉幸）、娘お染（文昇）、親久作（文吾）、娘おみつ（文雀）、母お勝（文司）。
					【15~24日・午後】野崎村の段（中 津国＝清二郎、前 津駒＝燕二郎、後 相生＝団七・ツレ 団吾）。 ※第11回文楽鑑賞教室。	丁稚久松（玉女）、手代小助（文吾）、娘お染（文昇）、親久作（玉幸）、娘おみつ（文雀）、母お勝（清之助）。
一九九四	平成6	6/27~28	山口 長門市中央公民館	新版歌祭文	野崎村の段（久作一英・おみつ+お勝一三輪・久松一貴・お染一千歳・およし一新＝団七・ツレ 団吾）。	丁稚久松（玉英）、娘お染（簀太郎）、親久作（玉幸）、娘おみつ（簀助）、油屋お勝（亀次）。
一九九四	平成6	8/26~30	地方公演 （九州・中国）	新版歌祭文	野崎村の段（中 久作一貴・小助一三輪・おみつ一千歳・祭文売一呂勢・久松一新＝清太郎、前 英＝富助、後 十九＝清友・ツレ 団市）。 ※文化庁主催青少年芸術劇場。	丁稚久松（勘寿）、手代小助（玉也）、娘お染（文昇）、親久作（作十郎）、娘おみつ（文雀）、油屋お勝（和生）。
△一九九四	平成6	8/31	京都 八幡市文化センター	新版歌祭文	野崎村の段（中 久作一貴・小助一三輪・おみつ一千歳・祭文売一呂勢・久松一新＝清太郎、前 英＝富助、後 十九＝清友・ツレ 団市）。 ※『国立文楽劇場第58回文楽公演解説書』（平成7年4月）に拠る。	丁稚久松（勘寿）、手代小助（玉也）、娘お染（文昇）、親久作（作十郎）、娘おみつ（文雀）、油屋お勝（和生）。
一九九四	平成6	12/6~18	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文	【Aプロ】野崎村の段（前 呂＝清友、後 十九＝団六・ツレ 団市）。	丁稚久松（清之助）、娘お染（文昇）、親久作（玉男）、娘おみつ（簀助）、母お勝（文司）。
					【Bプロ】野崎村の段（前 相生＝清介、後 伊達＝喜左衛門・ツレ 喜一朗）。 ※第26回文楽鑑賞教室。	丁稚久松（玉輝）、娘お染（一暢）、親久作（作十郎）、娘おみつ（文雀）、母お勝（玉英）。
△一九九五	平成7	8/26~27	広島 厳島神社能舞台	新版歌祭文	野崎村の段（切 住＝錦弥・他）。 ※厳島神社御鎮座千四百年。 ※『国立文楽劇場第62回文楽公演解説書』（平成8年4月）に拠る。	丁稚久松（一暢）、娘お染（文雀）、親久作（玉男）、娘おみつ（簀助）、油屋お勝（玉也）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九九五	平成7	8/29~31	地方公演 (東北)	新版歌祭文	野崎村の段(中 貴=清太郎、前 緑=宗助、後 英=清友・ツレ 喜一朗)。 ※文化庁主催青少年芸術劇場。	丁稚久松(勘寿)、娘お染(紋寿)、親久作(作十郎)、娘おみつ(文昇)、油屋お勝(玉也)。
一九九五	平成7	10/28	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文	野崎村の段(住=団六・ツレ 燕二郎)。 ※第7回文楽素浄瑠璃の会(第90回邦楽公演)。	
一九九六	平成8	8/21~24	地方公演 (北陸・信越・関東)	新版歌祭文	野崎村の段(中 三輪=清太郎、前 松香=八介、後 相生=団七・ツレ 団吾)。 ※文化庁主催青少年芸術劇場。 ※『国立文楽劇場第66回文楽公演解説書』(平成9年4月)掲載の公演表では、8月25日大阪市西区の公演も含む。	丁稚久松(勘寿)、手代小助(玉女)、娘お染(一暢)、親久作(作十郎)、娘おみつ(紋寿)、油屋お勝(玉也)。
一九九七	平成9	8/17~20	地方公演 (近畿・四国)	新版歌祭文	野崎村の段(中 貴=団吾、後 英=八介・ツレ 団市)。 ※文化庁主催青少年芸術劇場。 ※『国立文楽劇場第70回文楽公演解説書』(平成10年4月)掲載の公演表では、8月24日大東市の公演も含む。	丁稚久松(勘寿)、手代小助(清之助)、娘お染(一暢)、親久作(玉幸)、娘おみつ(紋寿)、油屋お勝(亀次)。
一九九八	平成10	8/21~22	地方公演 (北海道)	新版歌祭文	野崎村の段(中 新=清志郎、前 呂勢=清二郎、後 津駒=宗助・ツレ 清志郎)。 ※文化庁主催青少年芸術劇場。	丁稚久松(文司)、手代小助(玉輝)、娘お染(清之助)、親久作(簀太郎)、娘おみつ(和生)、油屋お勝(玉英)。
一九九九	平成11	1/3~24	国立文楽劇場	新版歌祭文	野崎村の段(中 小松=弥三郎、切 住=錦糸・ツレ 団市)。 ※竹沢弥三郎休演のため、「野崎村の段・中」を鶴沢燕二郎が代演。 吉田文昇休演のため、娘おみつを中は吉田清三郎が、切は吉田文雀が代演。	丁稚久松(和生/簀太郎)、久三の小助(玉幸)、娘お染(紋寿)、親久作(玉男)、おみつの母(玉松)、娘おみつ(文昇)、油屋お勝(勘寿)。
一九九九	平成11	8/16~19	地方公演 (北陸・信越・関東)	新版歌祭文	野崎村の段(中 貴=清志郎、前 津駒=清二郎、後 英=宗助・ツレ 清志郎)。 ※文化庁主催芸術体験劇場。 ※『国立文楽劇場第78回文楽公演解説書』(平成12年4月)掲載の公演表では、8月20日滋賀県びわ町の公演も含む。	丁稚久松(簀二郎)、手代小助(玉也)、娘お染(玉英)、親久作(玉女)、娘おみつ(和生)、油屋お勝(亀次)。
一九九九	平成11	9/4~19	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文	野崎村の段(切 住=錦糸・ツレ 清志郎)。	丁稚久松(玉女)、娘お染(簀太郎)、親久作(作十郎)、おみつの母(玉松)、娘おみつ(一暢)、油屋お勝(文昇)。
一九九九	平成11	9/23~ 10/9	地方公演 (近畿・東海・東北・関東・北海道)	新版歌祭文	野崎村の段(中 三輪=団吾、切 十九=清治、切 綱=清二郎・ツレ 清志郎)。 ※角書「お染/久松」。	丁稚久松(玉女)、手代小助(玉志)、娘お染(簀太郎)、親久作(文吾)、娘おみつ(一暢)、油屋お勝(清五郎)。
一九九九	平成11	10/11~14	地方公演 (東北)	新版歌祭文	野崎村の段(中 三輪=団吾、切 十九=清治、切 綱=清二郎・ツレ 清志郎)。 ※角書「お染/久松」。 ※文化庁主催移動芸術祭。 ※日程・地域は『国立文楽劇場第78回文楽公演解説書』(平成12年4月)に拠る。	丁稚久松(玉女)、手代小助(玉志)、娘お染(簀太郎)、親久作(文吾)、娘おみつ(一暢)、油屋お勝(清五郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇〇〇	平成12	2/27~ 3/19	地方公演 (近畿・四 国・九州・中 国・東海・関 東・信越・北 陸)	新版歌祭文	野崎村の段(中 松香=宗助、前 咲=富助、切 住=錦糸・ツレ 清太郎)。 ※角書「お染ノ久松」。	丁稚久松(勘寿)、手代小助(勘緑)、娘お染(和生)、親久作(玉幸)、娘おみつ(文雀)、油屋お勝(亀次ノ篁二郎)。
△	二〇〇〇	平成12	8/21~26	地方公演 (中国・九州)	新版歌祭文 野崎村の段(中 睦=団吾、前 文字久=宗助、後 津駒=八介・ツレ 団吾)。 ※文化庁主催芸術体験劇場。 ※『国立文楽劇場第82回文楽公演解説書』(平成13年4月)に拠る。	丁稚久松(玉輝)、手代小助(幸助)、娘お染(勘弥)、親久作(玉也)、娘おみつ(清之助)、油屋お勝(清五郎)。
△	二〇〇一	平成13	8/20~23	地方公演 (近畿・四 国)	新版歌祭文 野崎村の段(中 睦=清志郎、前 咲甫=清太郎、後 津駒=富助・ツレ 龍幸)。 ※文化庁主催芸術文化総合体験事業。 ※21日の和歌山公演は台風のため11月27日に延期となり、竹本津駒太夫に代り竹本千歳太夫、豊沢富助に代り竹沢宗助、豊沢龍幸に代り鶴沢清志郎が出演。 ※『国立文楽劇場第86回文楽公演解説書』(平成14年4月)に拠る。	丁稚久松(玉志)、手代小助(勘緑)、娘お染(清之助)、親久作(勘寿)、娘おみつ(和生)、油屋お勝(亀次)。
二〇〇五	平成17	5/28	国立文楽劇場	新版歌祭文	野崎村の段(住=錦糸・ツレ 清志郎)。 ※第8回文楽素浄瑠璃の会(文楽劇場第27回邦楽公演)。	
二〇〇五	平成17	9/29~ 10/23	地方公演 (近畿・関 東・東海・中 国・東北・北 海道)	新版歌祭文	野崎村の段(中 新=喜一郎、前 英=清友、切 十九=富助・ツレ 龍幸)。	丁稚久松(文司)、手代小助(幸助)、娘お染(玉英)、親久作(玉也)、娘おみつ(文雀)、母お勝(清三郎)。
二〇〇五	平成17	12/6~18	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文	【Aプロ】野崎村の段(前 英=富助、後 三輪=宗助・ツレ 清道)。 【Bプロ】野崎村の段(前 津駒=燕二郎、後 呂勢=清二郎・ツレ 龍幸)。 ※吉田文吾休演のため、親久作を吉田玉也が代演。※第37回文楽鑑賞教室。	丁稚久松(玉女)、娘お染(和生)、親久作(玉輝)、娘おみつ(紋寿)、母お勝(篁一郎)。 丁稚久松(玉英)、娘お染(清之助)、親久作(文吾)、娘おみつ(勘十郎)、母お勝(勘市)。
二〇〇六	平成18	3/2~24	地方公演 (九州・東 北・関東・中 国・近畿・東 海・北陸)	新版歌祭文	野崎村の段(中 津国=弥三郎、前 千歳=団七、奥 伊達=富助・ツレ 龍幸)。	丁稚久松(勘弥)、手代小助(勘緑)、娘お染(篁二郎)、親久作(紋豊)、娘おみつ(紋寿)、母お勝(一輔)。
二〇〇六	平成18	6/7~22	国立文楽劇場	新版歌祭文	【7~14日・午前】野崎村の段(中 南都=清志郎、前 津駒=清友、後 英=清介・ツレ 清文)。 *「清文」の文は異体字。 【7~14日・午後】野崎村の段(中 新=弥三郎、前 文字久=宗助、後 千歳=清二郎・ツレ 龍幸)。 ※竹沢弥三郎休演のため、「野崎村の段・中」を鶴沢清志郎が代演。	丁稚久松(玉輝)、手代小助(幸助)、娘お染(清三郎)、親久作(紋豊)、娘おみつ(和生)、母お勝(亀次)。 丁稚久松(文司)、手代小助(一輔)、娘お染(清五郎)、親久作(玉女)、娘おみつ(清之助)、母お勝(和右)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
					【15～22日・午前】野崎村の段（中 咲甫＝団吾、前 三輪＝喜一朗、後 文字久＝錦糸・ツレ 清旭）。	丁稚久松（勘緑）、手代小助（玉佳）、娘お染（和右）、親久作（勘十郎）、娘おみつ（玉英）、母お勝（清三郎）。
					【15～22日・午後】野崎村の段（中 始＝清旭、前 呂勢＝燕三、後 松香＝富助・ツレ 龍爾）。 ※第23回文楽鑑賞教室。	丁稚久松（玉志）、手代小助（勘市）、娘お染（簗一郎）、親久作（玉也）、娘おみつ（勘弥）、母お勝（清五郎）。
二〇〇六	平成18	6/24～25	国立文楽劇場	新版歌祭文	野崎村の段（中 睦＝清丈、前 咲甫＝清志郎、後 呂勢＝団吾・ツレ 寛太郎）。 ※第6回文楽若手会（文楽劇場）・国立文楽劇場文楽既成者研修発表会。 *「清丈」の丈は異体字。	丁稚久松（文哉）、手代小助（玉翔）、娘お染（紋秀）、親久作（勘緑）、娘おみつ（一輔）、母お勝（紋臣）。
二〇〇七	平成19	5/7	東京国立劇場大劇場	文楽ごのみ 三番叟・酒屋・野崎村	三番叟、酒屋、野崎村（嶋＝清治・富助・清友・清介・燕三・宗助・清二郎・喜一朗・清志郎・清旭・清丈）。 ※芸の真髓シリーズ第1回「文楽太棹 鶴澤清治」。 ※鶴沢清治＝構成・編曲。 *「清丈」の丈は異体字。	
二〇〇七	平成19	8/25～26	愛媛内子座	新版歌祭文	野崎村の段（前 津駒＝寛治、切 嶋＝清介・ツレ 清丈）。 ※第11回内子座文楽。 *「清丈」の丈は異体字。	丁稚久松（清三郎）、娘お染（文司）、親久作（文吾）、娘おみつ（文雀）、母お勝（亀次）。
二〇〇七	平成19	12/4～16	東京国立劇場小劇場	新版歌祭文	座摩社の段（小助＝津国・金右衛門＝文字栄・法印＝始・久松＝咲甫・お染＝睦・勘六＝相子・佐四郎＝つばさ・弥忠太＝芳穂・下男＋下女＝希＝清志郎）、野崎村の段（中 三輪＝喜一朗、前 津駒＝清友、後 文字久＝錦糸・ツレ 清旭）。 *「芳穂」の芳は異体字。	丁稚久松（文司）、手代小助（勘十郎）、鈴木弥忠太（清三郎）、油紋り勘六（幸助）、娘お染（簗二郎）、親久作（玉也）、おみつの母（玉英）、娘おみつ（清之助）、油屋お勝（亀次）。
二〇〇九	平成21	1/3～25	国立文楽劇場	新版歌祭文	座摩社の段（小助＝松香・法印＝三輪・久松＝南都・お染＝始・勘六＝津国・佐四郎＝呂茂・弥忠太＝靖・金右衛門＝文字栄・下男＋下女＝咲寿＝清友）、野崎村の段（中 英＝団七、切 綱＝清二郎、切 住＝錦糸・ツレ 清丈）、油屋の段（中 文字久＝清志郎、奥 咲＝燕三）。 ※豊竹靖太夫13～18日休演のため、「座摩社の段」弥忠太を豊竹芳穂太夫が代演。竹本文字久太夫休演のため、「油屋の段・中」を豊竹咲甫太夫が代演。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	丁稚久松（玉女）、久三の小助（勘十郎）、鈴木弥忠太（亀次）、だはの勘六（玉也）、娘お染（清十郎）、親久作（和生）、おみつの母（紋豊）、娘おみつ（簗助）、油屋お勝（清三郎）。
二〇〇九	平成21	1/27	国立文楽劇場	新版歌祭文	野崎村の段（前 呂勢＝喜一朗、後 咲甫＝団吾・ツレ 研修生）。 ※第23期文楽研修修了発表会。	娘おみつ（一輔）、娘お染（紋秀）、親久作（玉佳）、丁稚久松（紋吉）、母お勝（玉誉）。
二〇〇九	平成21	12/21～23	福岡博多座	新版歌祭文	野崎村の段（中 芳穂＝喜一朗、切 嶋＝清友・ツレ 清丈）。 ※博多座開場10周年記念。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	丁稚久松（清三郎）、手代小助（簗二郎）、娘お染（清十郎）、親久作（玉女）、娘おみつ（紋寿）、母お勝（文哉）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇一〇	平成22	5/8~24	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文	野崎村の段(中 文字久=富助、切 綱=清二郎、切 住=錦糸・ツレ 龍爾)、油屋の段(中 咲甫=清志郎、切 咲=燕三)、蔵場の段(お 勝一松香・勘六一津国・小助+弥忠太一文字栄・お染一睦・久松一 つばさ=宗助)。	丁稚久松(清十郎)、久三の小助(勘十 郎)、鈴木弥忠太(亀次)、だはの勘六(玉 也)、娘お染(紋寿)、親久作(玉女)、お みつの母(勘寿)、娘おみつ(簗助)、油屋 お勝(勘弥)、乳母お庄(和生)。
二〇一一	平成23	9/25~ 10/17	地方公演 (近畿・東 北・関東・北 陸・信越・東 海)	新版歌祭文	野崎村の段(中 咲甫=清丈、前 三輪=宗助、切 咲=燕三・ツレ 清 尙)。 *「清丈」の丈は異体字。	丁稚久松(一輔)、手代小助(幸助)、娘お 染(簗二郎)、親久作(玉也)、娘おみつ (清十郎)、母お勝(玉勢)。
二〇一二	平成24	2/25~ 3/17	地方公演 (沖縄・九 州・山陽・近 畿・関東・東 海)	新版歌祭文	野崎村の段(中 相子=団吾、前 呂勢=清志郎、切 嶋=富助・ツレ 龍爾)。	娘おみつ(和生)、手代小助(文司)、丁稚 久松(文昇)、親久作(玉女)、娘お染(勘 弥)、母お勝(紋秀)。
二〇一三	平成25	4/6~29	国立文楽劇場	新版歌祭文	野崎村の段(中 文字久=清志郎、切 源=藤蔵、切 住=錦糸・ツレ 寛太郎)。 ※公益財団法人文楽協会創立50周年記念・竹本義太夫300回忌。 ※竹本源太夫休演のため、「野崎村の段・切」を豊竹英太夫が代演。	丁稚久松(簗二郎)、久三の小助(玉志)、 娘お染(簗助)、親久作(玉女)、娘おみつ (勘十郎)、油屋お勝(勘寿)。
二〇一三	平成25	6/22~23	国立文楽劇場	新版歌祭文	野崎村の段(中 靖=龍爾、前 睦=喜一郎、後 相子=清尙・ツレ 清 公)。 ※第13回文楽若手会(文楽劇場)・国立文楽劇場文楽既成者研修発表 会。 ※竹本相子太夫休演のため、「野崎村の段・後」を豊竹靖太夫が代 演。	丁稚久松(勘市)、久三の小助(簗一郎)、 娘お染(簗紫郎)、親久作(幸助)、娘おみ つ(紋臣)、油屋お勝(玉誉)。
二〇一四	平成26	5/31~6/1	名古屋 中日劇場	新版歌祭文	野崎村の段(中 咲甫=清志郎、前 文字久=藤蔵、後 津駒=寛治・ツ レ 寛太郎)。 ※第2回中日文楽。	丁稚久松(勘弥)、久三の小助(玉佳)、娘 お染(簗助)、親久作(玉女)、娘おみつ (勘十郎)、油屋お勝(簗一郎)。
二〇一五	平成27	5/9~25	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文	野崎村の段(中 芳穂=清尙、前 呂勢=清治、奥 津駒=寛治・ツレ 寛太郎)。 *「芳穂」の芳は異体字。	丁稚久松(清五郎)、手代小助(文哉/簗紫 郎)、娘お染(一輔)、親久作(文司)、娘 おみつ(勘弥)、母お勝(紋寿)。
二〇一五	平成27	6/20~21	国立文楽劇場	新版歌祭文	野崎村の段(中 咲寿=清公、前 希=龍爾、後 芳穂=清丈・ツレ 清 允・燕二郎)。 ※第15回文楽若手会(文楽劇場)・国立文楽劇場第15回文楽既成者研 修発表会。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	丁稚久松(玉勢/文哉)、手代小助(玉 翔)、娘お染(簗紫郎/紋秀)、親久作(勘 市)、娘おみつ(簗一郎)、母お勝(紋 吉)。
二〇一五	平成27	6/27~28	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文	野崎村の段(中 咲寿=清公、前 希=龍爾、後 芳穂=清丈・ツレ 燕 二郎/清允)。 ※第3回文楽若手会・国立劇場第3回文楽既成者研修発表会。 *「清丈」の丈、「芳穂」の芳は異体字。	丁稚久松(文哉/玉勢)、手代小助(玉 翔)、娘お染(紋秀/簗紫郎)、親久作(勘 市)、娘おみつ(簗一郎)、母お勝(紋 吉)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇一六	平成28	1/3~26	国立文楽劇場	新版歌祭文	座摩社の段（睦＝宗助）、野崎村の段（中 靖＝錦糸、前 呂勢＝清治、切 咲＝燕三・清公）。 ※桐竹紋寿1月19～26日休演のため、油屋お勝を桐竹勘寿が代演。	丁稚久松（勘弥）、久三の小助（簗二郎）、鈴木弥忠太（玉勢）、だはの勘六（勘市）、娘お染（清十郎）、親久作（玉也）、娘おみつ（和生）、油屋お勝（紋寿）。
二〇一七	平成29	2/23	国立文楽劇場 小ホール	新版歌祭文	野崎村の段（希＝清志郎・ツレ 清允）。 ※第8回若手素浄瑠璃の会（文楽劇場）・国立文楽劇場文楽既成者研修発表会。	
二〇一八	平成30	7/21~8/7	国立文楽劇場	新版歌祭文	野崎村の段（中 文字久＝清志郎、前 津駒＝寛治、後 三輪＝団七・ツレ 清公）。	丁稚久松（文昇）、久三の小助（簗一郎）、娘お染（一輔）、親久作（勘寿）、娘おみつ（清十郎）、油屋お勝（簗助）。
二〇一八	平成30	9/29~ 10/18	地方公演 （東海・九州・中国・関東・信越・北海道・東北）	新版歌祭文	野崎村の段（中 希＝清旭、前 三輪＝団吾、後 文字久＝団七・ツレ 友之助）。	丁稚久松（清五郎）、手代小助（簗一郎）、娘お染（勘弥）、親久作（文司）、娘おみつ（清十郎）、母お勝（勘寿）。
二〇一九	平成31	3/2~24	地方公演 （近畿・九州・中国・関東・東海）	新版歌祭文	野崎村の段（中 碩＝富助、前 小住＝勝平、後 靖＝錦糸・ツレ 寛太郎）。	丁稚久松（玉佳）、手代小助（紋臣）、娘お染（一輔）、親久作（玉也）、娘おみつ（清十郎）、母お勝（勘寿）。
二〇二〇	令和2	2/8~24	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文	野崎村の段（中 睦＝勝平、前 織＝清治、切 咲＝燕三・ツレ 燕二郎）。	丁稚久松（玉助／玉志）、手代小助（紋秀）、娘お染（清五郎／簗一郎）、親久作（勘寿）、娘お光（簗二郎）、母お勝（紋臣）。
二〇二〇	令和2	6/20~21	国立文楽劇場	新版歌祭文	※第20回文楽若手会（文楽劇場）・国立文楽劇場第20回文楽既成者研修発表会。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公演中止。	
二〇二〇	令和2	6/27~28	東京 国立劇場 小劇場	新版歌祭文	※第8回文楽若手会・国立劇場第8回文楽既成者研修発表会。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公演中止。	
二〇二〇	令和2	10/31~ 11/23	国立文楽劇場	新版歌祭文	野崎村の段（中 睦＝勝平、前 呂勢＝清治、切 咲＝燕三・ツレ 燕二郎）。 ※吉田簗助11月6～7日休演のため、油屋お勝を桐竹勘十郎が代演。	丁稚久松（文昇）、久三の小助（簗紫郎）、娘お染（一輔）、親久作（和生）、おみつの母（勘寿）、娘おみつ（清十郎）、油屋お勝（簗助）。
二〇二一	令和3	8/21	国立文楽劇場	新版歌祭文	油屋飯椀の段（咲＝燕三）。 ※第24回文楽素浄瑠璃の会（文楽劇場第43回邦楽公演）。	